

# 第2期 飯島町スポーツ推進計画

////////////////////  
**スポーツで つなげ！ 人の輪(和) 地域の輪(和)**  
////////////////////



飯島町教育委員会

平成30年3月

## 第2期 飯島町スポーツ推進計画 目次

第1章	計画策定の基本的考え方	3
第2章	計画の基本理念	4
第3章	計画の基本目標と施策の展開	5
	<b>基本目標1</b> 生涯を通じたスポーツ活動支援体制の充実	5
	(1) 幼児期の支援体制	5
	(2) 小学生への支援体制	6
	(3) 中学生への支援体制	7
	(4) 若者への支援体制	8
	(5) 成人への支援体制	9
	(6) 高齢者への支援体制	11
	(7) 安全の確保	12
	<b>基本目標2</b> スポーツ実施率の向上	13
	(1) スポーツ実施率の向上	13
	(2) スポーツ種目と町スポーツ大会	14
	(3) 体育館開放日	16
	<b>基本目標3</b> 住民が主体的に参画する環境の整備	18
	(1) 総合型スポーツクラブ	18
	(2) 愛好者団体	19
	(3) 公民館	19
	(4) 一般町民・団体	20
	(5) 施設整備	20
	<b>基本目標4</b> 競技力の向上	22
	(1) 選手強化・指導者育成	22
	(2) 少年スポーツ	23
	<b>基本目標5</b> 地域の元気力アップ	26
	(1) 地域の一体感や活力の醸成	26
	(2) 地域間交流の促進	27
	(3) 健康長寿社会の実現	28
第4章	施策の推進体制	29
第5章	計画の体系表	31
資料1	計画策定経過	資料1-1
資料2	計画策定委員会	資料2-1
資料3	平成28年「飯島町生涯スポーツ調査」結果	資料3-1
	<全体>	資料3-1
	<年代別>	資料3-8

# 第1章 計画策定の基本的考え方

## 1 計画策定の趣旨

本計画は、飯島町で誰もがスポーツに親しむことができる「生涯スポーツ」を実現するために策定する計画です。平成25年から平成29年を対象とした前計画を見直し、次期5年間にスポーツ振興を図っていくための指針とします。

平成23年6月、国の「スポーツ振興法」が半世紀ぶりに全面改訂され、「スポーツ基本法」が成立しました。同法は、時代とともに変化してきたスポーツの社会的役割をとらえ直し、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であり、全ての国民がその自発性の下に、各々の関心、適性等に応じて、安全かつ公正な環境の下で日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画することのできる機会が確保されなければならない。」と述べています。このスポーツ基本法に基づき、平成24年3月、国は「スポーツ基本計画」を策定し、さらに平成29年3月には第2期スポーツ基本計画を策定しました。

もとより、スポーツは、心身の健康の保持増進に重要な役割を果たし、幸福で豊かな生活や健康長寿社会の実現に欠かせないものです。スポーツ活動の推進は、人と人、地域と地域の交流を促し、地域の一体感や活力の醸成に寄与することから、まちづくりを進める上できわめて有効といえます。町民が生涯にわたってスポーツに親しみ、主体的に参画するための環境整備をさらに進める必要があります。

そのため、飯島町のスポーツをめぐる現状・課題を整理し、今後の施策を明らかにするため本計画を策定します。

## 2 計画の位置づけ

「飯島町スポーツ推進計画」は、国の「スポーツ基本計画」や「長野県スポーツ推進計画」を参酌した独自の計画です。「飯島町第5次総合計画」、「飯島町教育大綱」及び「飯島町生涯学習推進計画パート5」に対応する体育・スポーツ分野の個別計画として位置づけ、今後のスポーツ推進のために必要な具体的施策を推進するための計画とします。

## 3 計画の期間

本計画は、平成30年度（2018年度）からの5年間とします。なお、期間内であっても、新たに盛り込むべき事項が生じた場合などには必要に応じて計画を見直します。

## 4 本計画における「スポーツ」の定義

本計画では「スポーツ」を広義にとらえ、競技スポーツだけでなく、散歩や体操、レクリエーション、幼児の遊びなど、身体を使った運動の全てを含むものとします。

## 第2章 計画の基本理念

ますます進む少子高齢化や情報化社会の進展、景気の低迷といった社会の変化や、個人の価値観・趣味の多様化など、ライフスタイルは第1期飯島町スポーツ推進計画策定時より変化し、その影響は飯島町全体のスポーツ活動にも現れています。その一方、人間関係の希薄化や競争激化社会にあって、スポーツの価値や必要性が見直され、重視されている面があります。

そこで、本計画では次の4つの基本理念を掲げます。

- ① 地域の次代を担っていく子どもたちが、スポーツを通じて規範意識を身につけ、他者との協働を学び、心身ともに健全に成長する町をつくる
- ② 町民一人一人がその自発性の下に、年齢や性別、障がいの有無を問わず、それぞれの関心や適性に応じて日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しむ町をつくる
- ③ スポーツを通じて健康を保持増進し、活力に満ちた長寿の町をつくる
- ④ スポーツを通じて人と人が深い絆でつながり、主体的な協働により地域を発展させる町をつくる

スポーツ活動は人の暮らしに潤いをもたらす、体力だけでなく人間性も向上させることができます。そうした個人がチームや家族や地域でつながり合い、自らの足で立ちながら他者と支え合う関係が広がります。人と人の和が生まれ、つながった輪はやがて地域の和を生み、さらに地域の輪を広げて元気なまちづくりにつなげることができます。

////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////

**スポーツで つながえ！ 人の輪(和) 地域の輪(和)**

////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////////

心が通い合い、明るい笑顔があふれ、未来へ向かう活力ある飯島町の創造に向けて、この言葉を旗印に本計画を進めることとします。

## 第3章 計画の基本目標と施策の展開

### 基本目標 1 生涯を通じたスポーツ活動支援体制の充実

#### ◎目指す5年後の姿

町民だれもが、年齢、体力、目的に応じて安全にスポーツに親しむための支援体制が充実し、生涯スポーツ社会の意識が高まっていることを目標とします。

#### (1) 幼児期の支援体制

##### 現状・課題

- 幼児が屋外で多くの友達と関わりながら遊ぶことや、親子で体を動かすことが少なくなっています。
- 保育園では「柳沢運動プログラム」など普段から体を動かすことの楽しさを感じさせる意欲的な取り組みを続けており、園児の運動能力は向上してきています。
- 飯島町総合型スポーツクラブ（平成25年1月設立）は、設立以前の準備段階から保育園に出向いて教室を開いています。
- 未就園児親子が集っている子育て支援センターは、平成29年4月に文化館東側に新築され、以前より広くなった施設でリトミックや伝承遊びなど多くの体を動かす催しが行われ、少子化の中でも参加者が増加しています。

##### 施策の展開

- 各機関の取り組み拡充と連携・支援
  - ・ 保育園・子育て支援センター・総合型スポーツクラブが、それぞれの取り組みをいっそう拡充して運動好きの子どもを育てられるよう、事業の実施・情報交換・連携・支援に努めます。
  - ・ 幼児期から運動・スポーツに親しむ機会を提供し、運動嫌いの子どもを減らす取り組みに努めます。
- 幼児等親子向け教室の開催
  - ・ 幼児や小学低学年の親子向けに、運動遊びや野外体験教室を開催します。
- 保育士等の研修参加促進
  - ・ 保育士や指導者に、長野県などが主催する子どもの運動能力向上や伝承遊びなどの研修会への参加を促します。

## (2) 小学生への支援体制

### 現状・課題

- スポーツに親しむ子とそうでない子の二極化がみられます。
- 子どもたちに体力向上の意識を持たせるとともに運動の楽しさを味わわせ、運動嫌いをなくす視点が求められています。
- 小学校では担任がすべての教科を指導することも多いため、専門性のある指導が十分に行われていない場合があります。
- 金銭面で親の負担が大きいことや、送迎が難しい家庭もあり、子どもが望むスポーツクラブなどに通えないことがあります。

### 施策の展開

- 教員の指導力強化
  - ・ 体育の授業が充実するよう、小学校に長野県体育センターなどの研修会の情報を提供し、教員の参加を促します。
  - ・ 長野県体育センターへ専門員の派遣事業を活用し、専門性のある指導を行うよう努めます。
  - ・ 教員が常によりよい指導方法を追求し実践することで、運動嫌いの子どもの減少につなげます。
  - ・ 障がいの有無を含め、一人一人の児童の状況・適性等に応じた指導を行います。
- 少年スポーツ団体・総合型スポーツクラブへの加入促進
  - ・ 町内の少年スポーツ団体や総合型スポーツクラブでは、身近で安価にスポーツに取り組むことができます。これらの団体への加入促進のため、町広報紙や町ホームページへの情報掲載に加え、SNS 等での情報発信など、周知手段の拡充を図ります。
  - ・ 総合型スポーツクラブは、プロサッカー選手によるサッカー教室を開催しており、広報等の支援を継続します。
- 「子ども広場」での運動支援
  - ・ 放課後の子どもたちの居場所づくりのために各地区で実施している「子ども広場」などで、楽しく運動に取り組めるよう支援します。
- 余暇におけるスポーツ活動の環境づくり
  - ・ 運動・スポーツに親しむ機会を提供し、運動嫌いの子どもの減らす取り組みに努めます。
- 指導者研修会の開催
  - ・ 少年スポーツ団体の指導者が受講できる研修会を開催します。

### (3) 中学生への支援体制

#### 現状・課題

- スポーツに親しむ子とそうでない子の二極化が進んでいます。
- 運動部の種目が限られています。また、部によって人数の偏りがあります。
- 少子化による部活動の存続、顧問の不足などの問題があります。
- 部活動と社会体育は、学校・部活動の指導者・社会体育の指導者・保護者が協力し合い、良好な連携がされています。
- 武道必修化に伴い、安全で充実した指導が求められています。

#### 施策の展開

- 体育授業の充実
  - ・ 最新のスポーツ理論やスポーツ医学、指導法を体育の授業に反映させることができるよう、教員の研修受講を促進します。
  - ・ 武道の指導に当たっては、長野県体育センターでの研修を積極的に受講し、安全で効果的な指導を目指します。
  - ・ 障がいの有無を含め、一人一人の生徒の状況・適性等を考慮した指導を行います。
- 部活動と社会体育活動の充実
  - ・ 部活動の求めにより、地域の指導者を紹介します。
  - ・ 「部活動指導委員制度」について研究し導入を検討します。
  - ・ 社会体育の活動については、少年スポーツ団体と同様に体育施設の使用料と照明料を免除するなど、便宜を図ります。
  - ・ 子どもたちが主役である視点から、部活動の指導者・社会体育の指導者・保護者のそれぞれが共通の目的を持てるよう、意識の統一を図ります。
  - ・ 部活動にない種目については、地域のスポーツ団体等が受け皿になって取り組めるよう連携を図ります。
- 余暇におけるスポーツ活動の環境づくり
  - ・ 部活動や社会体育以外にも、中学生が余暇に仲間とともに気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりを進めます。
  - ・ 運動・スポーツに親しむ機会を提供し、運動嫌いの子どもの減らす取り組みに努めます。

#### (4) 若者への支援体制

##### 現状・課題

- 運動部に所属していない高校生・大学生は、授業以外で運動する機会があまりありません。
- 高校・大学などで運動部に所属している割合は中学生より低い傾向にあります。
- 「するスポーツ」だけでなく、「観るスポーツ」「支えるスポーツ」を含めた生涯スポーツの意識付けを促す年代と思われます。

##### 施策の展開

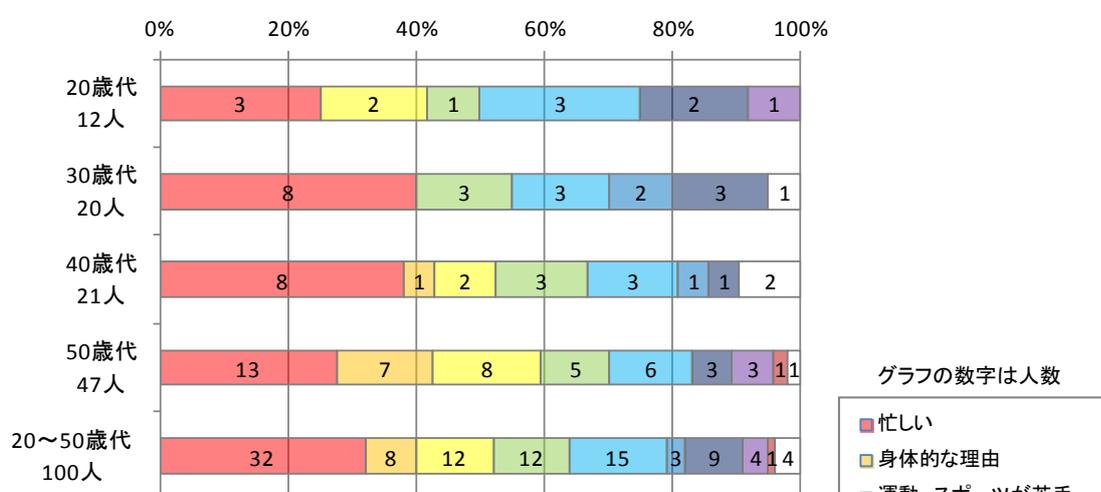
- 気軽なスポーツ活動の環境づくり
  - ・ 未成年の若者が、余暇に仲間とともに気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりを進めます。
  - ・ 町スポーツ団体について、町広報誌・ケーブルテレビ・SNSなどを活用して情報提供します。
- 「する」「観る」「支える」スポーツの魅力発信
  - ・ 町広報誌やケーブルテレビなどを活用して、「する」「観る」「支える」スポーツの魅力を伝える取り組みを進めます。

## (5) 成人への支援体制

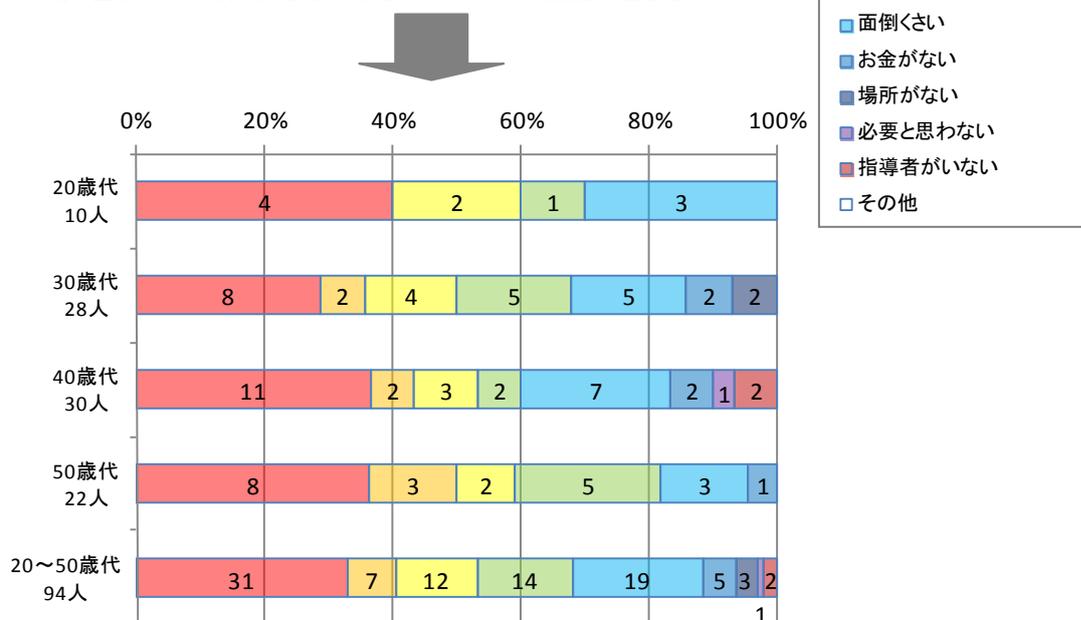
### 現状・課題

- 平成 28 年に町民を対象に実施した調査で、20～50 歳代は、「スポーツをほとんどしない、できない理由」として「多忙」を挙げる率が 33%を占めています（20 代 40%、30 代 29%、40 代 37%、50 代 36%）。平成 22 年の調査結果の 32%とほぼ同じで、スポーツの価値や必要性を理解していても、働き盛りで行動に移せない状況にあると思われます。

スポーツをしない、できない理由（20～50 歳代）



※平成 22 年「飯島町生涯スポーツ調査」による(対象者 1,000 人(無作為抽出)、回答者 447 人)



※平成 28 年「飯島町生涯スポーツ調査」による(対象者 1,000 人(無作為抽出)、回答者 369 人)

- 同調査で「運動・スポーツをほとんどしない」と回答した人でも半数の人は「運動・スポーツをするのが好き」と答えたものの、45%は「嫌い」と答えています。また、「面倒、必要と思わない」という回答が18%で、特に20代に多くなっています。
- 同調査で「一緒にする仲間がない」と答えた率は15%で、特に50代に多くなっています。

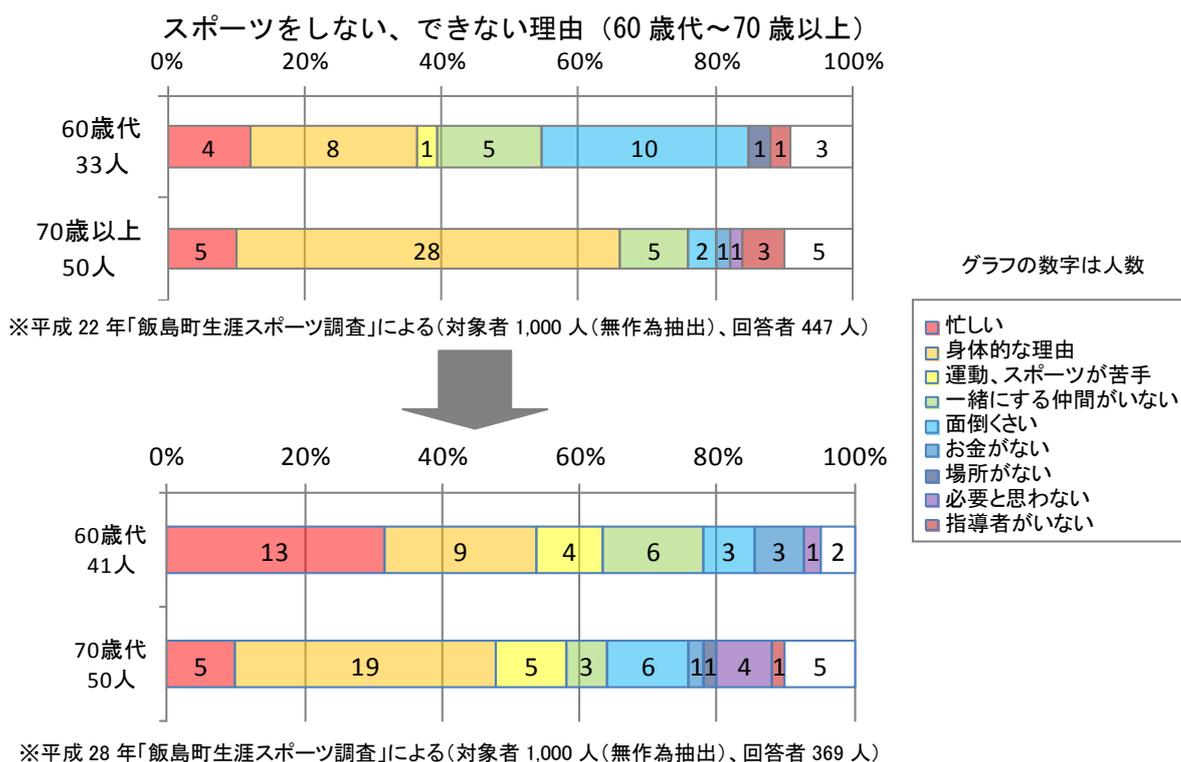
### 施策の展開

- 参加しやすいスポーツイベントの開催
  - ・ だれもが気軽に楽しめ、参加しやすいスポーツイベントや講座を開催します。
- 「する」「観る」「支える」スポーツの魅力発信
  - ・ 町広報紙やケーブルテレビを活用し、「するスポーツ」だけでなく、「観るスポーツ」「支えるスポーツ」の魅力を発信し、スポーツの楽しさはもちろん、健康づくりに役立つことや、やりがい・生きがいを感じられること、地域に元気をもたらす効果があることの認識を広めます。
- 気軽なスポーツ活動の環境づくり
  - ・ 家族や友人とともに、余暇に気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりを進めます。
  - ・ 町スポーツ団体について、町広報誌・ケーブルテレビ・SNSなどを活用して情報提供します。

## (6) 高齢者への支援体制

### 現状・課題

- 町民を対象にした調査（平成 28 年）によると、60 歳代の「スポーツをしない、できない理由」は「多忙」を挙げる率が 32%を占め、「身体的な理由」が 22%となっています。また「嫌い」「面倒」「必要ない」は 33%、「一緒にする仲間がいない」は 15%となっています。70 歳以上になると「身体的な理由」を挙げる率が 56%を占め、年齢や健康状態に応じた運動に取り組むきっかけづくりが求められています。



- 誰でもいつでも取り組める運動についての情報提供や、運動に取り組むきっかけづくりが求められています。
- 近年、区や耕地・自治会の高齢者クラブなどで、生涯学習センターの「生き粋出前講座」を利用した囲碁ボール教室が行われ定着しています。また、ウォーキングに加えてノルディックウォークの愛好者も多く関心も高まっています。

### 施策の展開

- 健康づくりに役立つ運動の情報提供
  - ・ 町広報誌・ケーブルテレビ・SNS などを活用し、適度な運動が健康づくりに役立つことを情報提供します。
- 高齢者も参加できるスポーツイベントの開催
  - ・ 「いいちゃんウォーク」のほか、高齢者も気軽に参加できるスポーツイベントや

講座を開き、参加を促します。

■ 気軽なスポーツ活動の環境づくり

- ・ 家族や友人とともに、余暇に気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりを進めます。

■ ニュースポーツの普及促進

- ・ 「囲碁ボール」をはじめとするニュースポーツや、ノルディックウォークの普及促進に取り組みます。

## (7) 安全の確保

### 現状・課題

- 近年町内でスポーツによる大きな事故は起きていませんが、怪我は日常的に起きています。
- 体育館や運動場の設備・器具を日常的に点検・確認し、安全に使用できる状態を保つことが必要です。
- 万一来備え、自動体外式除細動機（AED）を全ての体育館に配置しています。運動場では、上記体育館や周辺のAEDを使用することになりますが、田切野球場と本郷運動場の最寄りには備えられていません。
- 平成29年度に全ての体育館において、耐震補強工事を実施しました。

### 施策の展開

- 施設・備品の適切な管理
  - ・ 施設や備品について、破損や老朽化の度合いを日常的に点検するとともに、使用団体とこまめに連絡を取り合い、適切な管理・更新に努めることで環境を整備し安全性の向上に努めます。
- 事故・怪我予防の講習会の開催
  - ・ スポーツ連絡協議会主催の研修会として、スポーツ指導者や一般町民に呼びかけて、事故や怪我の予防に関する最新の知見を学ぶ機会を設けます。
  - ・ 各種スポーツ大会などに合わせ、有資格者の協力を得て怪我の予防やテーピング方法などのレクチャーを受ける機会を設けます。
- AED配置場所の周知と救急救命講習
  - ・ AEDの配置場所を周知します。
  - ・ 救急救命講習の機会を設けるとともに、各団体等にもそれぞれで講習会を催して多くのメンバーが受講できるよう勧めます。
- スポーツ安全保険の周知
  - ・ スポーツ安全保険について周知を図ります。

## 基本目標 2 スポーツ実施率の向上

### ◎目指す 5 年後の姿

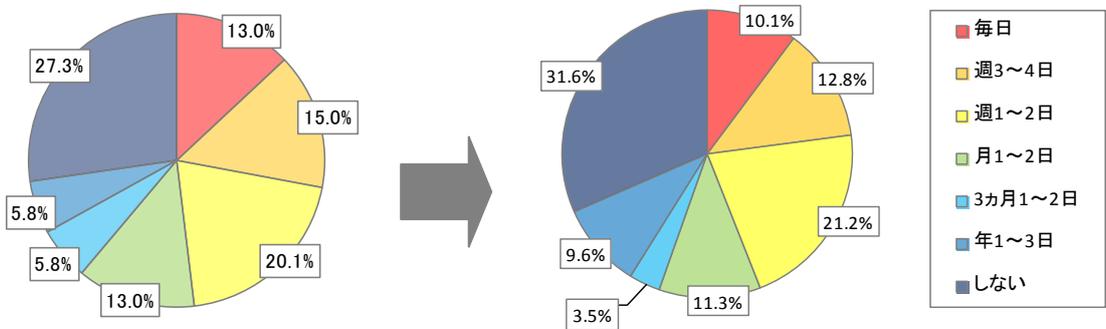
週 1 回以上スポーツする町民が 65%、週 3 回以上の町民が 35%以上を占め、1 年に 1 度もしない町民が 10%以下となり、町スポーツ大会の参加者が増加していることを目標とします。

### (1) スポーツ実施率の向上

#### 現状・課題

- 町民を対象にした調査（平成 28 年）によると、週 1 回以上スポーツに親しむ成人の割合は 44.1%で、平成 22 年に実施した前回調査の 46.2%を下回っています。週 3 回以上の町民についても 22.9%で、前回調査の 25.9%を下回っています。
- 国の基本計画では「成人の週 1 回以上のスポーツ実施率が 3 人に 2 人(65%程度)、週 3 回以上のスポーツ実施率が 3 人に 1 人程度 (30%程度) となることを目標とする」とあり、この目標には届いていません。
- 逆に、スポーツをほとんどしないと答えた成人の割合は 31.6%と、前回調査の 27.3%を上回っており、この割合を下げる方策が求められます。

飯島町民のスポーツ実施率の変化（20 歳以上）



※平成 22 年「飯島町生涯スポーツ調査」による  
(対象者 1,000 人(無作為抽出)、回答者 447 人)

※平成 28 年「飯島町生涯スポーツ調査」による  
(対象者 1,000 人(無作為抽出)、回答者 369 人)

#### 施策の展開

- 参加しやすいスポーツイベント・講座の開催
  - ・ だれもが気軽に楽しめ、参加しやすいスポーツイベント・講座を開催します。
  - ・ そうしたイベントを通じ、自主的で継続的なスポーツ活動につなげる取り組みを進めます。
- ニュースポーツの普及
  - ・ だれもが気軽に楽しく取り組み、体を動かす楽しさを感じられるきっかけとなる

ようなニュースポーツの研究と普及を進めます。

■ 「体育館開放日」の利用促進

- ・ 「体育館開放日」について、町広報誌・ケーブルテレビ・SNS などを活用し、利用を促します。(詳しくは【(3) 体育館開放日】参照)

■ スポーツ調査の実施

- ・ 町内在住の 1,000 人(人口の約 10%) を対象にしたスポーツ調査を実施し、調査結果を分析して施策に反映させます。

(2) スポーツ種目と町スポーツ大会

現状・課題

- 平成 29 年度には、下表のとおり、飯島町スポーツ大会(飯島町スポーツ連絡協議会主催)として 15 種目、22 大会が開催されました。

平成 29 年度開催の飯島町スポーツ大会

種目	大会名
野球	少年野球大会
ソフトボール	ソフトボール大会
バレーボール	一般バレーボール大会
	少年少女バレーボール大会
ソフトバレーボール	ソフトバレーボール大会
バスケットボール	バスケットボール大会
	少年バスケットボール大会
サッカー	親子サッカー大会
	ミニサッカー大会
ソフトテニス	ソフトテニス大会
バドミントン	男女ダブルスバドミントン大会
	混合ダブルスバドミントン大会
	ジュニアバドミントン大会
卓球	卓球大会
マレットゴルフ	町民高齢者親睦マレットゴルフ大会
	ファミリーマレットゴルフ大会
	さわやかマレットゴルフ大会
ゲートボール	ゲートボール大会
柔道	柔道大会
剣道	剣道大会
弓道	弓道大会
ウォーキング	いいちゃんウォーク

- 競技人口の減少や高齢化などにより、開催中止となる大会があります。
- また、少人数で気軽にできるという面から、主流となるスポーツ種目にも変化があります。
- 町大会が開催されている種目以外にも、フットサル・太極拳・健康体操・社交ダンス・キッズダンスなどの愛好者団体がスポーツ連絡協議会に加入して活動しています。
- 個人で取り組むスポーツで愛好者が多い種目には、ゴルフ・スキー・スノーボード・水泳・登山などがあります。
- 町民を対象にした直近の調査（平成 28 年）によると、「今後取り組んでみたい運動」の問いに、30 歳代以上では各年代で「ウォーキング」を挙げる率が最も高く、高齢になるほどその割合が増えています。30～50 歳代の男女で「水泳」、女性を中心に「ヨガ・ティラピス」、60 歳代では「登山・トレッキング」、70 歳代では「マレットゴルフ」の人气が高く、全体として個人で取り組む運動への志向が高まっています。また、ボルタリング・パラグライダー・トレイルランニング・サイクリング・スラックラインなどのアウトドアスポーツが挙げられ、町の施策であるアウトドア構想と連携した取り組みが望まれます。
- 個人で取り組む運動であっても、意欲を高めたり、新たな仲間を得たり、知識や技術を習得したりする機会を設けることが求められています。
- 施設の制約などから、町内ではできないスポーツ種目があります。水泳は町内では夏季のみにでき、スケートなどの氷上競技は現在できる状況にありません。
- スポーツ種目の充実のために施設を新設したり大きく改修したりすることは難しいのが現状です。

#### **施策の展開**

- 町スポーツ大会の充実
  - ・ウォーキングの愛好者をはじめ、だれもが気軽に参加できる催しとして「いいちゃんウォーク」を開催していますが、スタート前に短時間の講習を行うなど内容をさらに充実させたイベントに進展させます。
  - ・スポーツ連絡協議会の各競技部を中心に、それぞれが所管する町スポーツ大会の内容・方法を再検討し、より多くの町民の参加につなげます。
- 大会開催情報の提供
  - ・町の広報紙やホームページを利用するほか、大会開催情報の提供方法を工夫します。
- 新たなスポーツ大会の創設
  - ・町民の声に耳を傾け、絶えず新たな町スポーツ大会の開催を検討します。
  - ・だれもが無理なく取り組めるニュースポーツの普及を図るため、「囲碁ボール大

会」をはじめ、各種のニュースポーツに親しむイベントを開催します。

- ・ 総合型スポーツクラブが主催する各種のスポーツ大会について、会場の確保や使用料の減免について便宜を図ります。

■ 手軽なニュースポーツ導入の研究

- ・ 全国では、施設の改修や高額な用具の購入が不要な新たなスポーツを普及させる動きもあることから、研究を進めます。
- ・ 平成 29 年度生涯学習センター講座として開催した「スラックライン講座」では計 12 回の講座にのべ 720 人もの参加があり、新たなニュースポーツとして今後の取り組みを拡充し普及していきます。

■ 現在ある施設を十分に活用するイベントや講座

- ・ 町内にウォーキングコースを設定する等、地元の資源を活かした生涯スポーツ普及を研究し取り組みます。

■ アウトドアスポーツの普及

- ・ 千人塚公園を拠点とした、カヌー・ヨットなどのアウトドアスポーツだけでなく、近年人気の高まっている、ボルタリング・パラグライダー・トレイルランニング・サイクリング・スラックラインなどのアウトドアスポーツの普及を研究し取り組みます。
- ・ 町の施策であるアウトドア構想の展開に沿うよう、アウトドアスポーツの普及に取り組みます。

(3) 体育館開放日

現状・課題

- スポーツを楽しむための場所提供と、ニュースポーツの普及及び体力づくりを目的として、毎月 1 回（原則として第 2 土曜日）、4 地区の体育館（飯島体育館・田切体育館・本郷体育館・B&G 海洋センター体育館）で体育館を無料開放しています。
- 年間約 300 人の利用者があり、それぞれ希望の種目を楽しむほか、飯島町スポーツ推進委員がニュースポーツの指導を行っています。

「体育館開放日」利用者数(H25～H29)

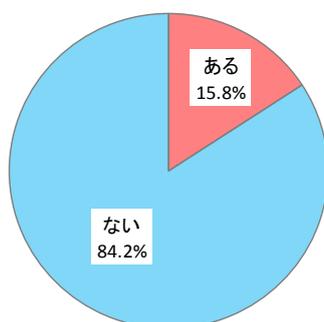
単位：人

施設名	H25	H26	H27	H28	H29	計
飯島体育館	171	119	46	78	124	538
田切体育館	79	98	104	42	63	386
本郷体育館	37	42	5	74	59	217
B&G 海洋センター	132	91	161	128	66	578
計	419	350	316	322	312	1,719

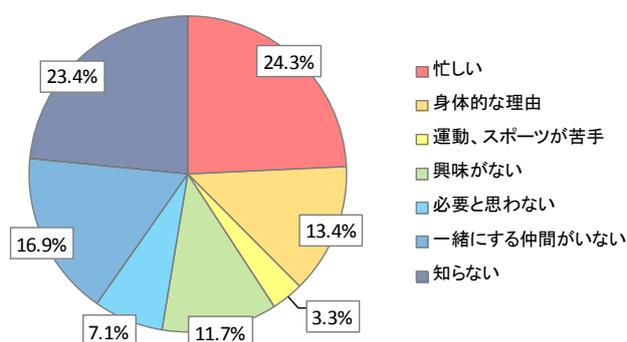
※平成 29 年については 12 月までの集計結果

- より多くの参加を促すために、平成 27 年に「ファミリースポーツの集い」から「体育館開放日」へ名称を変更しました。
- 平成 28 年度調査では、「体育館開放日（ファミリースポーツの集い）」を利用したことがある人は 15.8%で、「体育館開放日（ファミリースポーツの集い）」を「興味がない」、「必要と思わない」、「知らない」という回答は 40.4%でした。

体育館開放日の利用率



体育館開放日を利用しない理由



※平成 28 年「飯島町生涯スポーツ調査」による(対象者 1,000 人(無作為抽出)、回答者 369 人)

### 施策の展開

- 「体育館開放日」利用促進
  - ・ 「体育館開放日」について、町広報誌・ケーブルテレビ・SNS などを活用し、認知度を高めるとともに、利用を促します。
  - ・ 「体育館開放日」について、認知度の向上および利用促進を図るため、各地区公民館や耕地・自治会と連携するよう努めます。
  - ・ だれもが気軽に参加できるように、ニュースポーツイベントや体力測定会などを開催する等、運営方法を研究し取り組みます

## 基本目標 3 住民が主体的に参画する環境の整備

### ◎目指す 5 年後の姿

飯島町総合型スポーツクラブが定着し、スポーツ連絡協議会の加入団体・公民館などと連携して町全体のスポーツ推進を担うとともに、町民によるスポーツ施設の気軽な利用が広がっていることを目標とします。

#### (1) 総合型スポーツクラブ

##### 現状・課題

- 平成 24 年度、スポーツ連絡協議会の加入団体である飯島 F C を母体として「飯島町総合型スポーツクラブ」が設立され、サッカー教室等の取り組みが行われています。
- 活動内容の充実とともに、指導者の確保・育成や、会員を増やしていくことが課題です。

##### 施策の展開

- 総合型スポーツクラブの定着
  - ・ 飯島町総合型スポーツクラブは、青少年の健全育成、指導者の養成、スポーツの普及による健康維持・体力増進・地域コミュニティーの構築への寄与、青年から高齢者までが健康に暮らせる体づくりの場の提供、現代社会に不足している規範意識の高揚などを目的として活動します。
  - ・ 活動の周知に努め、会員の増加を図ります。
  - ・ 定期的開催するサッカー教室や水泳教室を通じて、幼児から青年までの一貫した育成事業を展開します。
  - ・ スポーツ大会の開催を通じて町内外の人々との交流を図るとともに、スポーツ活動への意欲を高め、スポーツを始めるきっかけづくりを行います。
  - ・ スポーツに限らず、文化的な活動にも積極的に取り組みます。
  - ・ 国や県の研修会や総合型クラブ連絡協議会などに参加し、他市町村のクラブとの協力体制を築くとともに、情報収集に努めて自主的な運営能力の向上を図ります。
  - ・ 長期的に安定して経営できるよう、将来の財源確保について検討を進めます。
- 他団体との連携によるスポーツ推進
  - ・ 町内の各スポーツ団体と連携してスポーツ人口の増加を目指し、町全体のスポーツ推進につなげます。

## (2) 愛好者団体

### 現状・課題

- 飯島町では、多くの愛好者団体・グループが定期的にスポーツに取り組んでいます。
- 愛好者団体の内、町の社会体育施設（運動場・体育館等）を利用する多くの団体が飯島町スポーツ連絡協議会に団体登録しています。一般団体は 15 種目 34 団体、延べ 393 人が、少年スポーツ団体には 11 種目 23 団体、延べ 398 人が参加しています（平成 29 年 12 月現在）。登録団体は、スポーツ連絡協議会の事業に参画することで町のスポーツ推進に寄与し、体育施設使用料の減免を受けています。
- 新たに団体スポーツを始めようとする場合、既存の団体に加わるか、新たに団体を作るかの 2 通りがありますが、どちらの場合も支障なく受け入れられる環境づくりが求められています。

### 施策の展開

- スポーツ団体の活動支援
  - ・ 愛好者団体やスポーツ連絡協議会各競技部の自主的な活動を支援します。
  - ・ スポーツ連絡協議会への新たな団体の登録は、その要望に懇切に対応し、必要により既存の団体との調整を図ります。
- スポーツ団体の交流促進
  - ・ スポーツ連絡協議会の各競技部の連携や、愛好者団体同士の交流促進を図ります。

## (3) 公民館

### 現状・課題

- 町内 4 地区に置かれている公民館では、区民運動会のほか、体育部を中心にソフトボール大会・バドミントン大会・ソフトバレーボール大会などが企画され、年間を通じてスポーツ大会が行われています。
- 近年は、公民館活動にニュースポーツが導入されてきています。

### 施策の展開

- 公民館の活動支援
  - ・ 各公民館の自主的な活動を支援します。
  - ・ 公民館事業でニュースポーツの指導が必要な場合には、地区出身のスポーツ推進委員が協力します。

#### (4) 一般町民・団体

##### 現状・課題

- 特定のスポーツを定期的を楽しむことはなくても、仲間とともにスポーツをする場合があります。職場などの福利厚生や親睦を目的に、また、友人・同級生・親類などが集まる際にもスポーツに親しむことができるよう、町の体育施設や備品の情報公開が望まれます。
- ウォーキング・ジョギング・サイクリング・健康体操など、思い立てば個人で手軽にできる運動があり、生活に取り入れている町民がいます。
- 障がい者が自主的かつ積極的にスポーツや運動を行うことができる環境整備が求められています。

##### 施策の展開

- 施設や備品の情報提供
  - ・ 町民の気軽な利用に供するため、体育施設や備品の情報提供に努めます。
- 障がい者スポーツの支援
  - ・ 障がい者の自主的なスポーツ活動の継続・定着のため、スポーツ指導者や競技愛好団体などと連携して支援します。

#### (5) 施設整備

##### 現状・課題

- 町教育委員会が所管する体育施設は下表のとおりで、町内4つの区すべてに屋外運動場と体育館があり、加えて小中学校の運動場と体育館は、学校行事で使用しない時間は一般にも開放されています。

飯島町教育委員会所管の体育施設

区分	施設名
屋外運動場	飯島運動場 田切野球場 本郷運動場 柏木運動場 飯島小学校 七久保小学校 飯島中学校
体育館	飯島体育館 田切体育館 本郷体育館 飯島小学校 七久保小学校 飯島中学校
B & G海洋センター	体育館 プール 艇庫
弓道場	弓道場
ゲートボール場	本郷ゲートボール場

- 本格的な競技スポーツの大会を招致することは困難ですが、多くの運動場や体育館があることは町民の生涯スポーツ推進にきわめて有効と考えられます。
- 体育館等には管理人が常駐せず、鍵の開閉から照明の点灯消灯、使用後の清掃など

を使用者の自主管理に任せています。まれに照明の消し忘れや清掃の不徹底が見られます。

- 上記各施設は建設後 25 年以上が経過しており、計画的な修繕が課題となっています。
- 平成 27 年度より情報端末による施設予約システムを導入し、インターネットからの施設予約が可能となりました。
- 施設予約システムは、飯島町スポーツ連絡協議会登録団体のみが利用可能となっており、57 団体のうち 48 団体が運用しています。(平成 29 年 12 月現在)
- 町教育委員会以外が管理している体育施設は下表のとおりです。

#### 飯島町教育委員会以外が管理する体育施設

区 分	管 理 者
マレットゴルフ場	区など
ゲートボール場	耕地・自治会など
与田切公園テニスコート	まちづくりセンターいいじま
与田切公園プール	まちづくりセンターいいじま
お宿陣屋体育館	お宿陣屋
健康スタジオやまなみ	生協総合センターいいじま

#### 施策の展開

- 施設使用における自主管理の徹底
  - ・ 体育施設の使用については、丁寧な説明によって使用者の自覚を促しながら、引き続き自主管理に任せる方針とします。
- 計画的な施設改修
  - ・ 将来を見通して中長期的な計画を立て、施設の改修を実施します。
  - ・ 本格的な競技を行うための施設改修だけでなく、幼児から高齢者まで幅広い世代が、様々な用途で利用するための改修も検討します。
- 情報端末による施設予約システム運用の促進
  - ・ 利用者へ施設予約システムの運用を促進します。
- 外部機関との連携
  - ・ 外部の各機関と連携し、利用者が種目に応じて適当な施設が使用できるよう便宜を計ります。

## 基本目標 4 競技力の向上

### ◎目指す 5 年後の姿

全国の舞台で活躍する飯島町の選手やチーム、県内で注目される飯島町の選手やチームが増加していることを目標とします。

#### (1) 選手強化・指導者育成

##### 現状・課題

- スポーツ連絡協議会では、各競技部の指導員に活動補助費を支出しています。
- 日ごろからトップレベルの競技スポーツに取り組んでいる町民もいますが、生涯スポーツとして楽しむ向きが多いのが現状です。日常的に指導者から指導を受けるよりも、自身で、またはチームメイト同士で研鑽に励んでいます。
- 平成 25～29 年度の町民の全国大会への出場は表のとおりです。予選を勝ち抜いて大きな舞台へ出場することはもちろん、県・郡の大会での町内選手の活躍も明るい話題となり、地域に活力を与えます。

##### 一般選手の全国大会等への出場状況（平成 25～29 年度）

年度	大会名（種目等）	出場者数
H25	全国レディース卓球大会（女子シングルス）	1 名
	国民体育大会(男子バレー)	1 名
	全国レディース卓球フェスティバル（女子シングルス）	1 名
H26	全国レディース卓球大会（女子シングルス）	1 名
H28	全国家庭婦人バレーボールいそじ大会	1 名
H29	全日本シニア東西対抗ソフトテニス大会	1 名

※平成 29 年度は 12 月まで

##### 施策の展開

- トップレベルの選手の発掘・育成
  - ・ トップレベルの選手の発掘・育成のため、競技種目ごとに総合型スポーツクラブやスポーツ連絡協議会競技部の指導者が選手の指導に努めます。
  - ・ 郡や県などの組織との連携を強化し、選手の競技力向上につなげます。
- スポーツ連絡協議会指導員の体制拡充
  - ・ スポーツ連絡協議会各競技部の指導員には、引き続き活動補助費を支出します。
  - ・ トップレベルの選手にはスポーツ連絡協議会の指導員に登録していただき、地域の指導者としても活躍していただけるよう要請します。

■ 指導者の育成

- ・ 指導者や指導者を目指す方に、研修会や資格の取得などに関する情報を提供し、指導体制の強化を図ります。
- ・ 指導者間で情報交換できる機会を設けます。

■ 全国大会出場者への激励事業

- ・ 全国大会に出場する選手・チームに対して、町で激励会を催します。
- ・ 町広報紙への掲載をはじめ、メディアによる取材を呼びかけます。

(2) 少年スポーツ

現状・課題

- 少年スポーツ団体には、種目ごとに保護者をはじめ地域の指導者が積極的に関わっており、競技力の向上はもちろん子どもたちの健全育成に努めています。
- スポーツ連絡協議会に登録した少年スポーツ団体の体育施設使用については、使用料のほか照明料も無料としています。
- 少子化により、団体同士で子どもの取り合いが起きたり、活動休止に追い込まれたりすることが懸念されます。
- 高校生以下で平成 25～29 年度に全国大会に出場したり、全国レベルの育成選手に選抜されたりした状況は表のとおりです。

高校生以下の全国大会出場および強化選手等への選抜（平成 25～29 年度）

年度	大会名（種目等）	人数(学年・性別)
H25	ゴーセン杯争奪ハイスクールジャパンカップソフトテニス	1名（高2・女）
	小学生・中学生全国空手道選手権大会	1名（小4・女）
		1名（小6・男）
	全国高等学校総合体育大会 陸上競技大会	1名（高3・男）
	全国小学生バドミントン大会	1名（小6・女）
	国民体育大会（ラグビー）	1名（高3・男）
	全国高等学校駅伝競走大会	1名（高1・女）
		1名（高3・男）
	全国都道府県対抗男子駅伝競走	1名（高3・男）
都道府県対抗中学生ソフトテニス大会	2名（中2・女）	
全国小学生ソフトテニス大会	1名（小2・男）	
H26	全日本高等学校ソフトテニス選手権大会	1名（高2・女）
	小学生・中学生全国空手道選手権大会	1名（小5・女）
		1名（中1・男）
全国高等学校駅伝競走大会	1名（高2・女）	

年度	大会名（種目等）	人数(学年・性別)
H27	小学生・中学生全国空手道選手権大会	1名（小6・女）
		1名（中1・男）
		1名（中2・男）
	全国高等学校総合体育大会（ソフトテニス）	1名（高1・女）
	ハイスクールジャパンカップソフトテニス 2015	1名（高1・女）
	全日本小学生ソフトテニス選手権大会	2名（小6・女）
	全国高等学校総合体育大会（ソフトボール）	1名（高3・男）
	ビーチバレージャパン女子ジュニア選手権	1名（高3・女）
	全国高等学校駅伝競走大会	1名（高3・女）
	皇后杯 全国女子駅伝	1名（高3・女）
全国高等学校男子ソフトボール選抜大会	1名（高2・男）	
全国小学生ソフトテニス大会	2名（小4・男）	
	2名（小4・女）	
H28	小学生・中学生全国空手道選手権大会	1名（中1・女）
		1名（中3・男）
	ハイスクールジャパンカップソフトテニス 2016	1名（高3・女）
	全国高等学校総合体育大会（ソフトテニス）	1名（高1・女）
		1名（高3・女）
	全日本小学生ソフトテニス選手権大会	1名（小5・男）
	全国高等学校総合体育大会（ソフトボール）	1名（高3・男）
	国民体育大会 弓道競技	1名（高3・男）
都道府県対抗全日本中学校ソフトテニス大会	1名（中1・女）	
全国小学生ソフトテニス大会	1名（小5・男）	
	4名（小5・女）	
H29	小学生・中学生全国空手道選手権大会	1名（中2・女）
		1名（高3・女）
	ハイスクールジャパンカップソフトテニス 2017	1名（高3・女）
	全国高等学校総合体育大会（ソフトテニス）	1名（高2・女）
		1名（高3・女）
	全日本小学生ソフトテニス選手権大会	1名（小6・男）
2名（小6・女）		
全国高校女子サッカー大会	1名（高3・女）	

※平成29年度は12月まで

## 施策の展開

### ■ 少年スポーツ団体への支援

- ・ 少年スポーツ団体連絡協議会では、団体相互の交流や情報交換を進めるとともに、課題を共有しそれぞれが意識を高めることによって町の少年スポーツ全体の底上げを目指します。
- ・ 子どもの減少については、数年先までの見通しを持った団体運営が必要です。団体どうしが相互に理解し合って柔軟な対応がとれるよう、危機感を共有し、情報交換を図ります。
- ・ 少年スポーツ団体が体育施設を利用しやすいよう、引き続き便宜を図ります。

### ■ トップレベルの選手との交流イベント

- ・ 子どもたちに夢を与えられるよう、トップレベルの選手や指導者を招致して学ぶ機会を設けます。

### ■ 競技力向上と健全育成の両立

- ・ 指導者・保護者には、競技力向上とともに、スポーツによる子どもたちの健全育成についても引き続き理解を求めていきます。

### ■ 小中学生への指導体制

- ・ 高校生になると活動の場は主に町外の高校に移ります。小中学校時代からの積み重ねが開花することも念頭に置き、町内では小中学生への指導体制の充実を図ります。

### ■ 全国大会出場者への激励事業

- ・ 全国大会に出場する選手・チームに対して、町で激励会を催します。
- ・ 町広報紙への掲載をはじめ、メディアによる取材を呼びかけます。

## 基本目標 5 地域の元気力アップ

### ◎5年後の目指す姿

スポーツイベントに大勢の町民が関わるとともに、スポーツを通じた町外との交流や健康増進の取り組みが進み、「元気な飯島町」が実感できることを目標とします。

#### (1) 地域の一体感や活力の醸成

##### 現状・課題

- スポーツを通じた地域の一体感や活力の醸成が望まれています。
- スポーツの明るい話題は当事者だけでなく周りに元気を与える力をもっています。町広報紙では、ほぼ毎月、町内の大会の結果や全国大会出場選手の紹介などを記事にしています。
- かつては「飯島町歩け走ろう大会」に人口の約1割に当たる1,000人を越える町民が参加していましたが、年々下降を続け、この催しを引き継いだ「いいちゃんウォーク」の平成29年度の参加者は123名となりました。
- 平成28年(2016年)のリオ五輪では、飯島町に縁のある女子バドミントン個人出場・奥原希望選手のパブリックビューイングを開催し、多くの町民が観戦しました。

##### 施策の展開

- スポーツ以外の催しとの連携
  - ・ 一人でも多くの町民がスポーツイベントに楽しく参加できるよう、スポーツ以外の催しとの効果的な連携を進めます。
- スポーツ推進委員の活用
  - ・ スポーツ推進委員の認知度を高めるとともに、各地区公民館事業や出前講座などで町民との関わりを深め、ニュースポーツなどの普及に努めます。
- スポーツの話題発信
  - ・ 地元チームや選手の活躍は地域に元気をもたらし、一体感や活力の醸成につながることから、そうしたスポーツの話題を積極的に発信します。町広報紙への掲載にとどまらず、メディアへの情報提供、ケーブルテレビ行政チャンネルやインターネットの活用を図ります。
- 「する」「観る」「支える」スポーツの情報提供
  - ・ 「するスポーツ」だけでなく、「観るスポーツ」「支えるスポーツ」の情報を提供するとともに、地元チームや選手の応援観戦などを呼びかけます。
  - ・ 2020年開催の東京五輪のパブリックビューイングなど、「観るスポーツ」「支え

るスポーツ」の場を企画し提供します。

## (2) 地域間交流の促進

### 現状・課題

- 上伊那小学生バレーボール連盟が主催する「花の道杯小学生バレーボール交流大会」は、毎年県内外から 70 以上のチームが参集して町内で開催されています。参加者数は保護者などを含めると 1,000 人以上です。
- 上伊那ママさんバレーボール連盟が主催する「いいじまスプリングリーグ」は、飯島町の PR を目的に飯島町商工会や町内企業の協力で、飯島町の特産物の販売を行い観光振興や経済の活性化を図っています。
- 少年スポーツ団体などは、練習試合などで他市町村のチームとの交流があります。チームの強化が目的ですが、チームやチームを取り巻く人たちとの交流が新たな活性化につながることも期待されます。
- 友好都市の奈良県斑鳩町とは、OBソフトボールの交流が長年続いているほか、近年は法隆寺マラソンへの参加や少年チームの交流試合が行われて活発化しています。遠路の交流であるため時間と費用がかかり、参加者の負担が大きいことが課題です。
- 夏季を中心に、毎年多くのスポーツ合宿が町内で行われています。
- 平成 25 年より町民主体による「米俵マラソン大会」が開催され、現在では全国から約 800 名を集めるマラソン大会となっています。
- 千人塚公園を拠点に、ヨット・カヌーだけでなく様々なアウトドアスポーツの普及が計画されており、平成 29 年には町民主体によるイベントが開催されました。

### 施策の展開

- 広域大会への協力
  - ・ 町内で開催される広域大会については、主催する団体に便宜を図るとともに、観光パンフレットの配布などによって観光振興や経済の活性化にも役立つよう努めます。
- 友好都市との交流補助金制度の周知
  - ・ 遠征費等は各団体での負担を願いますが、友好都市等との交流については「飯島町地域間交流推進事業補助金」の制度を活用するなど、参加者の負担を軽減する方法を探ります。
- スポーツ合宿への協力
  - ・ スポーツ合宿による体育施設の利用について、引き続き便宜を図ります。
- 全国から集客できるスポーツイベントの支援
  - ・ 飯島町の特徴・魅力を前面に出しながら、全国から集客している米俵マラソンや、

各種イベントへの支援を行います。

- ・ 町の施策であるアウトドア構想の展開に沿うよう、アウトドアスポーツの普及に取り組めます。

### (3) 健康長寿社会の実現

#### 現状・課題

- 健康寿命延伸や生活習慣病予防のための身体運動は、青壮年期から取り組む必要が指摘されています。
- 高齢期の身体活動の低下が懸念されています。
- 健康福祉課では、健康体操などの教室を定期的に行っています。

#### 施策の展開

- 青壮年期からの運動促進
  - ・ 青壮年期は働き盛りで体を動かす機会が減少しがちです。こうした世代が日常的に運動に取り組む意識を持つよう周知を図り、健康寿命延伸や生活習慣病予防につなげます。
  - ・ 夜間や休日開催、託児を設ける等、参加しやすい教室を検討し実施します。
- 高齢者の運動促進
  - ・ 身体機能の維持・向上や介護予防を目的とする健康福祉課等の体操教室に協力するほか、生きがいづくりの観点からも、高齢者が無理なく身体活動に取り組める機会を拡充します。

## 第4章 施策の推進体制

本計画の推進には、町民・スポーツ団体などがそれぞれの役割を認識し、お互いを尊重しながら協働して施策を展開することが重要です。特に、スポーツに関わる飯島町スポーツ推進委員会・飯島町スポーツ連絡協議会・飯島町少年スポーツ団体連絡協議会・飯島町総合型スポーツクラブは、互いに理解し合って柔軟な対応がとれるよう、情報交換を図り連携を強化することが求められます。

また、施策の進行状況や成果の検証を行い、公表して情報を共有する必要があります。

### 1 施策の推進体制と役割

#### (1) 町民の理解と協力

町民一人一人には、その自発性の下に、年齢や性別、障がいの有無を問わず、それぞれの関心や適性に応じて日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しむ役割が期待されています。町は、そのための環境づくりを関係団体と連携して推進します。

そうした活動の成果として、健康長寿で、人と人が深い絆でつながり、活力に満ちたまちづくりの素地を生むことにつなげます。

#### (2) 飯島町スポーツ推進委員会

飯島町スポーツ推進委員会は、スポーツ基本法に基づいて飯島町教育委員会が委嘱するスポーツ推進委員9名で組織されています。

月1回の体育館開放日、公民館や地区の行事におけるスポーツ指導、ニュースポーツの普及など、町のスポーツ活動全般のコーディネート役が期待されています。

#### (3) 飯島町スポーツ連絡協議会・飯島町少年スポーツ団体連絡協議会

飯島町スポーツ連絡協議会は、町内のスポーツ団体や指導者の資質向上・連携強化を図り、町のスポーツ振興に寄与することを目的としている協議会です。15種目34スポーツ団体と、17競技部144名のスポーツ指導者で構成されています(平成29年12月現在)。

飯島町少年スポーツ団体連絡協議会は、幼児・小学生・中学生を対象とした11種目23スポーツ団体で構成されている協議会です。中学校の社会体育団体も含まれます。

これらの協議会に加入している団体と指導者が、町の生涯スポーツ活動の中核を担っています。今後も各団体が競技力向上を目指すとともに、競技人口を増やしながら、自立して活動に取り組むことが期待されます。協議会は、団体間の交流を進めるとともに、各競技部の飯島町大会の主催、広域スポーツ大会への参加、スポーツ研修会の開催、指導者の

育成などの役割が期待されます。

#### (4) 飯島町総合型スポーツクラブ

飯島町総合型スポーツクラブは、平成 25 年 1 月、スポーツ連絡協議会の加入団体である飯島 F C を母体として設立されました。

幼児から青年まで一貫した選手育成、各種スポーツ大会の開催などの取り組みのほか、新たな風によるスポーツへの関心の高まりやスポーツ人口の増加など、町全体への波及効果も期待されます。

#### (5) 保育園・小学校・中学校との連携

飯島町には保育園が 3 園、小学校が 2 校、中学校が 1 校あります。多くの時間をこれらの場所で過ごす子どもたちが、体を動かすことの心地よさを覚え、スポーツのすばらしさを体得できる指導が求められています。最新のスポーツ指導の考え方やスポーツ医学に基づく指導も期待されています。

教育委員会との連携はもちろん、部活動や総合学習などでは地域の指導者との円滑な連携も望まれます。

#### (6) 公民館との連携

飯島公民館・田切公民館・本郷公民館・七久保公民館は、それぞれに体育部をおき、その企画のもとに各種のスポーツ事業を展開しています。文化事業とともに今後も充実したスポーツ事業が開催され、地区の活性化が図られることが期待されます。

#### (7) 町関係部署との連携

高齢者・障がい者を含めた保健福祉の分野、観光振興やまちづくりの部署など、関係部署との連携を密にし、スポーツ推進に取り組みます。

## 2 計画の検証と評価

計画を実効あるものとするため、施策の進行状況や達成度合いを点検、評価し、必要により事業の実施方法を見直して改善を図ることが必要です。達成度合いは飯島町スポーツ推進委員会で随時検証し、町民やスポーツ団体の視座に立った計画の推進となるよう、スポーツ連絡協議会の総会などでも評価を公表することとします。

## 第5章 計画の体系表

**【飯島町第5次総合計画 施策方針】**  
誰もがスポーツに親しむことのできる「生涯スポーツ社会」の実現



## 資料 1

### 「飯島町スポーツ推進計画」策定経過

#### 1 飯島町スポーツ推進計画策定委員会の概要

##### (1) 所掌事務

計画策定に関する調査及び研究

##### (2) 委員

15名以内で組織し、次の各号に掲げる者のうちから教育長が委嘱又は任命

- ① 飯島町スポーツ推進委員
- ② スポーツ団体関係者
- ③ その他教育委員会が必要と認める者

#### 2 飯島町スポーツ推進計画策定委員会の検討経過

##### 【事前準備】

- 飯島町生涯スポーツ調査（平成29年1～2月）
- 計画策定方針を決定（平成29年10月26日）
- 委員の公募（平成29年11月8日～11月22日）
  - ・応募者なし

##### 【委員会設置後】

回	スポーツ推進計画策定委員会	事務局・関係機関
第1回 (12/7)	○国・県の計画の確認 ○生涯スポーツ調査の確認 ○たたき台の審議 ・現状と課題について意見交換	○計画策定方針を提示 ・趣旨・策定体制・策定日程 ○たたき台の提示  ○たたき台の修正
第2回 (12/18)	○計画素案の審議 ・現状・課題・施策の方向性と展開を検討	○素案の修正・計画案の作成 ・施策展開の方向性を整理
第3回 (1/15)	○計画素案の審議 ・現状・課題・施策の方向性と展開を検討	○素案の修正・計画案の作成 ・施策展開の方向性を整理

- パブリックコメントの実施（1/24～2/13）
- 定例教育委員会（2/19）
- 庁議（2/21）
- 3月議会（全員協議会）
- 広報・周知

## 資料 2

### 飯島町スポーツ推進計画策定委員会設置要綱

平成23年8月24日

教委告示第10号

(設置)

第1条 スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第10条の規定により、町のスポーツ推進に関する計画（以下「計画」という。）を策定するため、飯島町スポーツ推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、計画策定に関する調査及び研究を行うものとする。

(組織及び任期)

第3条 委員会は、15名以内で組織し、任期は計画策定までとする。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから教育長が委嘱又は任命する。

- (1) 飯島町スポーツ推進委員
- (2) スポーツ団体関係者
- (3) その他教育委員会が必要と認める者

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長、副委員長各1名を置き、委員の互選によって定める。

2 委員長は委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(会議)

第5条 委員長は委員会の会議を招集し、その議長となる。

2 委員長は必要があると認めたときは、会議に必要な関係者の出席を求め、意見を聞き、説明を求めることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、教育委員会において処理する。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

この要綱は、公布の日から施行する。

飯島町スポーツ推進計画策定委員名簿（敬称略）

任期：平成29年11月26日から計画策定まで

	氏 名	選 出 母 体	備 考
1	<small>いとう あつし</small> 伊藤 敦	飯島町スポーツ推進委員	
2	<small>まつむら よしじ</small> 松村 良次	飯島町スポーツ推進委員	
3	<small>こばやし</small> 小林 かずみ	飯島町スポーツ推進委員	
4	<small>ふるさわ のぶひこ</small> 古澤 信彦	飯島町スポーツ推進委員	
5	<small>なかむら や え</small> 中村 八重	飯島町スポーツ推進委員	
6	<small>こばやし まさのぶ</small> 小林 正信	飯島町スポーツ推進委員	
7	<small>ゆざわ まさし</small> 湯澤 正志	飯島町スポーツ推進委員	
8	<small>おぐり けんじ</small> 小栗 研二	飯島町スポーツ推進委員	
9	<small>しもだいら かずや</small> 下平 一也	飯島町スポーツ推進委員	
10	<small>きたざわ しげき</small> 北澤 繁樹	飯島町スポーツ連絡協議会	
11	<small>こばやし けいし</small> 小林 啓志	飯島町スポーツ連絡協議会	
12	<small>いぐち ともよ</small> 井口 智世	飯島町スポーツ連絡協議会	
13	<small>いとう あつし</small> 伊藤 淳	総合型地域スポーツクラブ	
14	<small>しろた たかお</small> 城田 孝夫	飯島町少年スポーツ団体連絡協議会	
15	<small>こじま さとし</small> 小島 諭	飯島中学校教頭（町内小中学校代表）	

# 飯島町生涯スポーツ調査結果

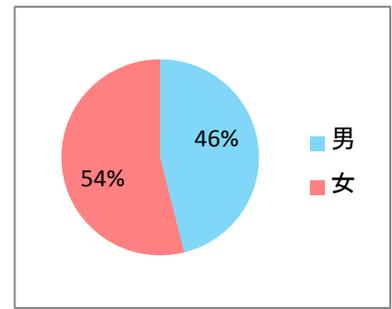
調査対象: 町内に居住する15歳以上の住民 1,000人(無作為抽出)

調査期間: 平成29年1月～2月

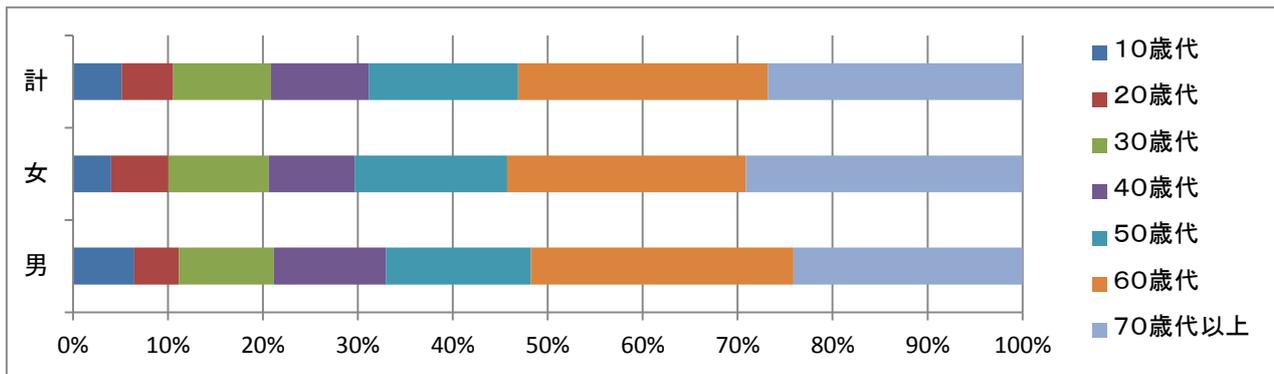
回答者数: 369人

<結果>

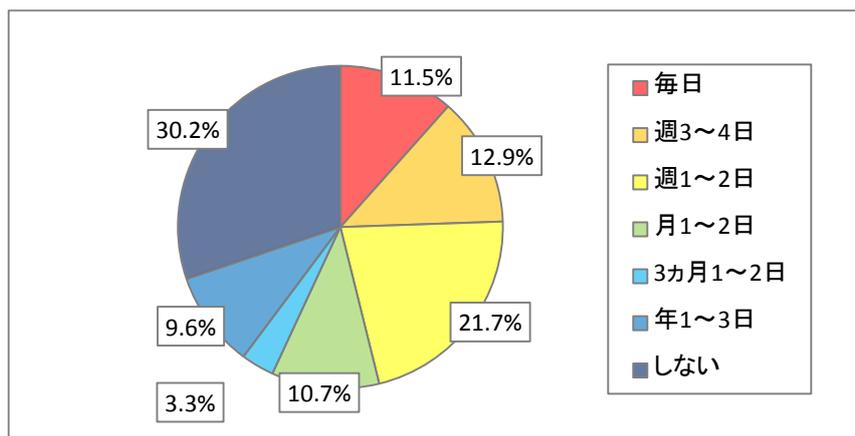
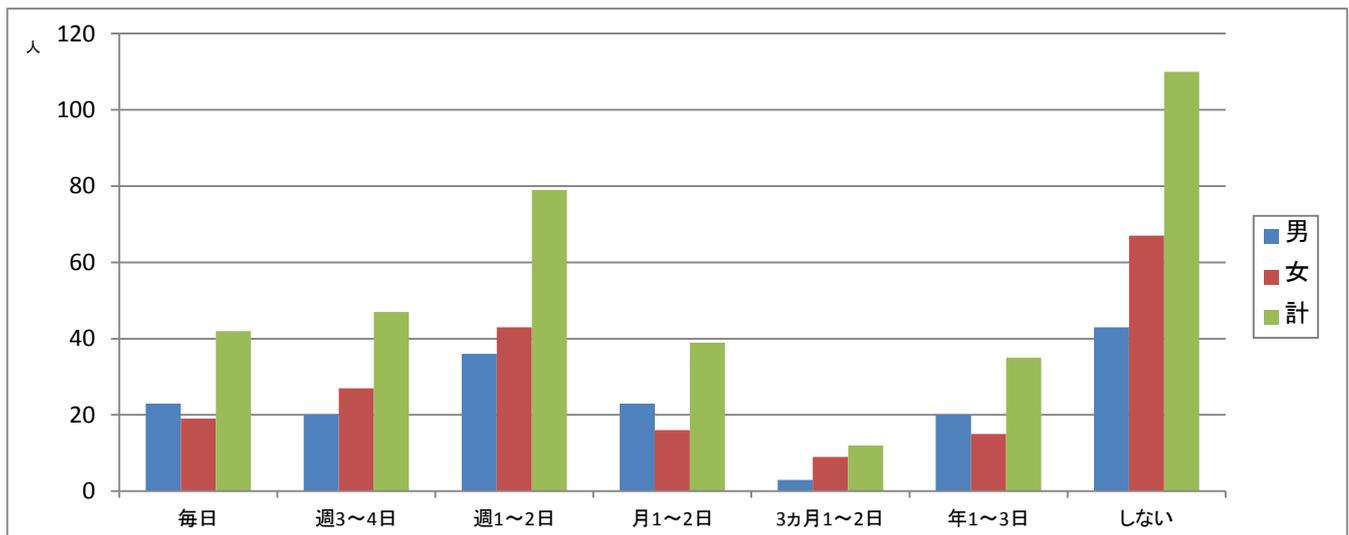
性別	人数(人)
男	170
女	199
計	369



	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	計
男	11	8	17	20	26	47	41	170
女	8	12	21	18	32	50	58	199
計	19	20	38	38	58	97	99	369

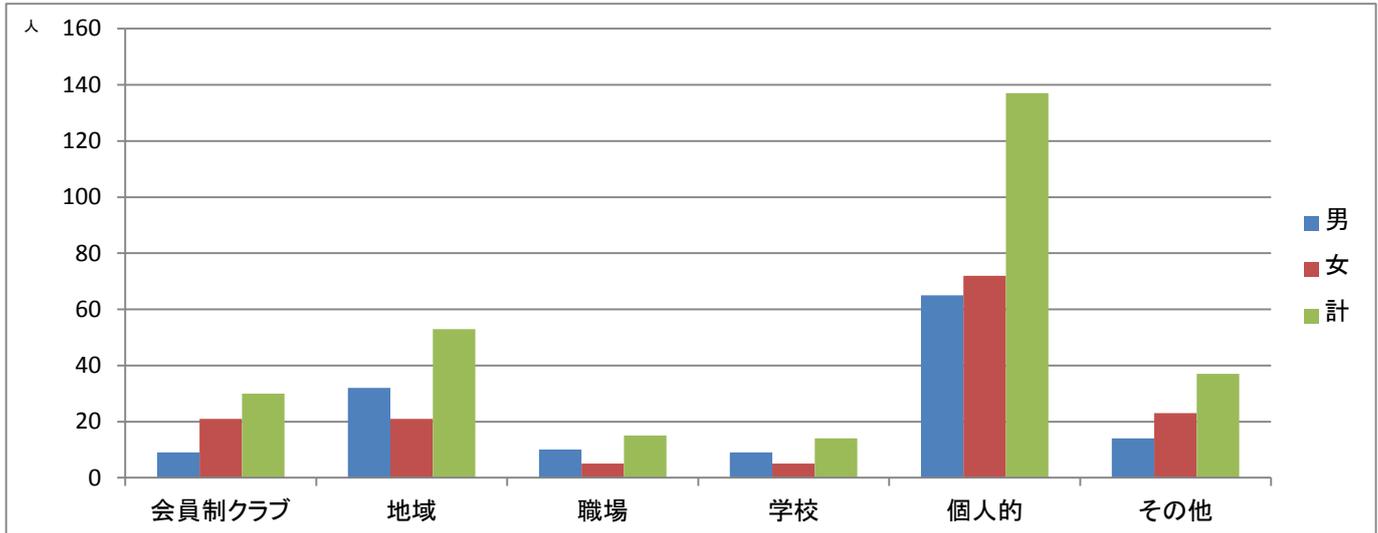


## 問1 あなたはこの1年間に運動やスポーツを何日ぐらい行いましたか？

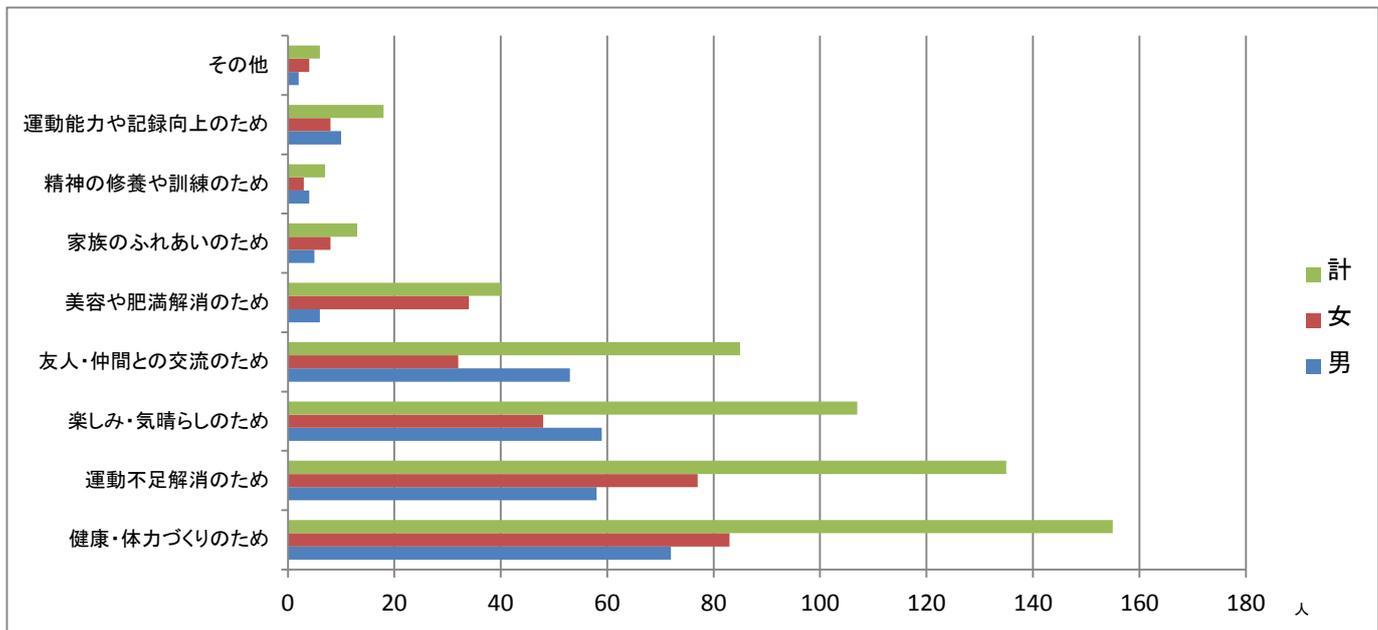


問1で「1～6のいずれか」と答えた方

問2-① あなたはどのような環境(場所)で運動やスポーツを行っていますか(複数回答)



問2-② あなたはどのような目的で運動やスポーツを行っていますか(複数回答)

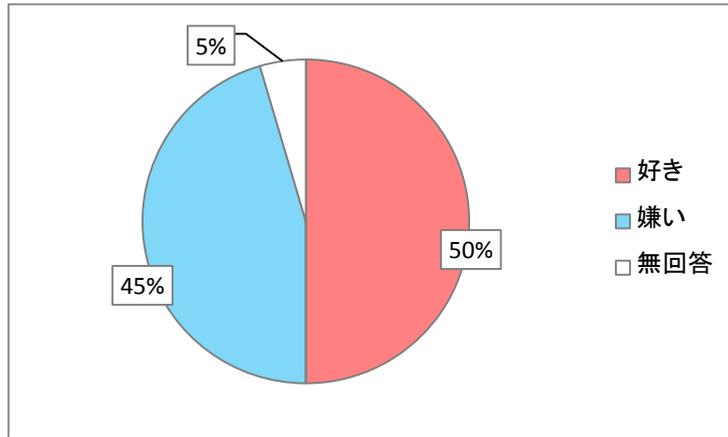


- ・授業なので
- ・肩こり解消のため
- ・おどりたい
- ・マラソンを走るため
- ・犬の散歩

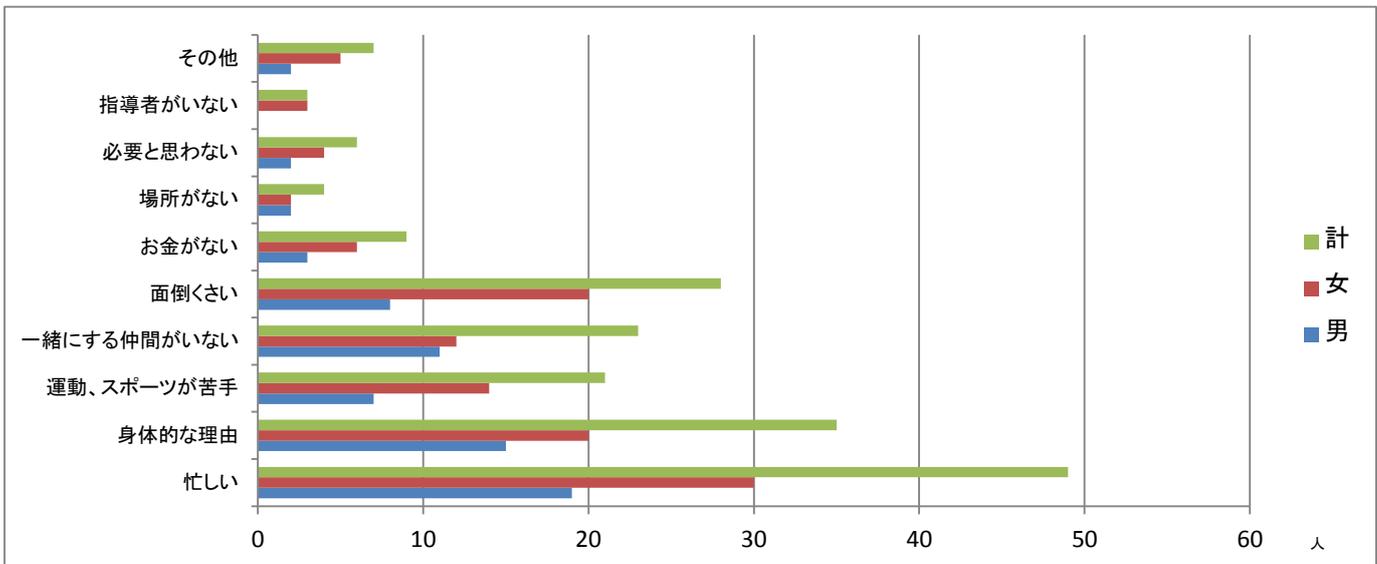
- ・ウォーキング等習慣
- ・体をほぐすため、体操により怪我を防ぐため
- ・認知症予防

問1で「7」と答えた方

問3-① あなたは運動・スポーツをするのが好きですか？

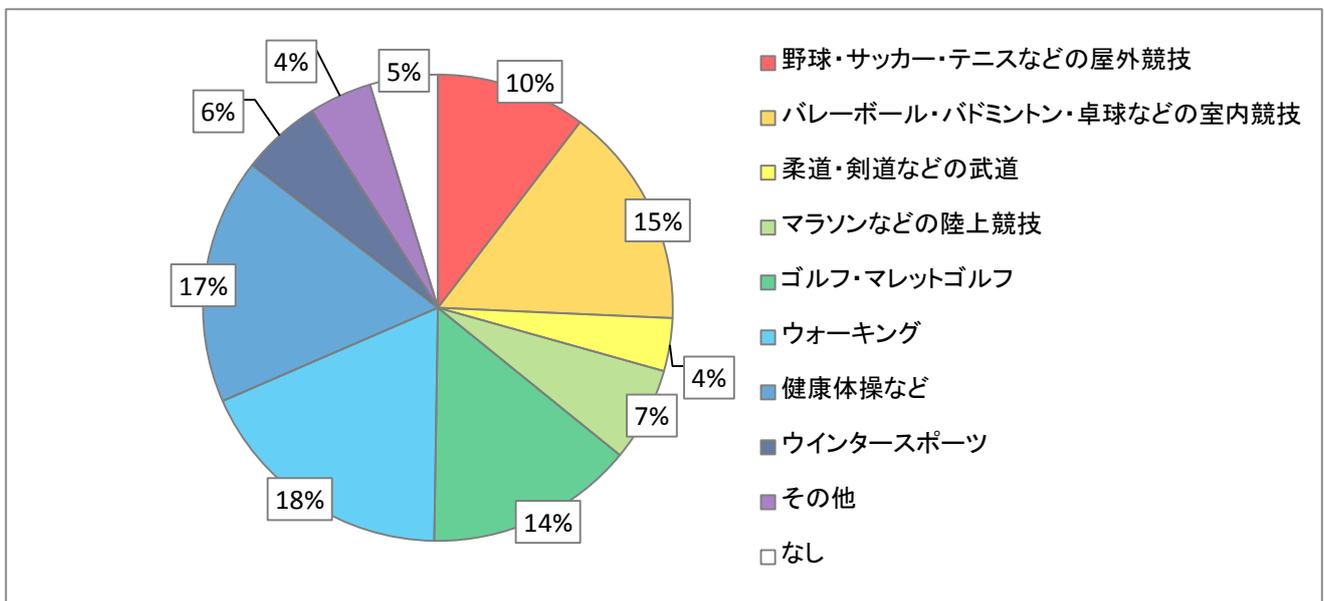
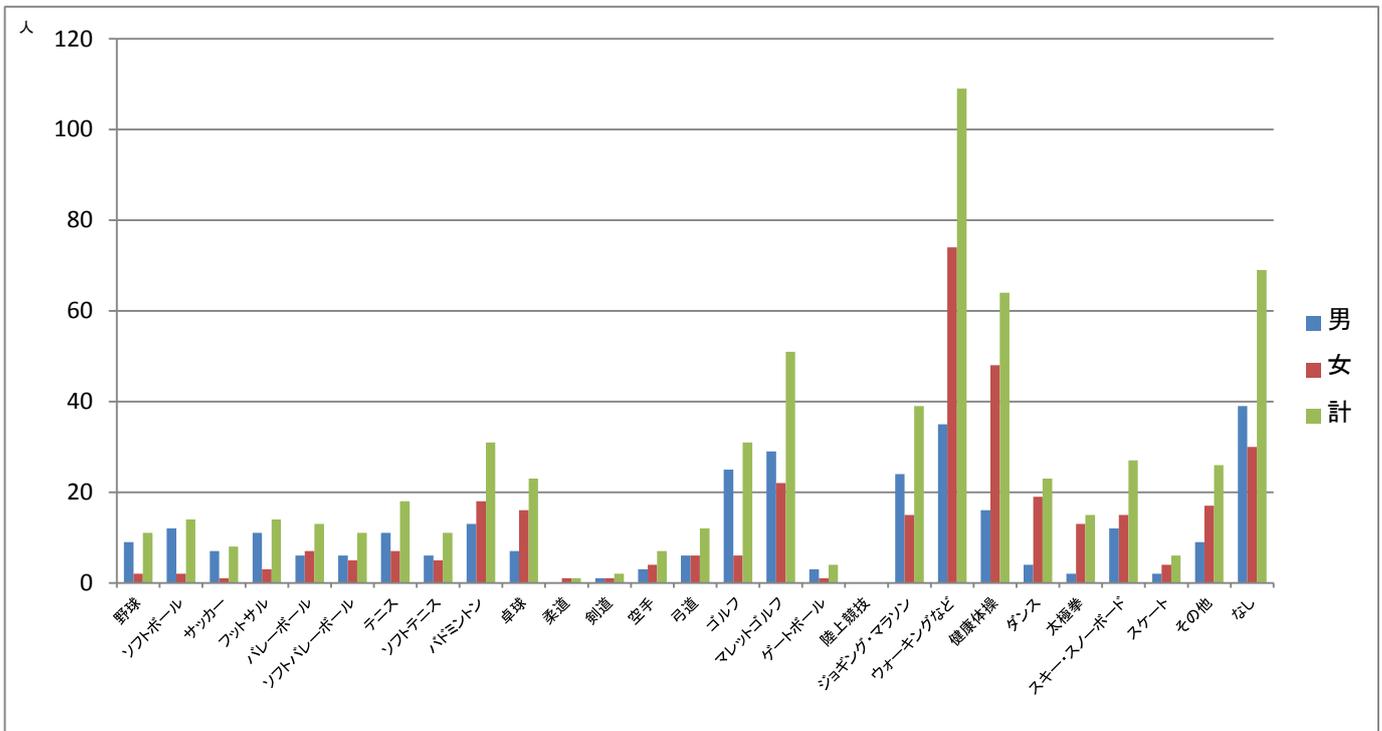


問3-② 運動・スポーツをしない、できない理由はなんですか？（複数回答）



- ・体が不自由
- ・高齢のため
- ・老人施設に入所
- ・運動したいけど、体力がついていかない
- ・年を重ねたので何も出来ません。しかし見ることは大好きです。1月2、3日の大学マラソンには力が入ります。

問4 今後、取組んでみたい運動・スポーツはありますか？(複数回答)



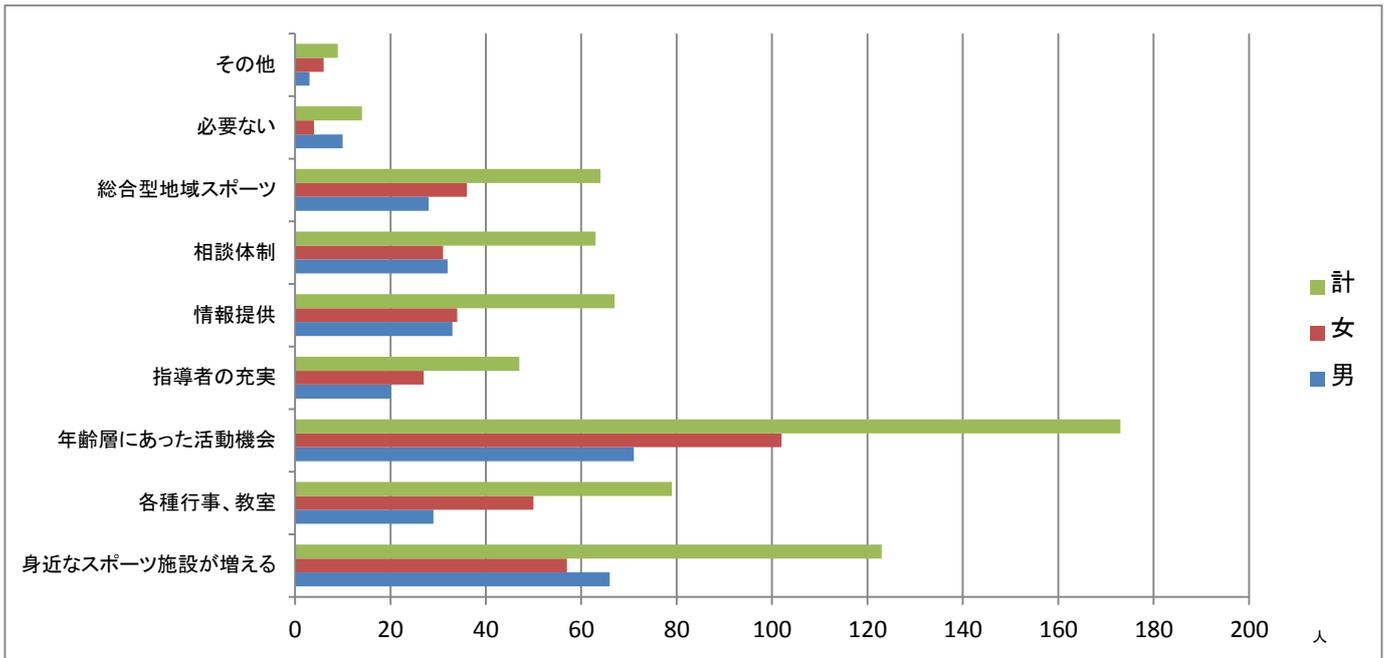
- ・バスケットボール 3人
- ・水泳 5人
- ・ゴルフ、マレットゴルフ
- ・ウォーキング

- ・ボルタリング 2人
- ・パラグライダー
- ・町内でのトレイルランニング
- ・スラックライン 2人
- ・登山 3人
- ・トレッキング 3人
- ・自転車、サイクリング 3人

- ・ヨガ、ティラピス 7人
- ・柔軟体操
- ・バレエ
- ・ラジオ体操
- ・お手玉
- ・室内軽スポーツ

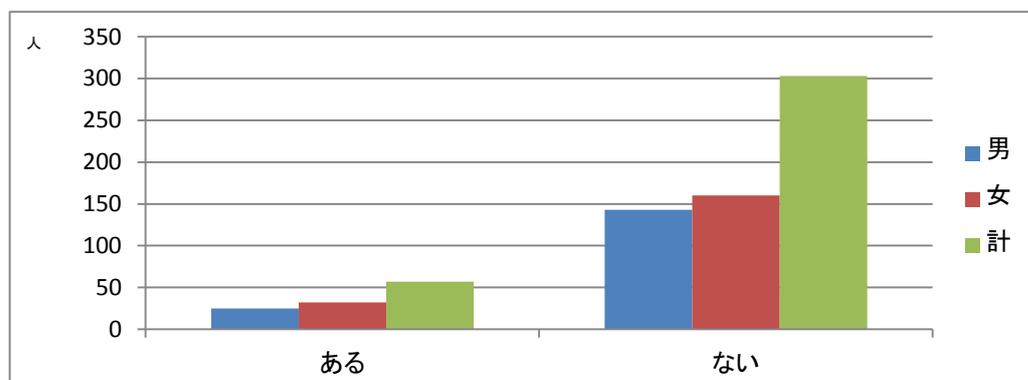
- ・いろんなスポーツをやってみたい
- ・気持ちはありますが、ひざが悪いのでスローな動きしかできません

問5 スポーツ振興のために、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)



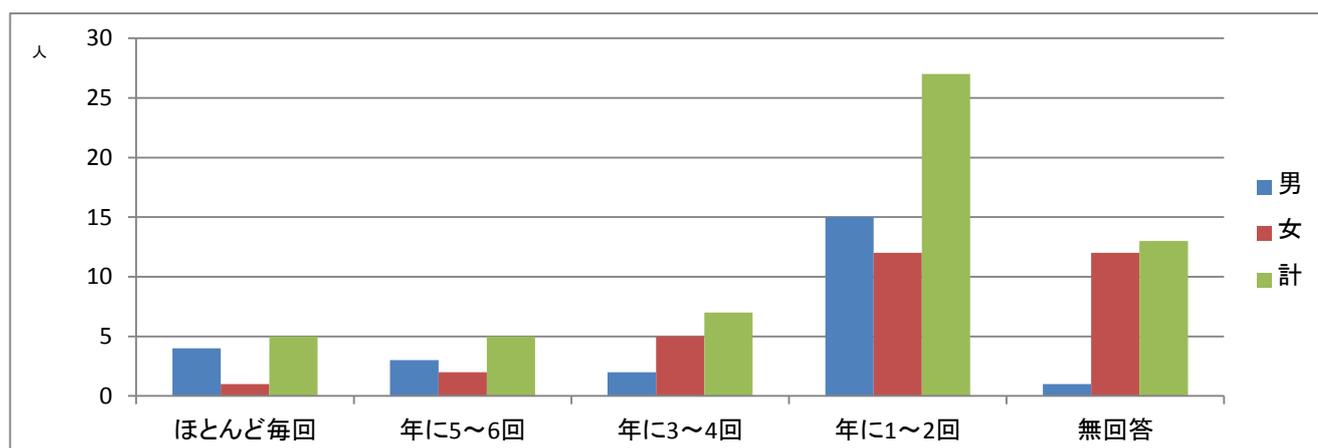
- ・昼間体育館の自由利用
- ・親子で一緒にできる環境
- ・運動＝スポーツという短絡的な発想からまず抜け出せるよう、啓蒙が必要
- ・必要やっている人が「楽しいよ」とたくさんの人に声をかける
- ・ニュースポーツ
- ・お金がかからず出来ればいい
- ・ちゃんとしたスポーツ振興もよいと思いますが、犬の散歩、ウォーキング(ジョギング)などをしている人をよく見かけるので、そうした人を支援するような対応を考えてもらえるとよいと思います。
- ・ジョギングコースやサイクリングコースが整備されれば行きやすい。また、景観の良い所などの休憩所などハイキングコースを設置しても参加しやすいかと思います。
- ・ポイント制度
- ・山歩きが好きなので、しおじ自然園、中小川登山道の整備をしていただければ、毎年でも越百に登りたい。傘山もよいが、少し物足りない。(御嶽コースはトレッキングにはよい)
- ・これから一から始める場合、とりかかりのタイミングやきっかけがつかめなくて始められない人もいるのではないかと思います。(少なくとも私はそうです。年齢的なや仲間など)
- ・施設を増やしても費用がかかるし運営も大変お金がかかるので、やめてほしい。
- ・高齢者が集える場を作り、体を動かす機会をつくる
- ・各耕地ごと室内外のスポーツなら参加しやすい
- ・当町には施設をつくらなくても、できることはいくらかもある。競争レベルを増長するような競技はさげたい。自主性の増長教育。

問1 「体育館開放日(旧:ファミリースポーツの集い)」を利用したことがありますか？

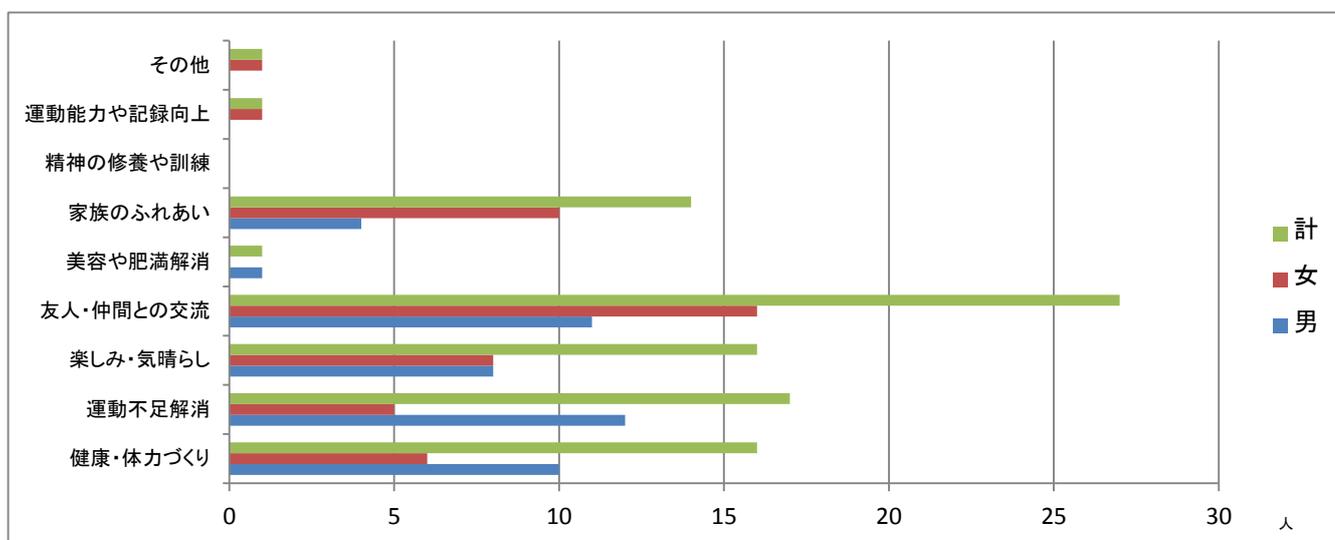


問1で「1」と答えた方

問2-① あなたはどのくらいの頻度で利用していますか？



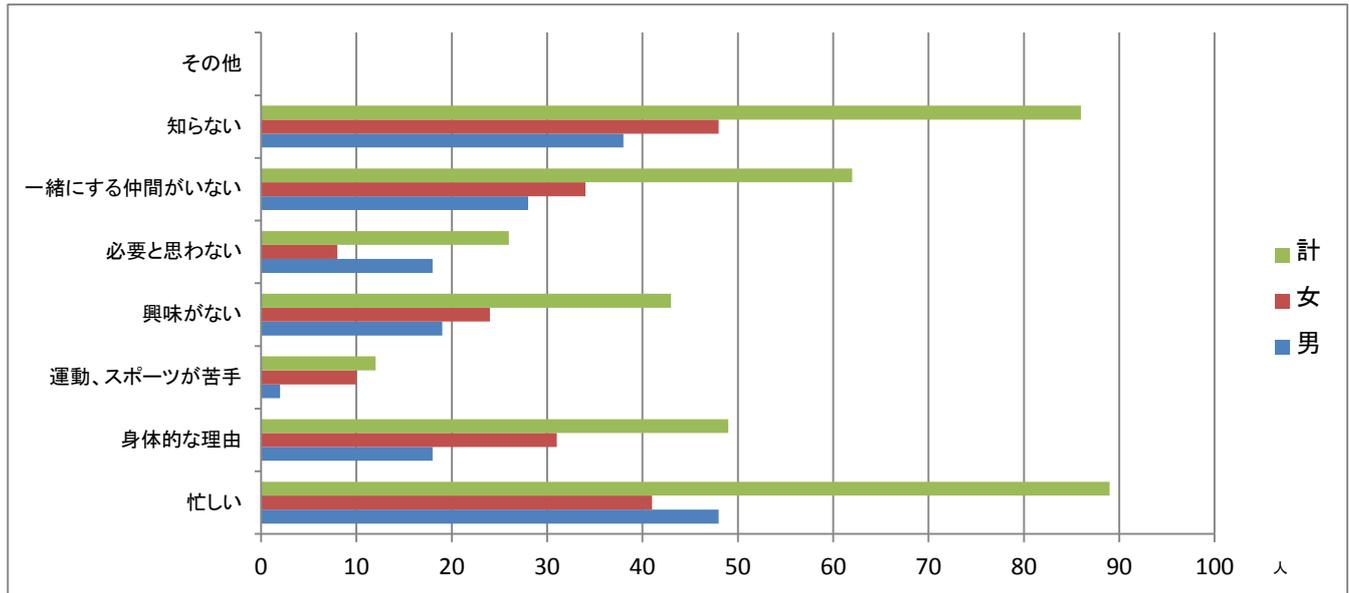
問2-② あなたはどのような目的で利用していますか？



- ・小学校のとき毎回。今は行っていない。
- ・係になったので
- ・公民館役員だったので、何回か行ってみました
- ・子どもが小学校の頃に利用した。
- ・始めた頃10年位は利用したが、現在は利用していない。
- ・もう後期高齢になったので行けない自分の耕地の老人会は出ている。
- ・5年前までは行って楽しんでいました。

問1で「2」と答えた方

問3 問1で「2」と答えた理由は何ですか。(複数回答)



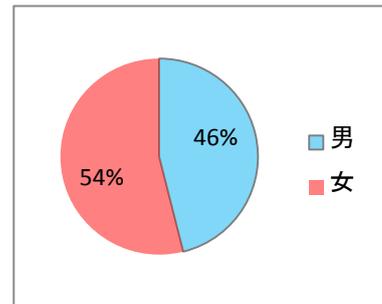
- ・飯島町にいない(居る時間が少ない)
- ・利用できる時間が遅い。小さい子どもがいると夕方以降は利用できない。
- ・チームスポーツは運動が苦手な人には苦痛です。個人でも楽しめるものにしてほしいです。
- ・体育館開放日の事を知らなかった。
- ・内容を知らないため体育館開放日に目的があり行く事は可能ですが、体育館へ行ってできる事がないです。
- ・何をしているかわからない。楽しそうじゃない。(体育館と聞いて良いことが起きなさそうに感じる人間もいることを知ってください)
- ・家族で、会社のメンバーで体育館利用料を支払い使用していた。
- ・仕事のため、飯島町にいない。通常は単身で町外にいる。
- ・体育館でスポーツというより、筋トレや体操など年配の人でも気楽に楽しめる教室を開いてほしい(ヨガ、太極拳)
- ・すべての年代の人が利用できるイメージがない。周知のやり方に問題があるのではと思います。
- ・自分の主催するスポーツ講座(毎週土曜日)のため利用できない。
- ・体育館ごとにある程度のスポーツの種類を決めて、いないと、体育館へ行ってもやりたいスポーツができない？
- ・体育館で何かスポーツをするってということがあまり思いつかない。
- ・若い方が中心のようです。健康な人たちが楽しんで使えれば良いと思います。体育館を開放しても、決まったグループが使うと誰でもという訳にはいけなくなり、使用者は決まってしまう気がします。各スポーツごとに体育館を振り分ける事は？
- ・だんだん年とともに体育館を使ってまでするスポーツがなくなっている。
- ・足が悪いためスポーツができない。
- ・健康、体力づくり、仲間の交流に月4回程、無理のない運動をやっているの、開放日は利用していない。
- ・球技等が好きでない。
- ・軽いスポーツをする習慣が身についていないので利用した事がない。
- ・知っていますが、行った事がないので、どの様に使用しているか？ですが。例えば、バレーをする、バスケをするとなると、コート半分を使うとしても、あと卓球をしたい。ソフトバレーをしたいとなると、どの様に、コートを使っているのでしょうか。
- ・夜だから若向きとって居る
- ・行ったことはないのですが、バレーボールなどはやりたくないからです。他にもやれることはありますか？
- ・老々となり、介護予備軍の状態となり普通の生活をするのがいっぱいです。
- ・年のせいで、体力がついていけないため
- ・1人で行ってみても、何をしようという事になる。仲間でも誘っていければよいが、なかなかそれも難しい。
- ・歳をとれば昼間でないとできない
- ・年齢的にできるスポーツがない。知らない。
- ・夜は寒い時期は出づらいついかな？暖かくなると夕方が外の仕事に精が出せるかと思うと？
- ・スポーツは見学するのがとても好きです。子育ての若い頃は夢中でしたが、今この年齢(74才)では駄目です。と同時に身体的の事もあるし、ありがとうございました。

飯島町生涯スポーツ調査結果＜年代別＞

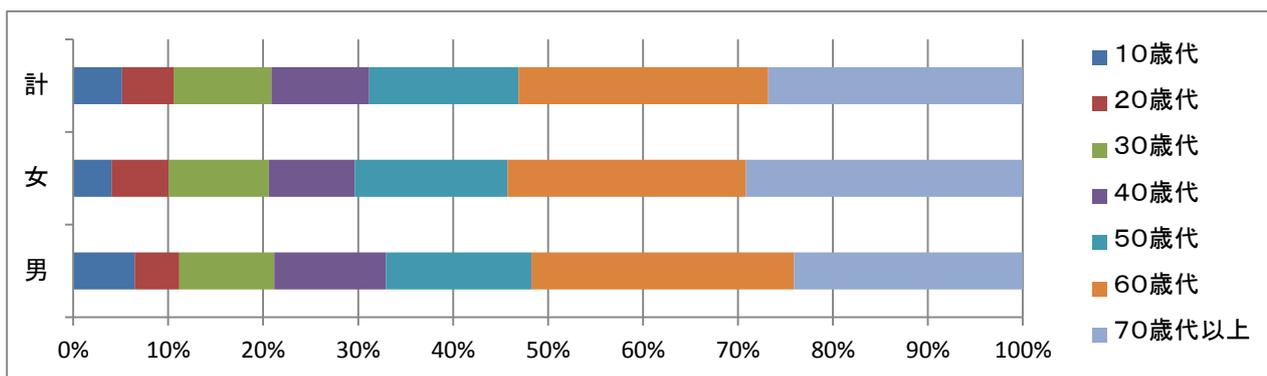
調査対象:町内に居住する15歳以上の住民 1,000人(無作為抽出)  
 調査期間:平成29年1月～2月  
 回答者数:369人

＜結果＞

性別	人数(人)
男	170
女	199
計	369

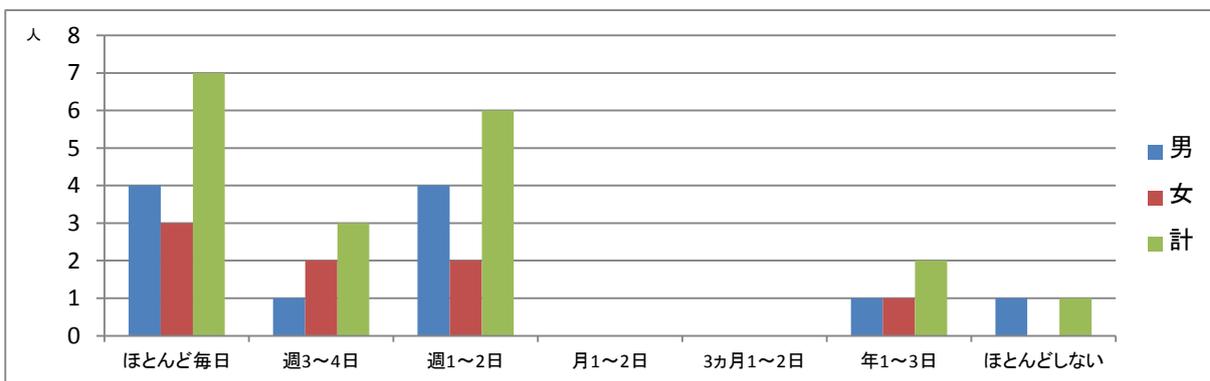


	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	計
男	11	8	17	20	26	47	41	170
女	8	12	21	18	32	50	58	199
計	19	20	38	38	58	97	99	369

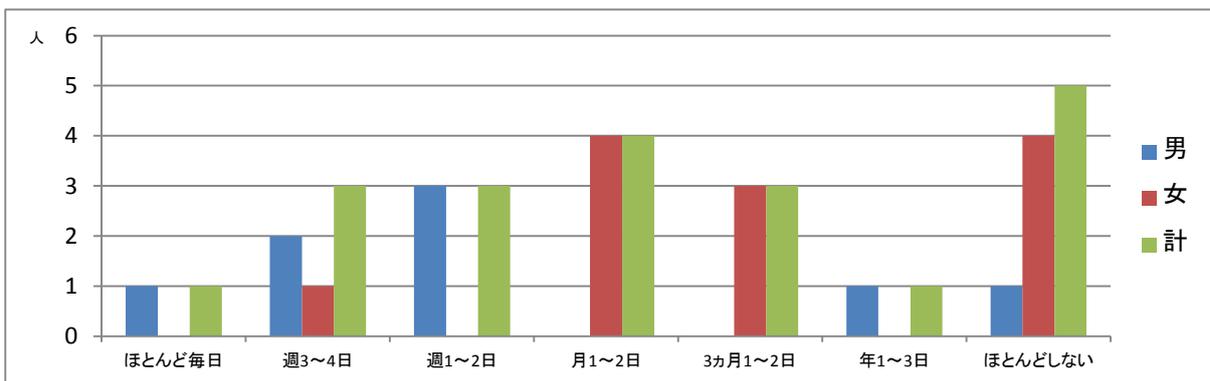


問1 あなたはこの1年間に運動やスポーツを何日ぐらい行いましたか？

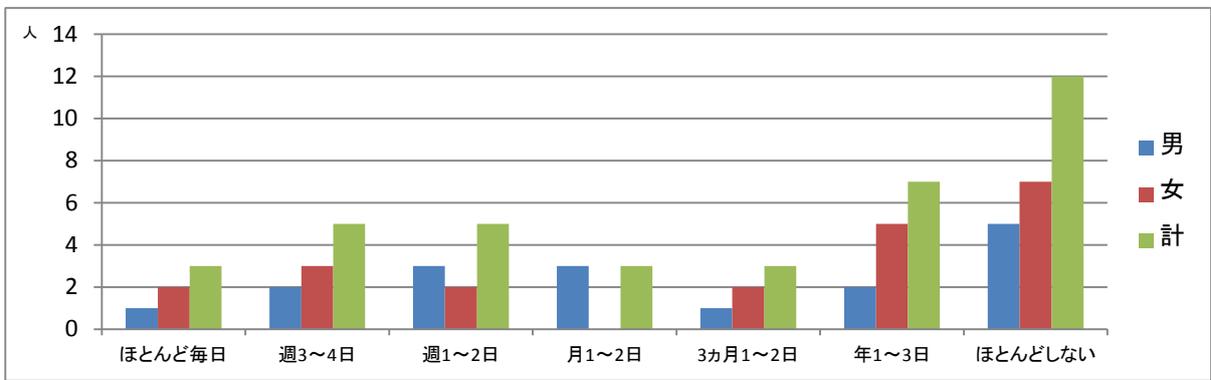
10歳代



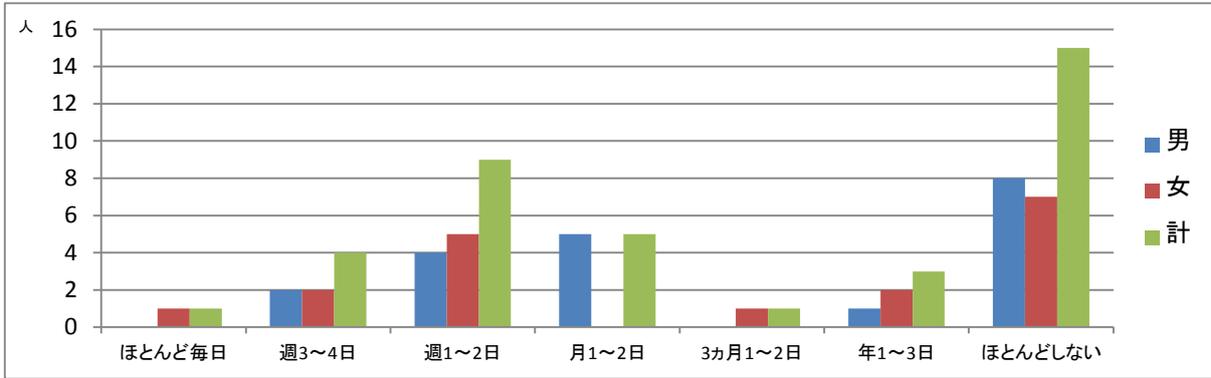
20歳代



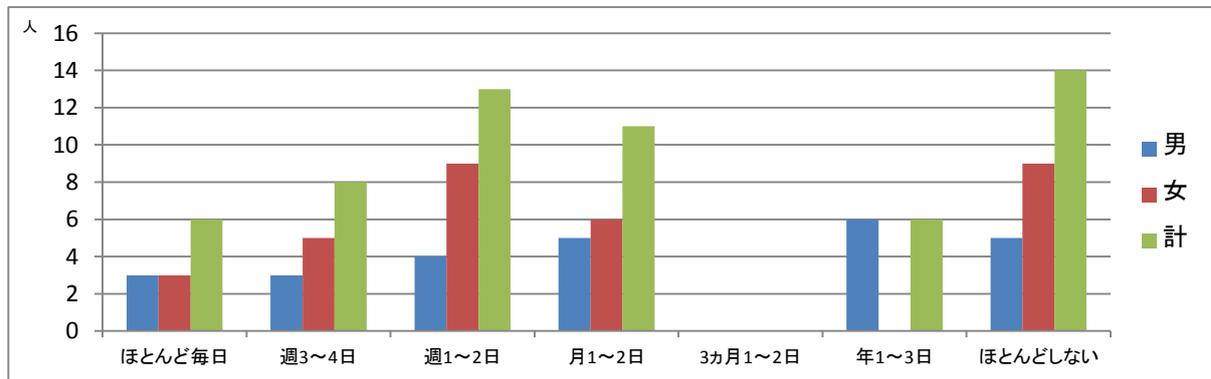
30歳代



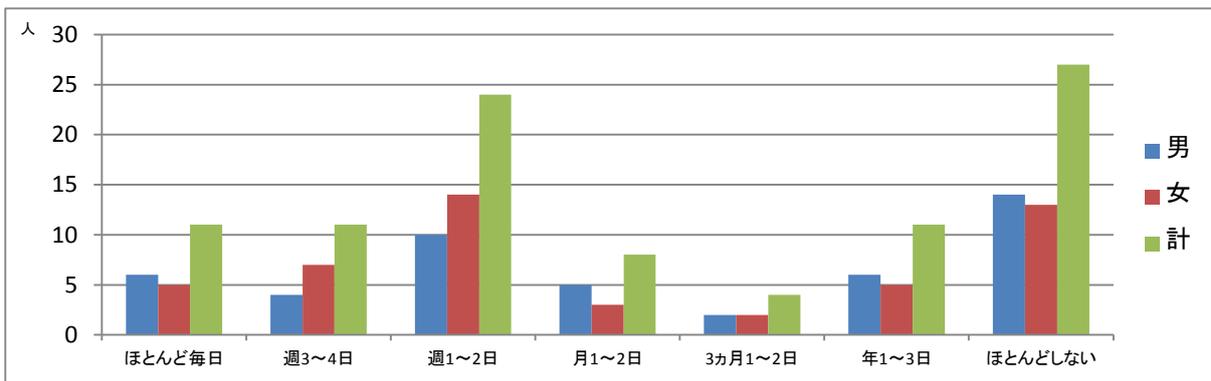
40歳代



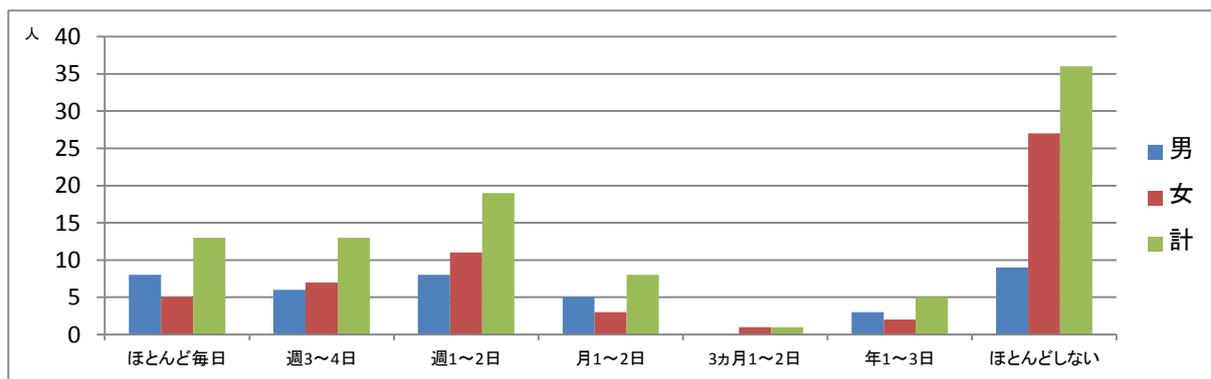
50歳代



60歳代



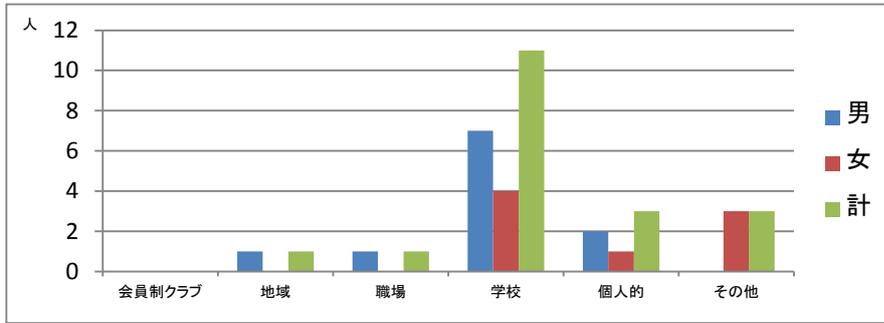
70歳代以上



問1で「1～6のいずれか」と答えた方

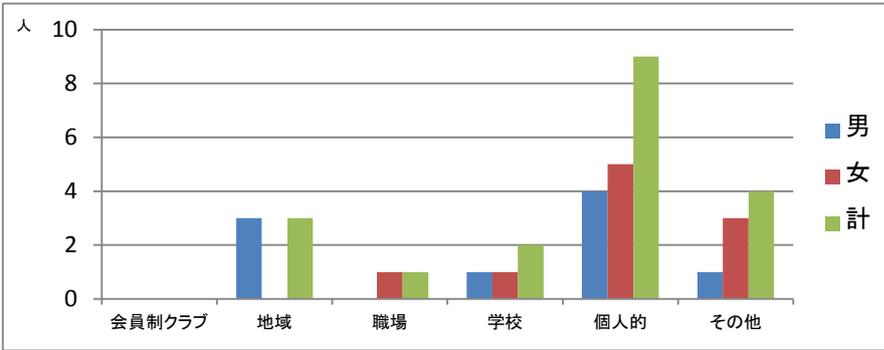
問2-① あなたはどのような環境(場所)で運動やスポーツを行っていますか(複数回答)

10歳代



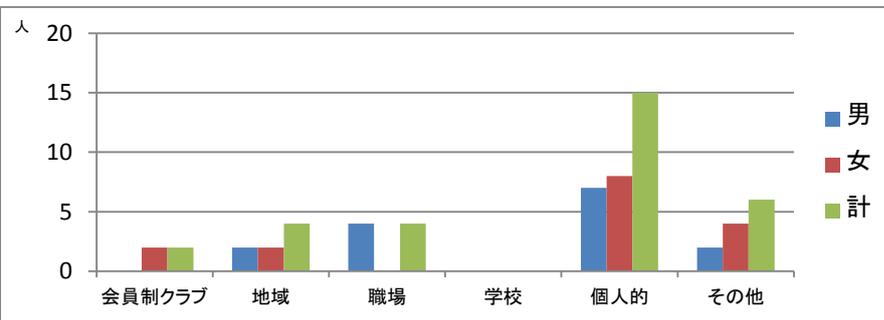
・授業(学校の体育)

20歳代



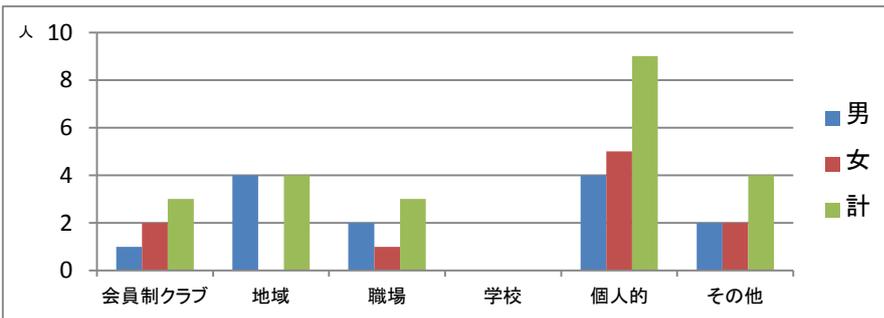
・会社で毎朝ラジオ体操  
・子どもと一緒に散歩  
・通勤・仕事で治電車を利用

30歳代



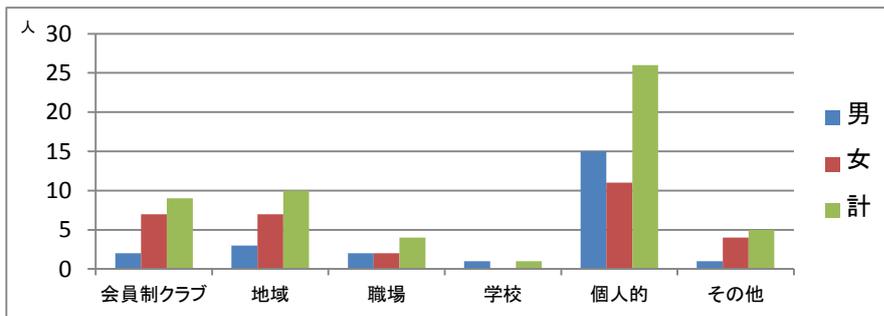
・職場の朝の体操  
・区のパレー大会、運度会

40歳代



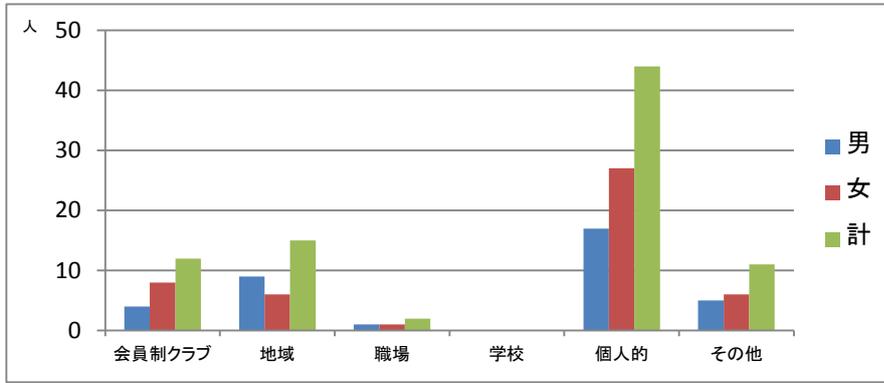
・町のOBソフトボールリーグ  
・ストレッチ、筋トレ  
・犬の散歩  
・職場での活動の中で実施

50歳代



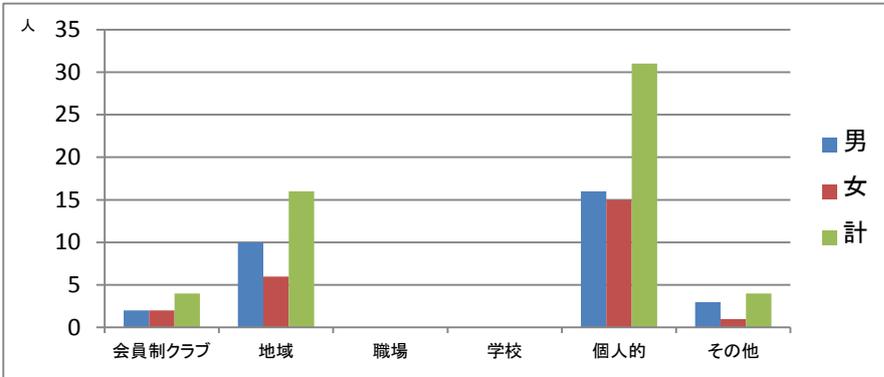
・職場  
・耕地や公民館主催の行事や大会など  
・犬の散歩

60歳代



- ・自宅毎朝15分くらいのストレッチ
- ・元コスモのトレーニングへ週1回
- ・月2回の健康体操
- ・公民館の行事に参加
- ・日帰り登山
- ・自転車(買物近く)
- ・区の体育祭
- ・有志のソフトボール
- ・ゴルフは打ちっぱなし

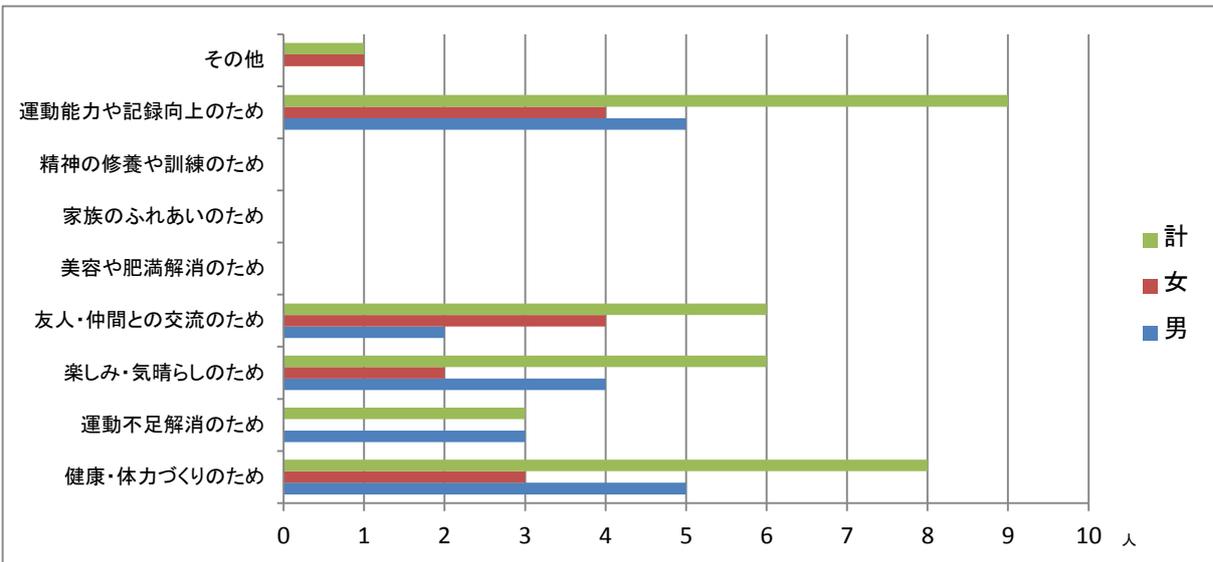
70歳代以上



- ・ラジオ体操

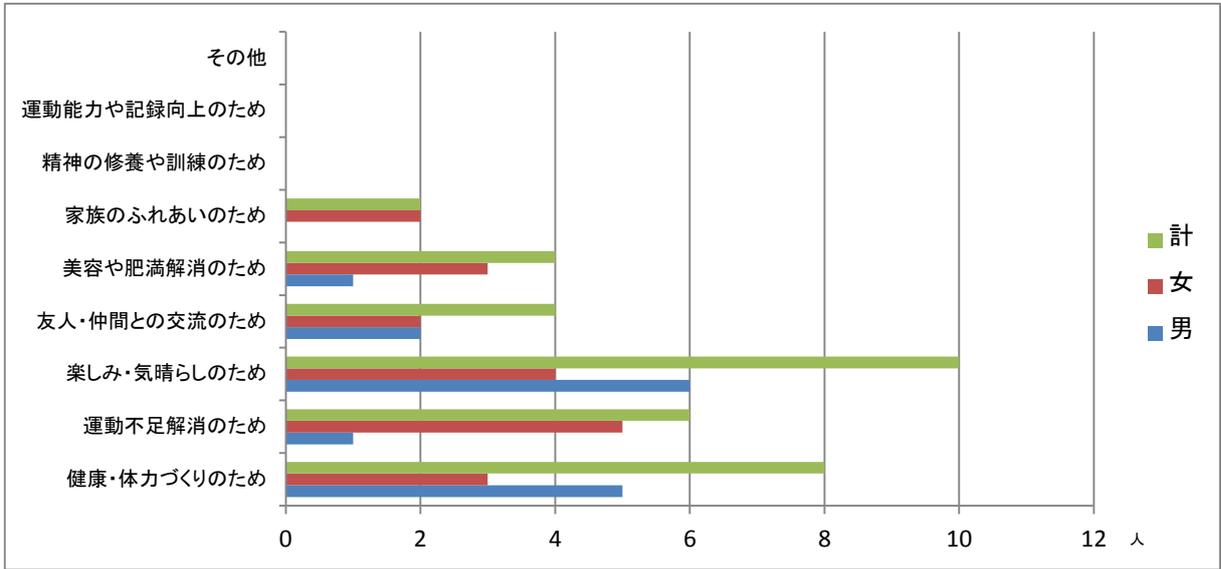
問2-② あなたはどのような目的で運動やスポーツを行っていますか？(複数回答)

10歳代

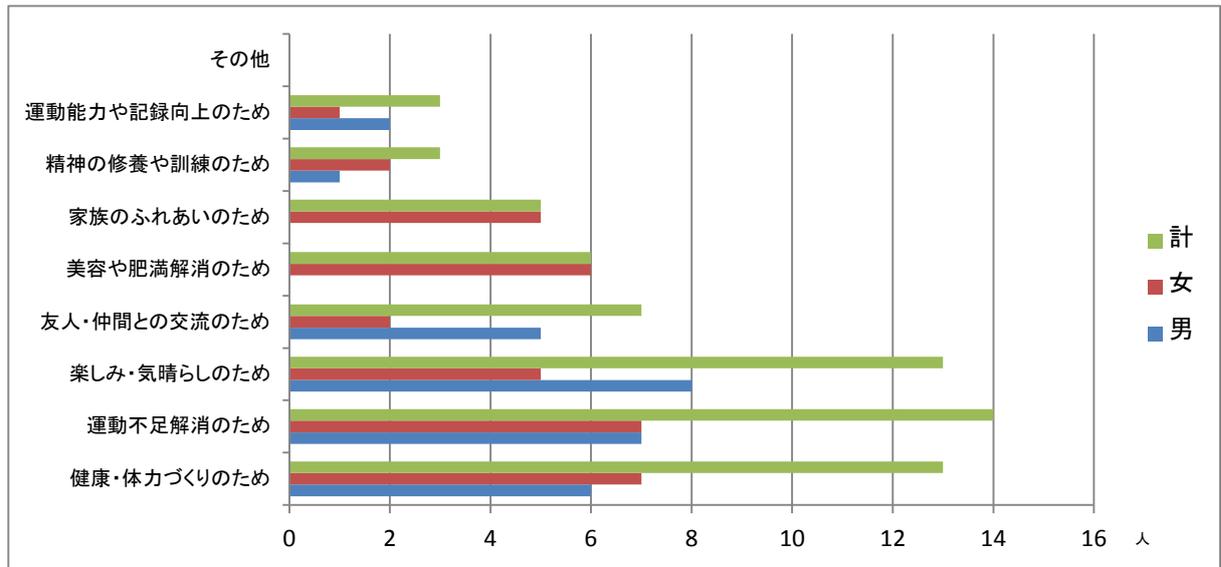


- ・授業なので

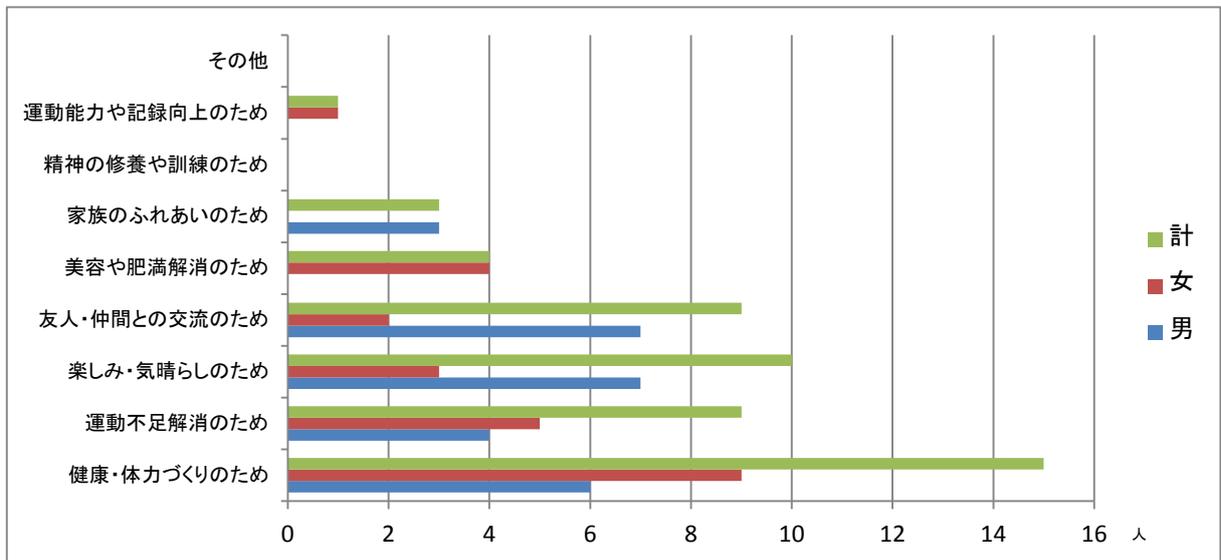
20歳代



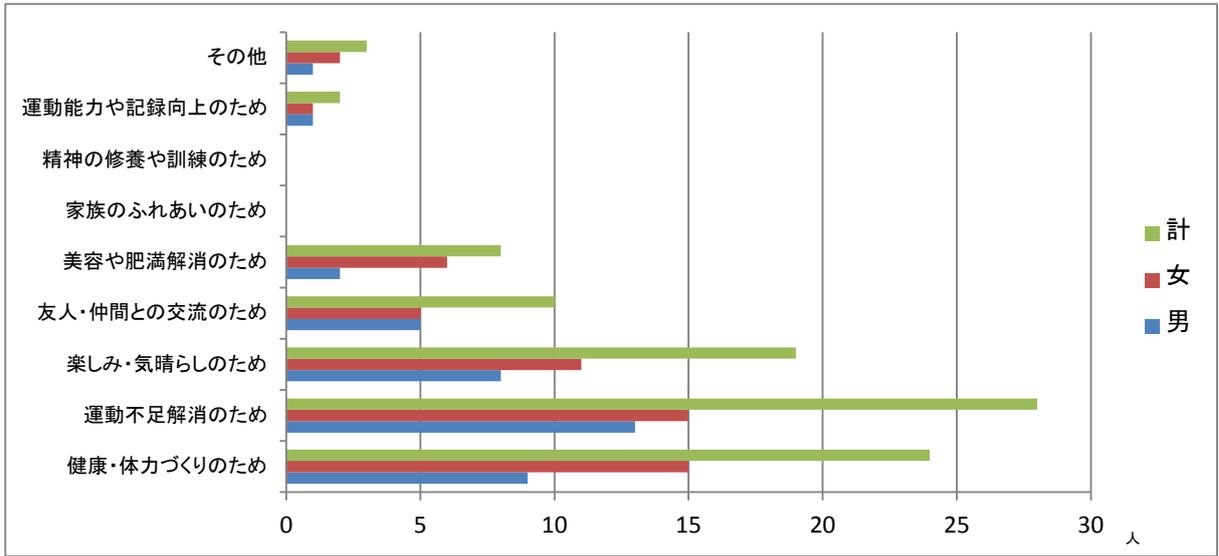
30歳代



40歳代

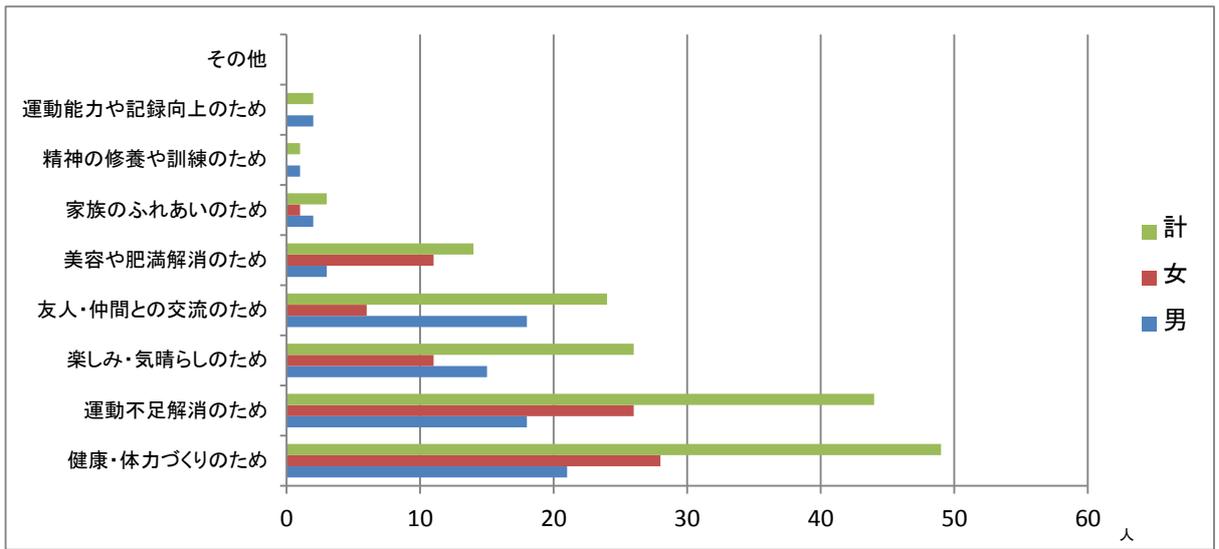


50歳代



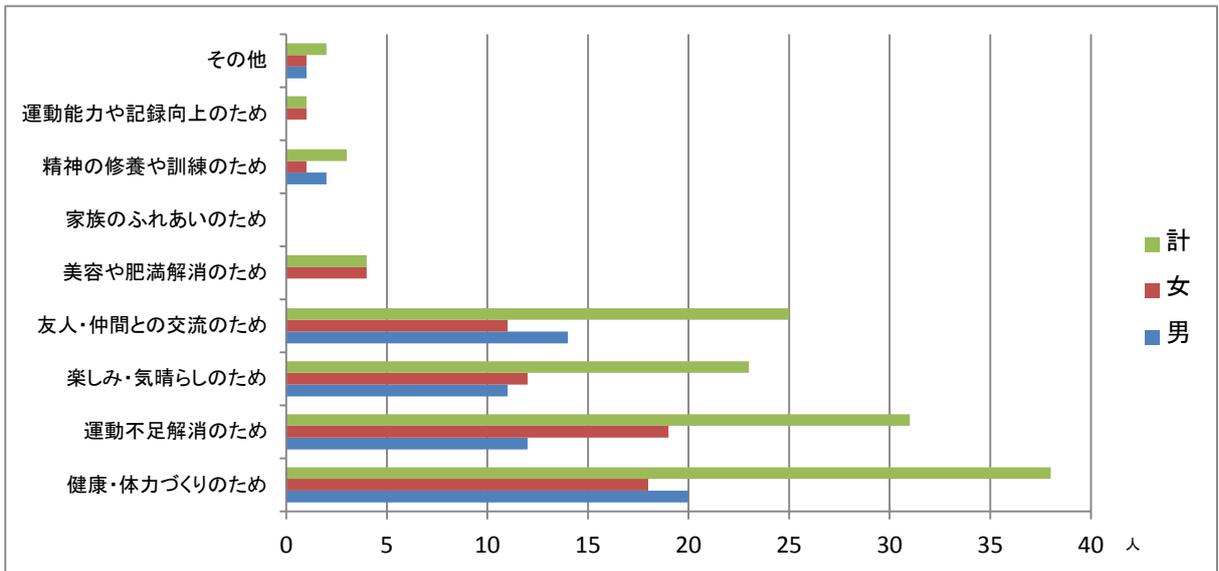
- ・肩こり解消のため
- ・マラソンを走るため
- ・おどりたい
- ・犬の散歩

60歳代



- ・体をほぐすため、体操により怪我を防ぐため

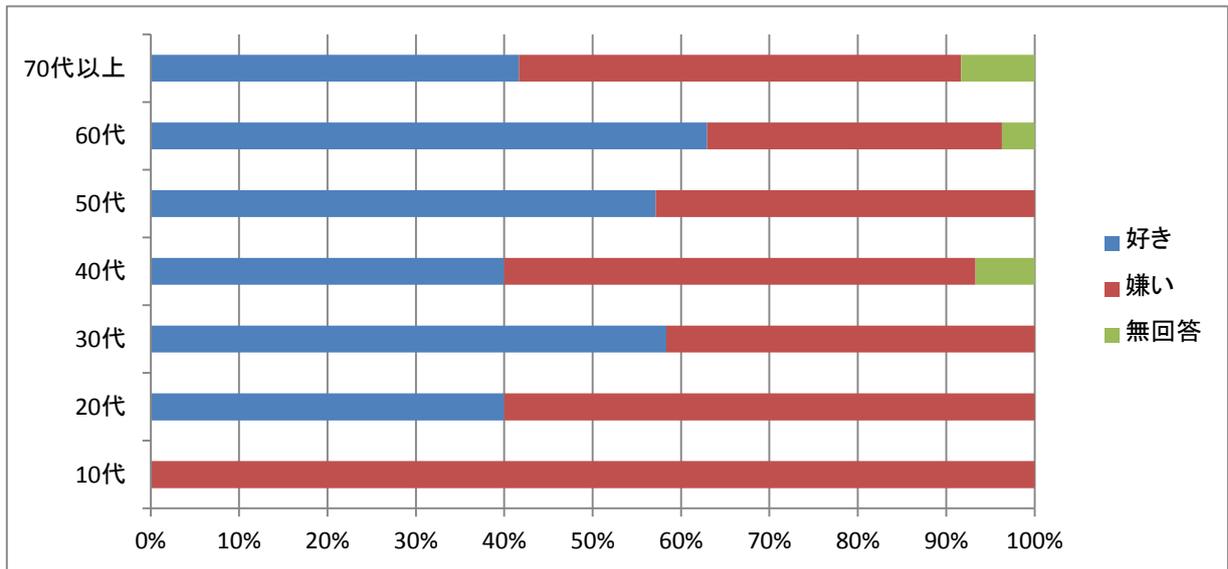
70歳代以上



- ・認知症予防
- ・ウォーキング等習慣
- ・犬の散歩と合わせ

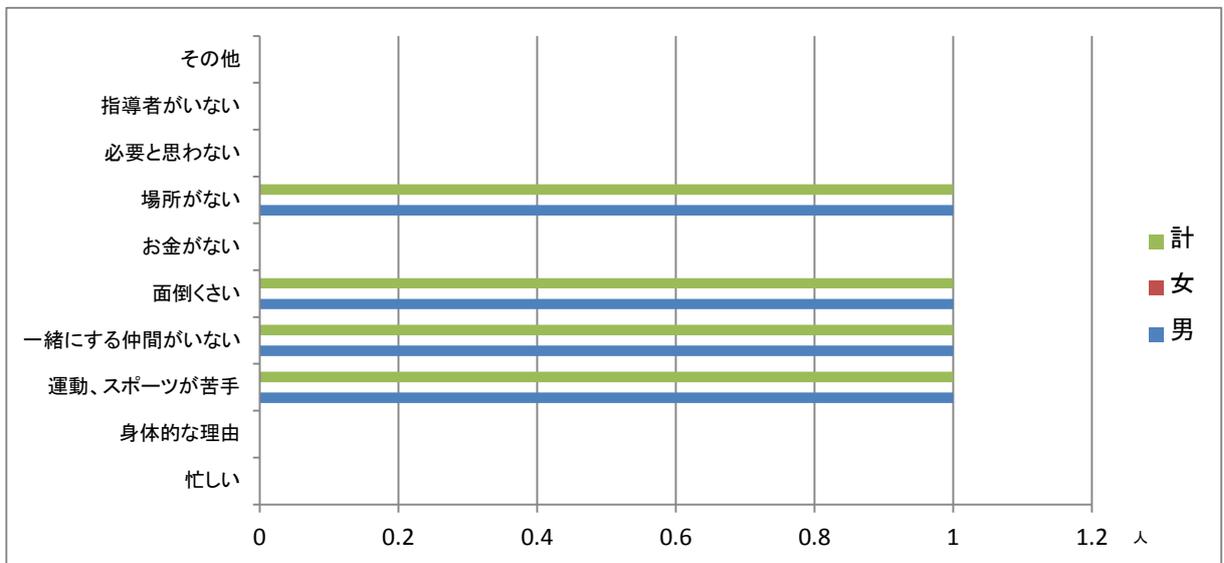
問1で「7」と答えた方

問3-① あなたは運動・スポーツをするのが好きですか？

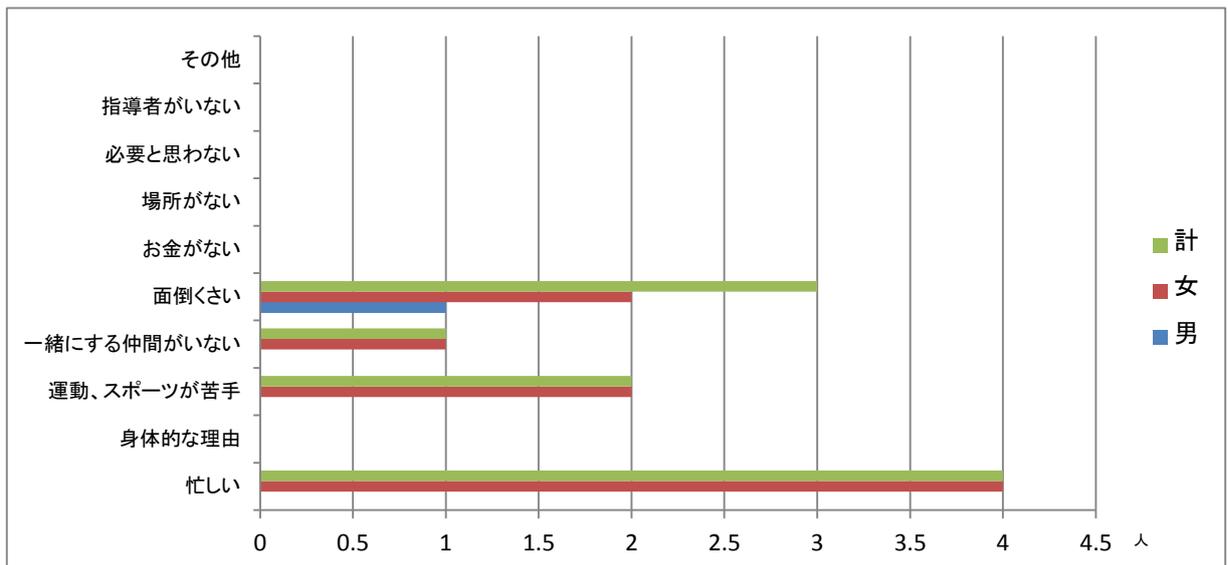


問3-② 運動・スポーツをしない、できない理由は何ですか？(複数回答)

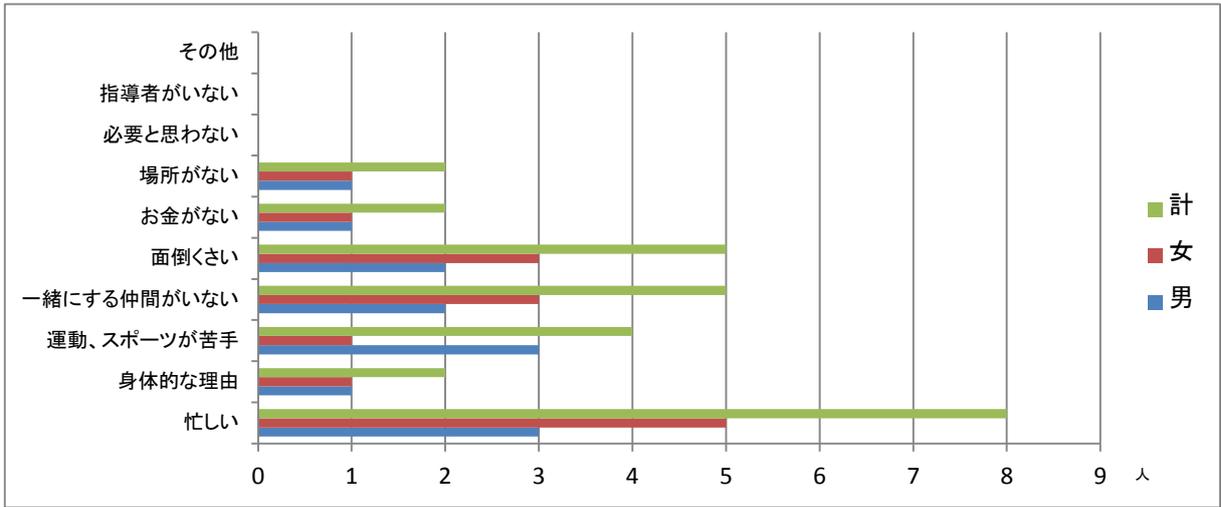
10歳代



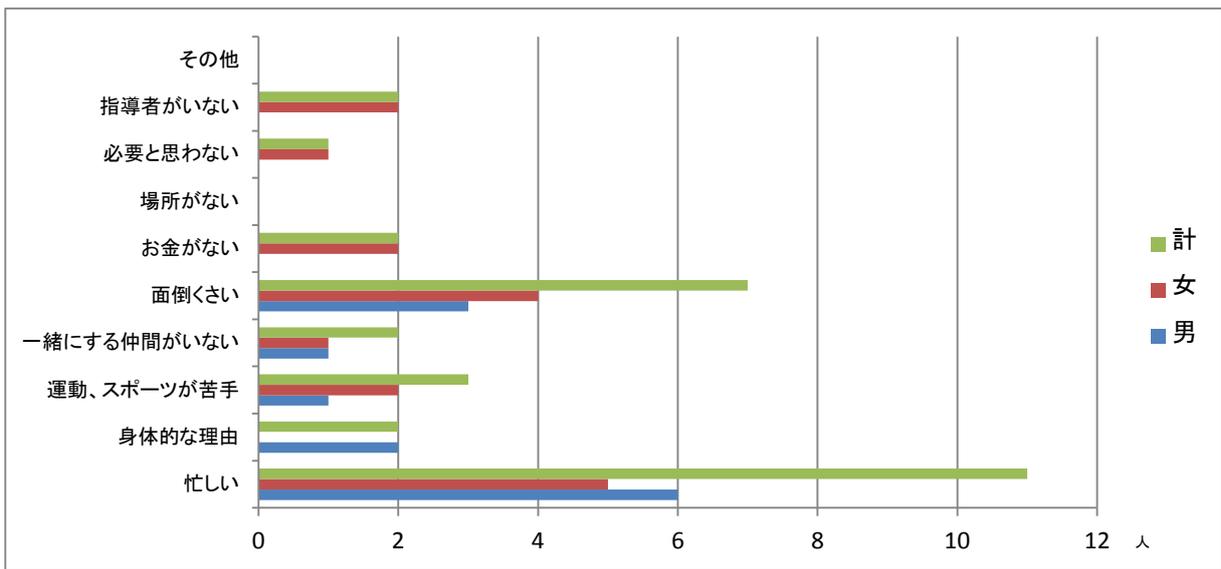
20歳代



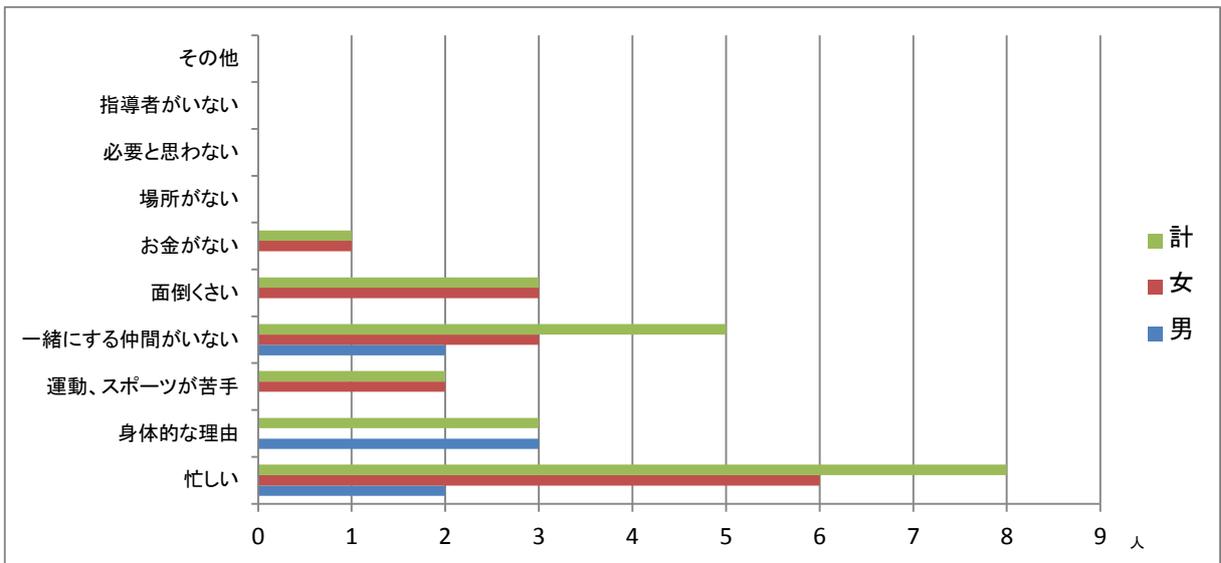
30歳代



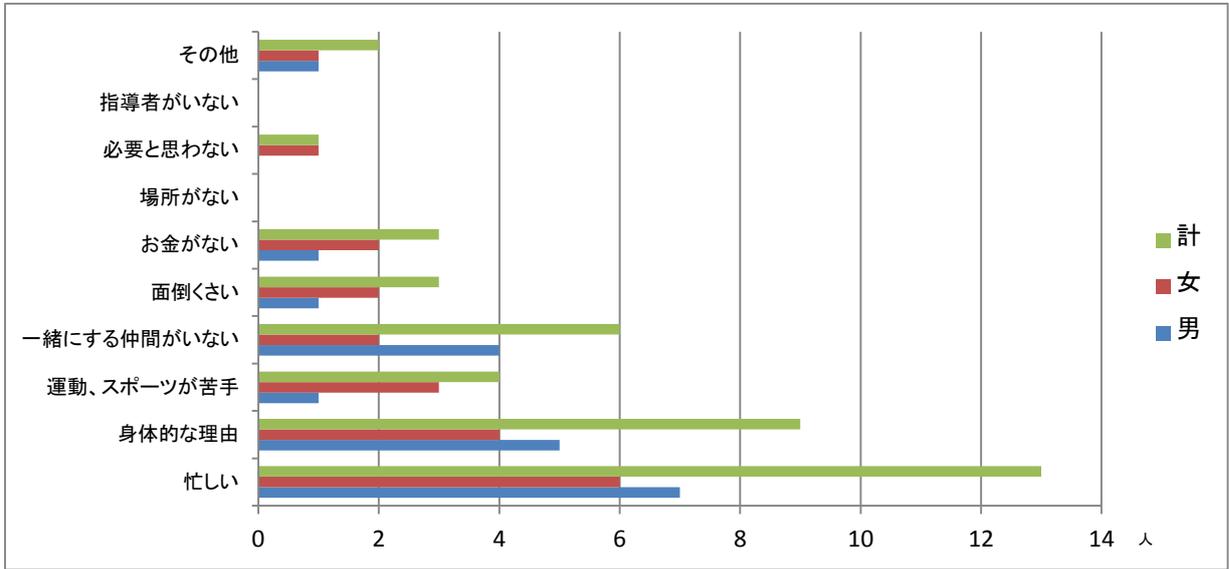
40歳代



50歳代

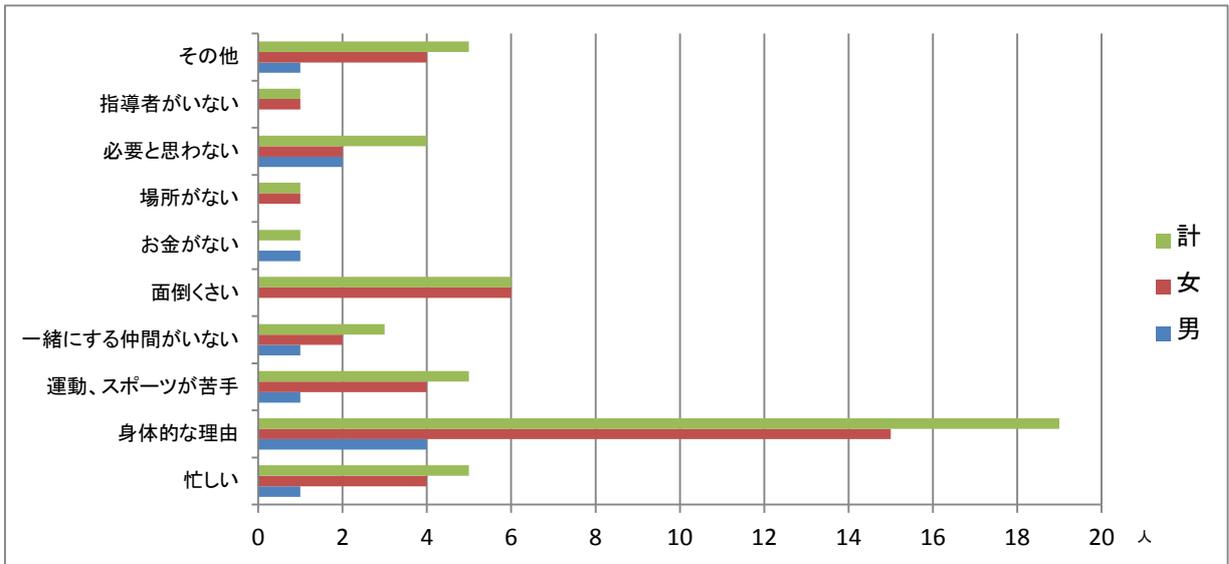


60歳代



・体が不自由

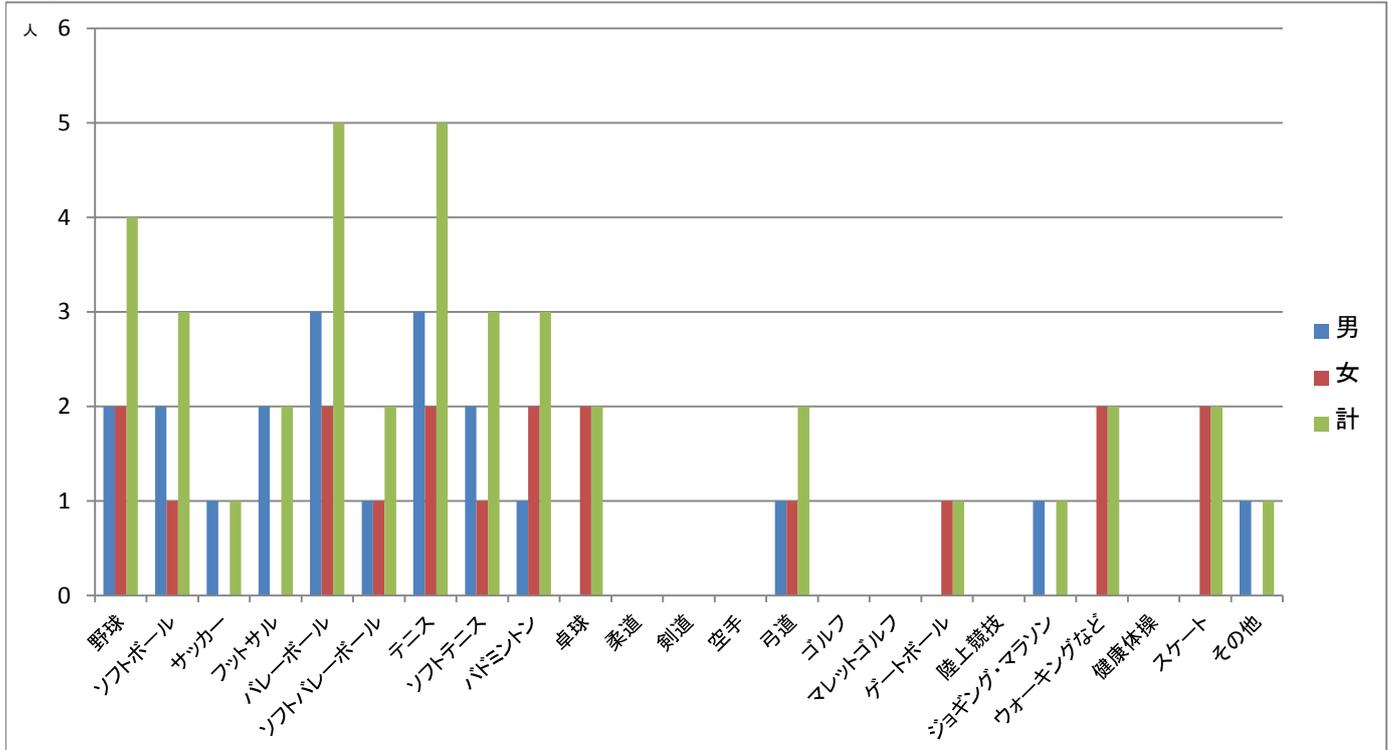
70歳代以上



- ・高齢のため
- ・運動したいけど、体力がついていかない
- ・年を重ねたので何も出来ません。しかし見ることは大好きです。1月2、3日の大学マラソンには力が入ります。
- ・老人施設に入所
- ・80代

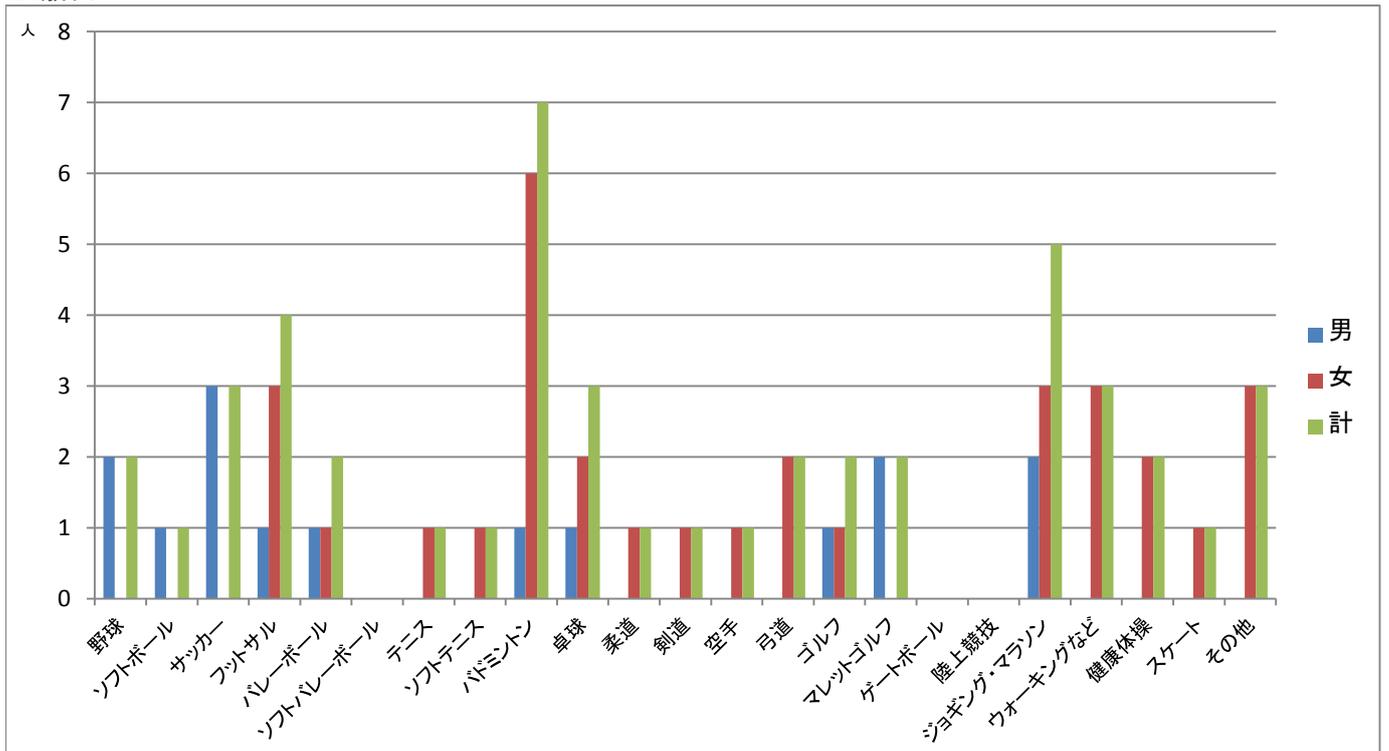
問4 今後、取組んでみたい運動・スポーツはありますか？(複数回答)

10歳代



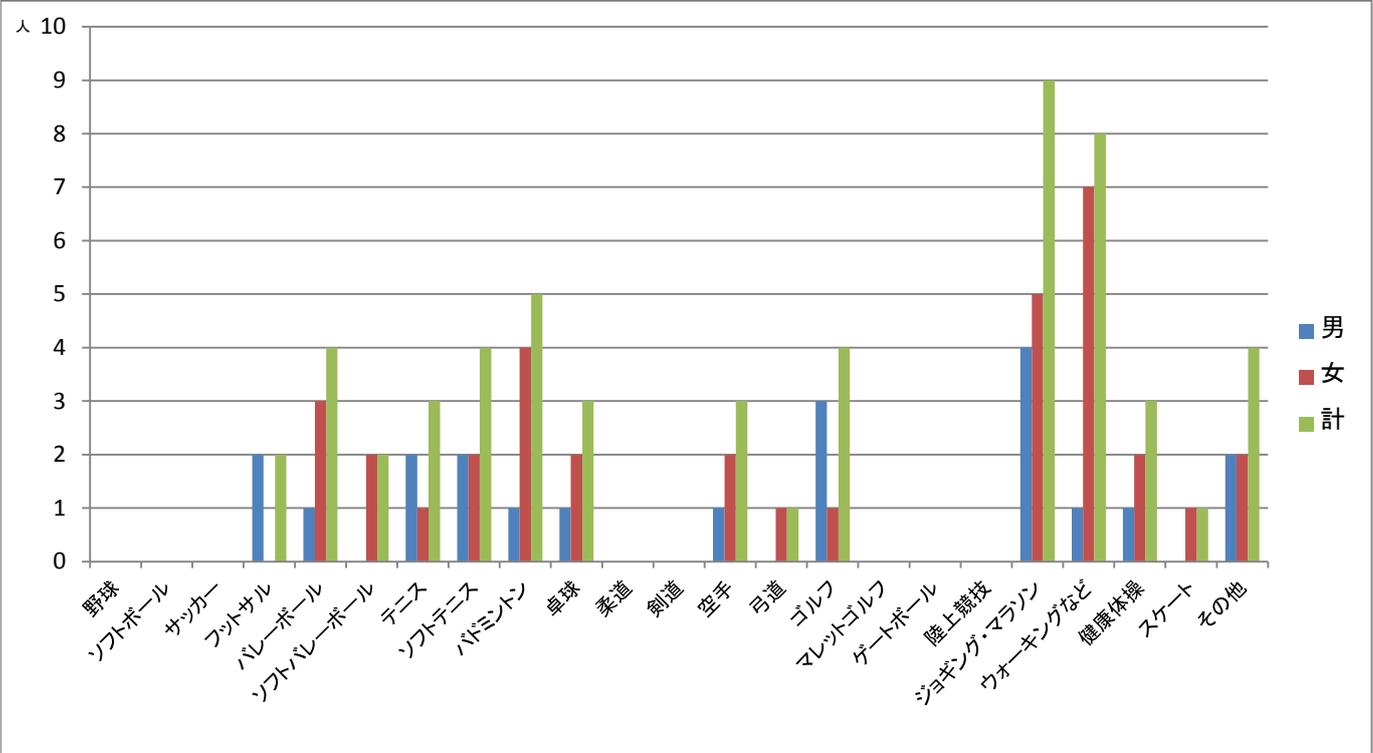
- ・バスケットボール
- ・いろんなスポーツをやってみたい

20歳代



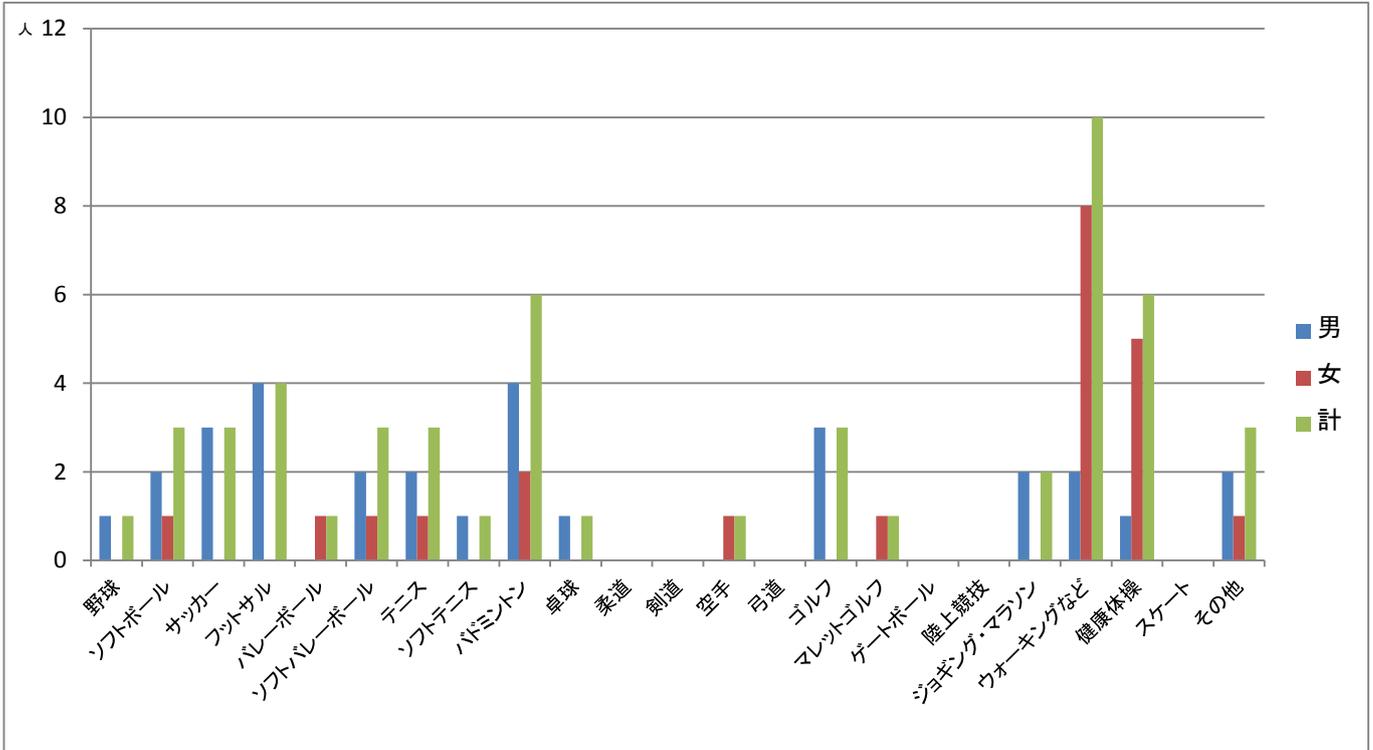
- ・ボルタリング
- ・パラグライダー
- ・バスケットボール 2人
- ・水泳
- ・柔軟体操

### 30歳代



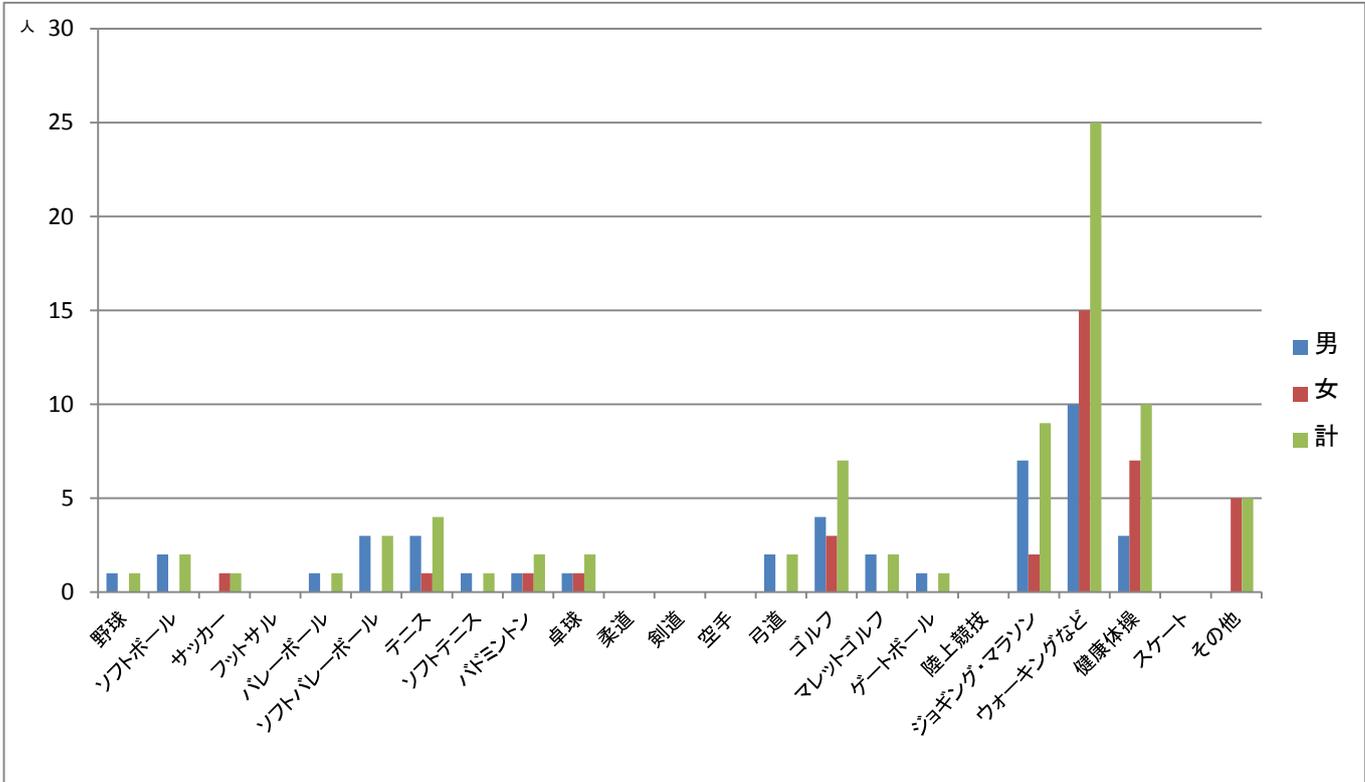
- ・町内でのトレイルランニング
- ・スラックライン
- ・自転車
- ・ヨガ、ティラピス
- ・水泳

### 40歳代



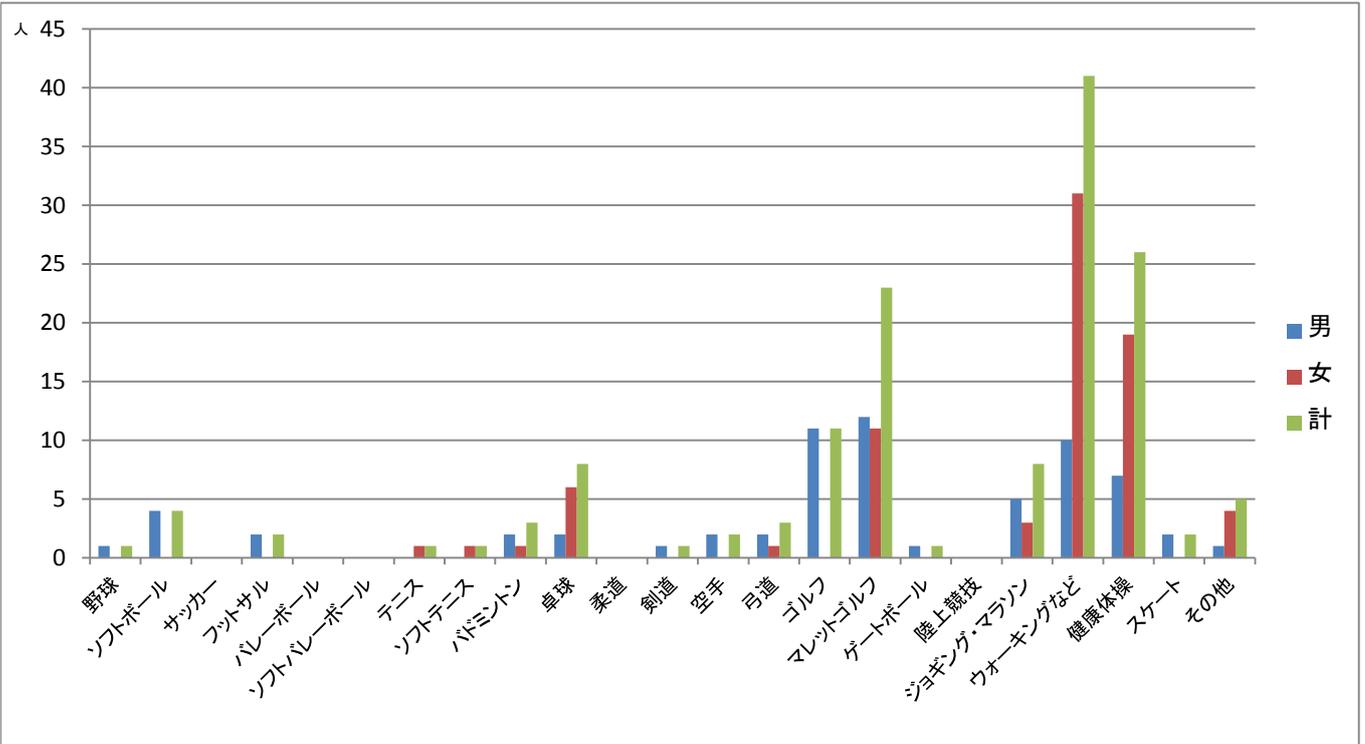
- ・ヨガ 2人
- ・スラックライン

### 50歳代



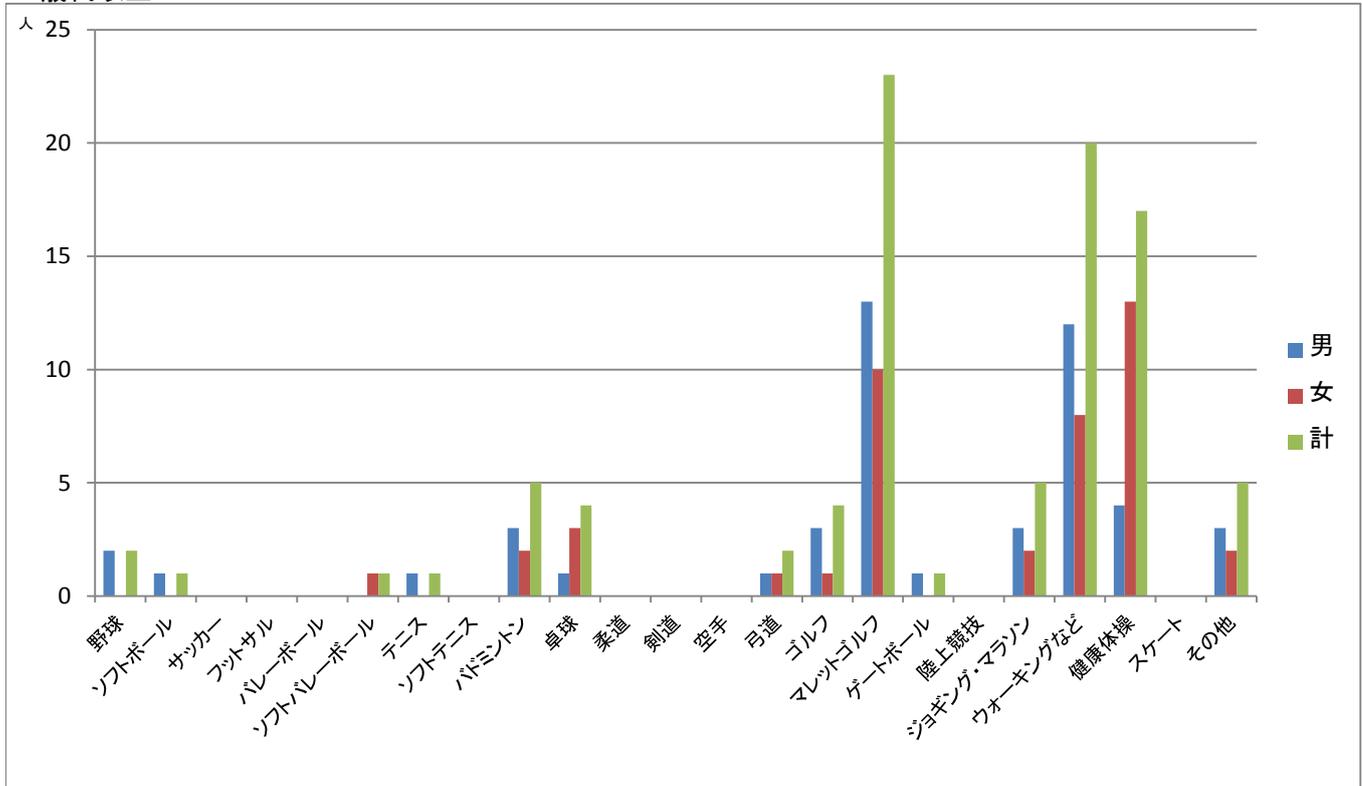
- ・ヨガ 3人
- ・水泳 3人

### 60歳代



- ・登山 3人
- ・トレッキング 2人
- ・ボルタリング
- ・サイクリング 2人
- ・気持ちはありますが、ひざが悪いのでスローな動きしかできません
- ・ヨガ
- ・バレエ
- ・ラジオ体操

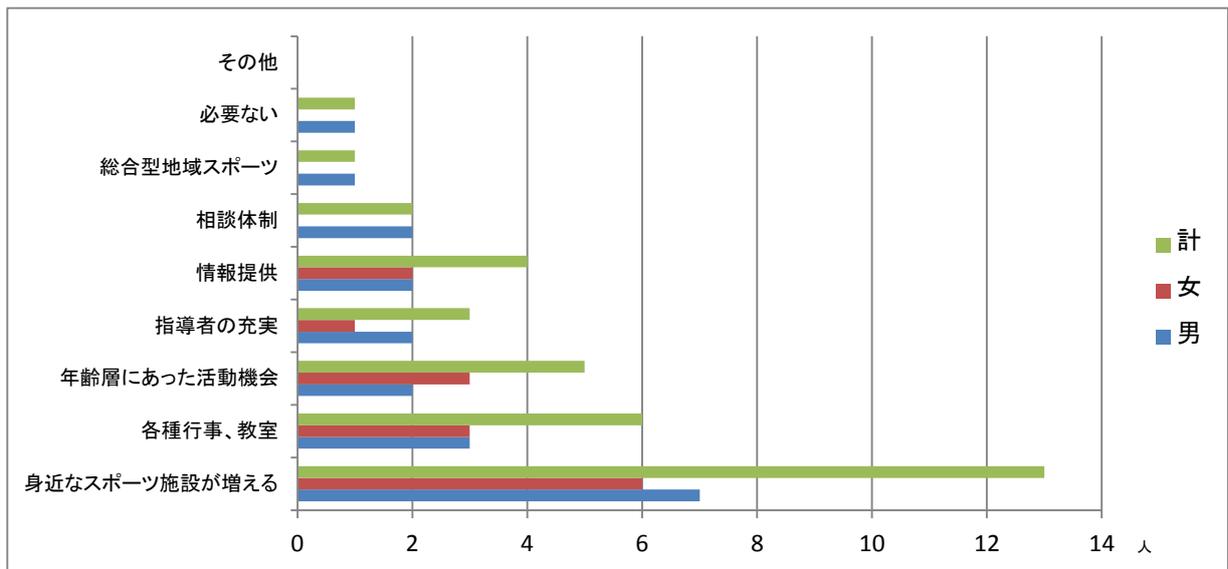
70歳代以上



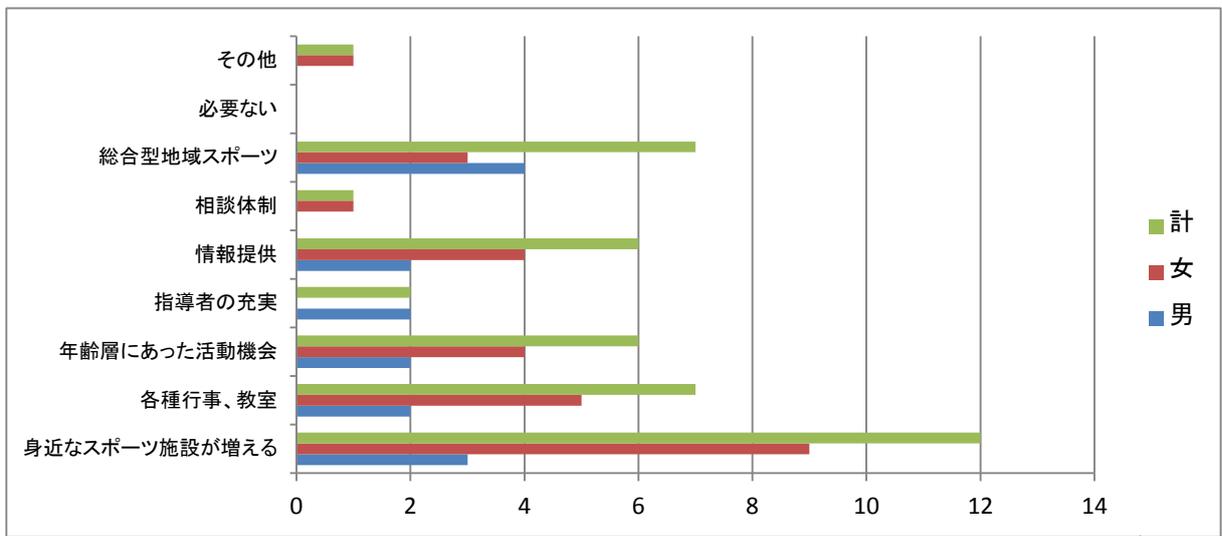
- ・室内軽スポーツ  
・ゴルフ、マレットゴルフ
- ・ウォーキング  
・山歩き
- ・お手玉

問5 スポーツ振興のために、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

10歳代

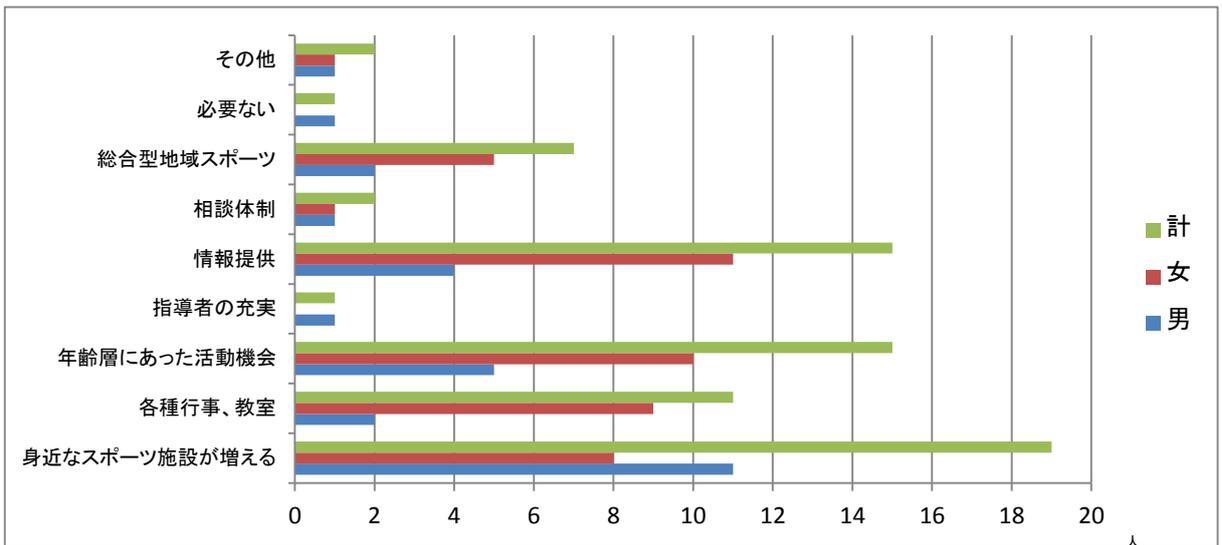


20歳代



・わかりません

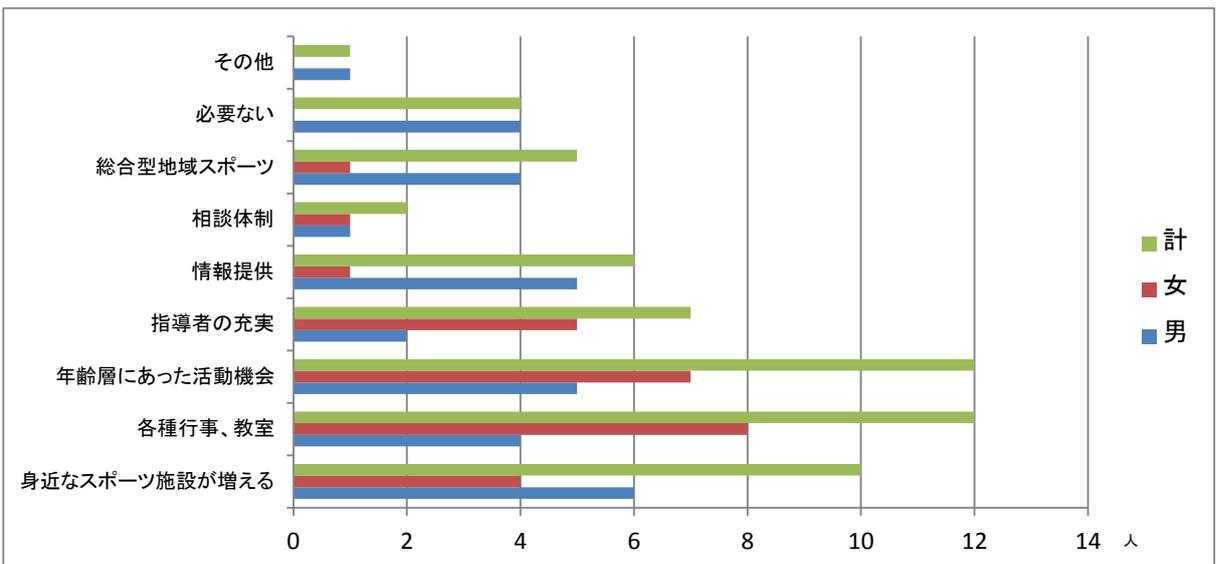
30歳代



・昼間体育館の自由利用

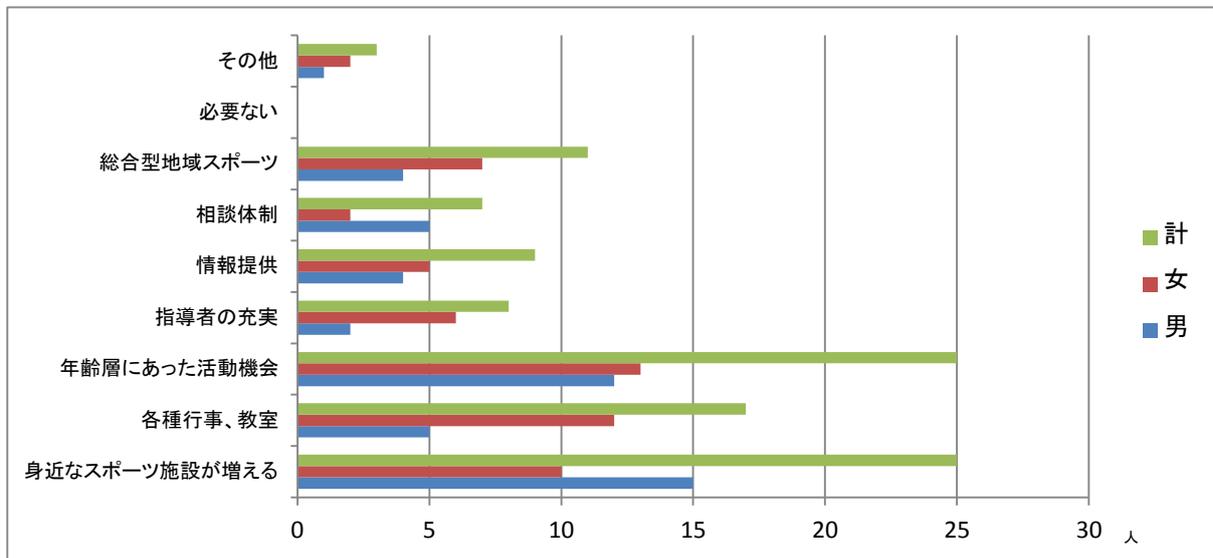
・親子で一緒にできる環境

40歳代



- ・運動＝スポーツという短絡的な発想からまず抜け出せるよう、啓蒙が必要
- ・必要やっている人が「楽しいよ」とたくさんの人に声をかける
- ・ニュースポーツ

## 50歳代



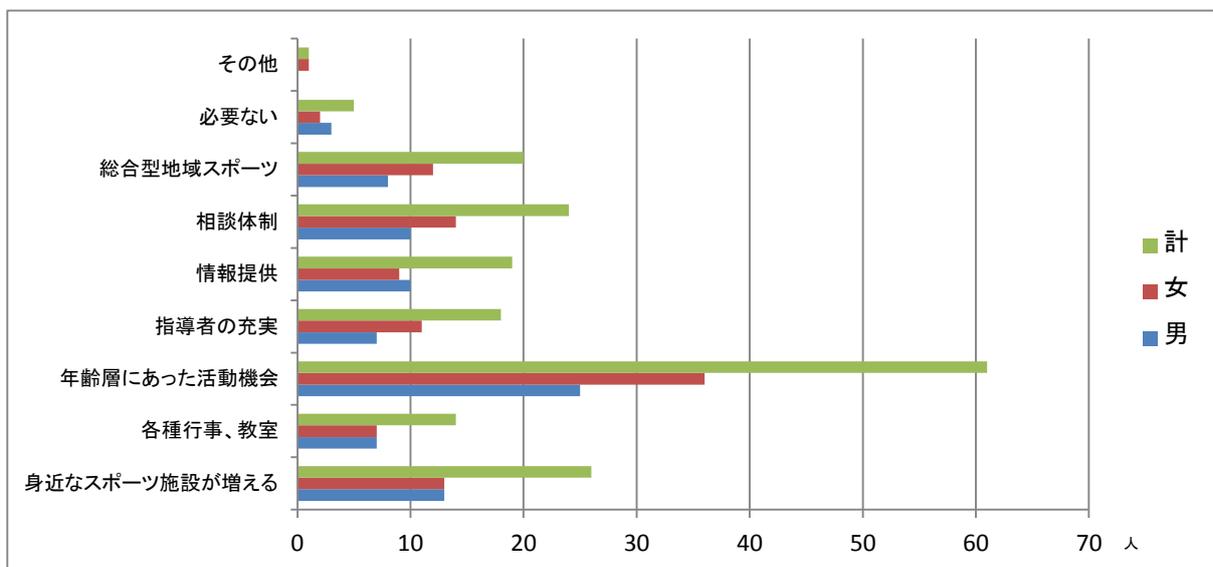
・お金がかからず出来ればいい

・ちゃんとしたスポーツ振興もよいと思いますが、犬の散歩、ウォーキング(ジョギング)などを行っている人をよく見かけるので、そうした人を支援するような対応を考えてもらえるとよいと思います。

・ジョギングコースやサイクリングコースが整備されれば行きやすい。また、景観の良い所などの休憩所などハイキングコースを設置しても参加しやすいかと思います。

・ポイント制度

## 60歳代

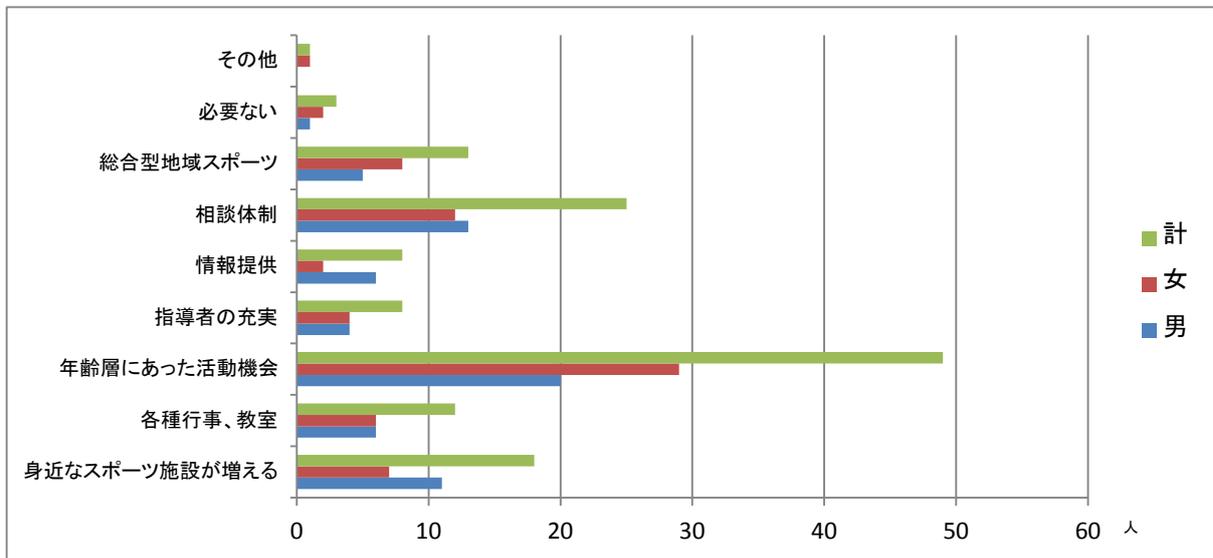


・山歩きが好きなので、しおじ自然園、中小川登山道の整備をしていただければ、毎年でも越百に登りたい。傘山もよいが、少し物足りない。(御嶽コースはトレッキングにはよい)

・これから一から始める場合、とりかかりのタイミングやきっかけがつかめなくて始められない人もいるのではないかと思います。(少なくとも私はそうです。年齢的なや仲間など)

・施設を増やしても費用がかかるし運営も大変お金がかかるので、やめてほしい。

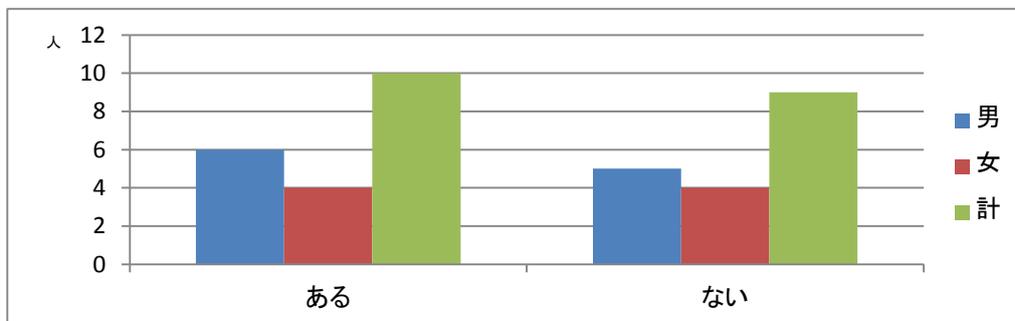
70歳代以上



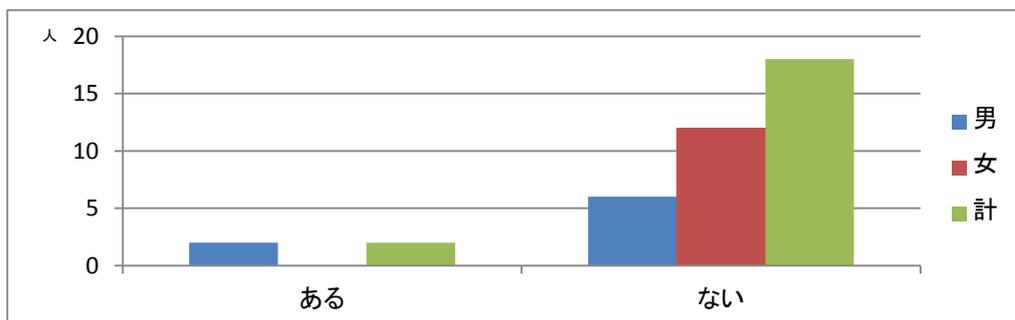
- ・高齢者が集える場を作り、体を動かす機会をつくる
- ・各耕地ごと室内外のスポーツなら参加しやすい
- ・当町には施設をつくらなくても、できることはいくらでもある。競争レベルを増長するような競技はさげたい。自主性の増長教育。

問1 「体育館開放日(旧:ファミリースポーツの集い)」を利用したことがありますか？

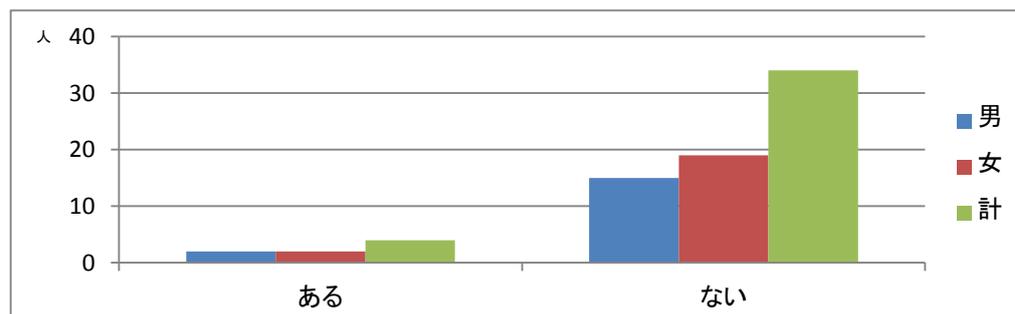
10歳代

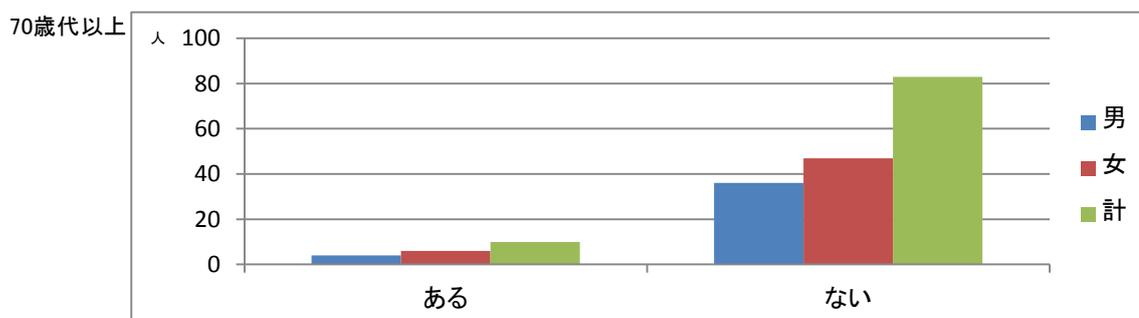
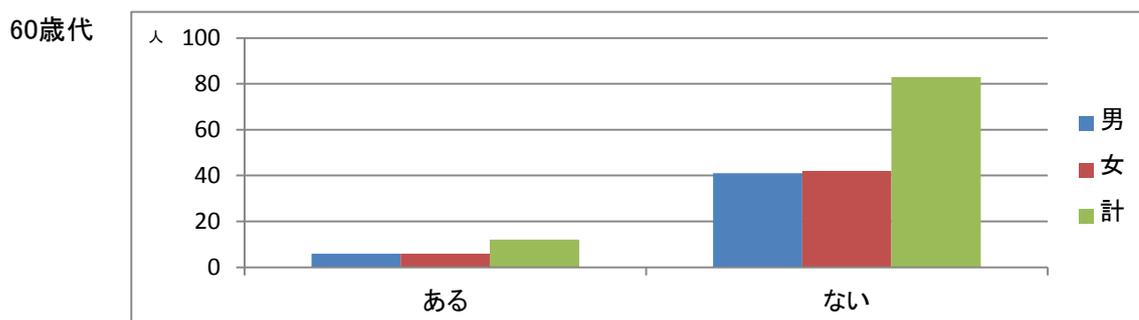
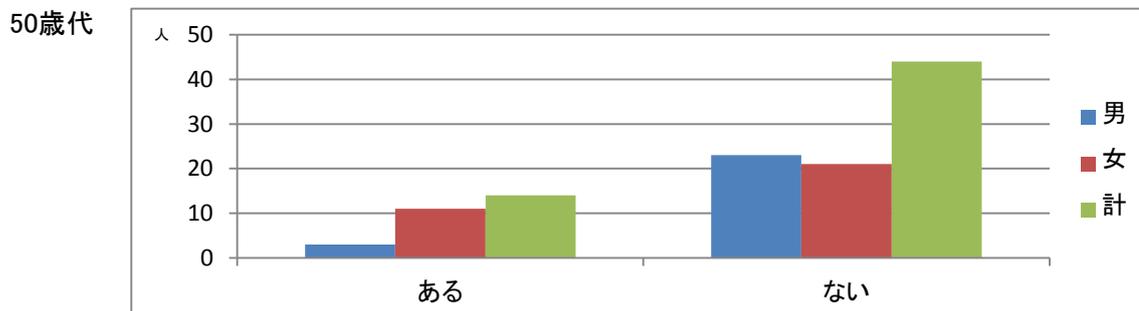
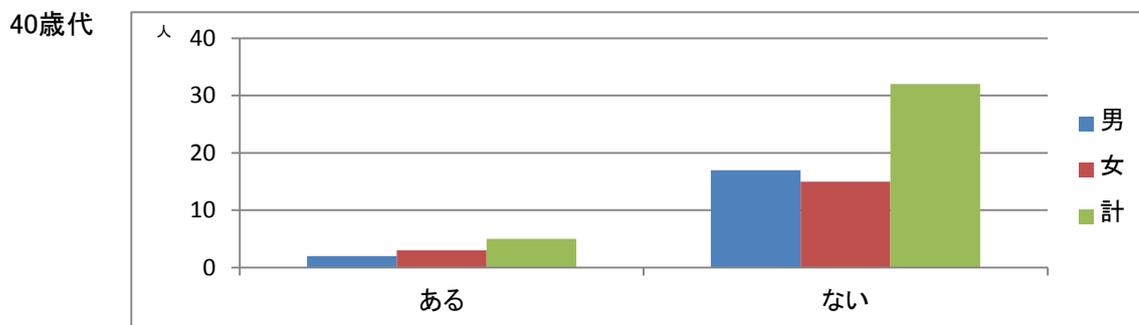


20歳代



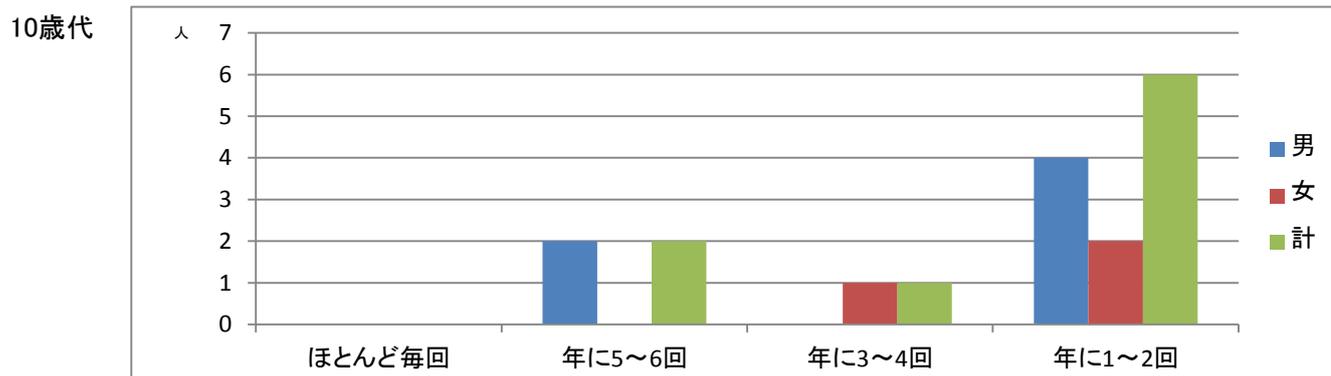
30歳代



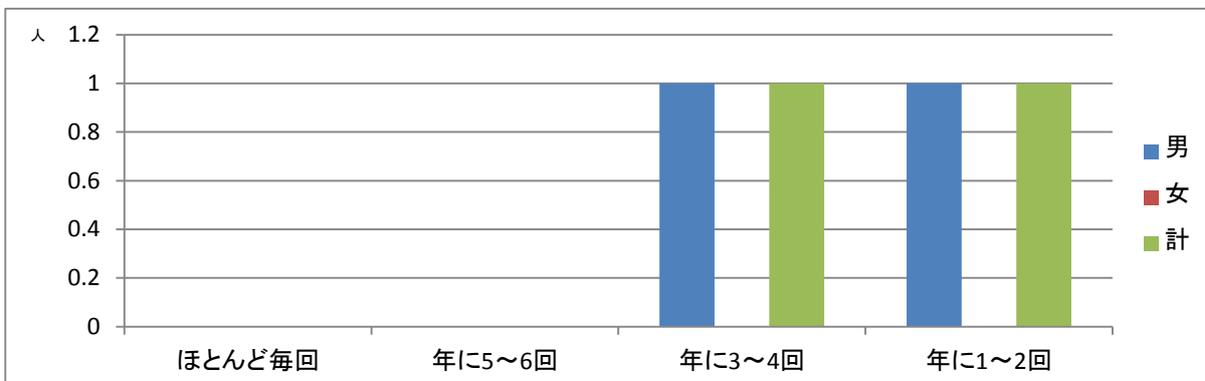


問1で「1」と答えた方

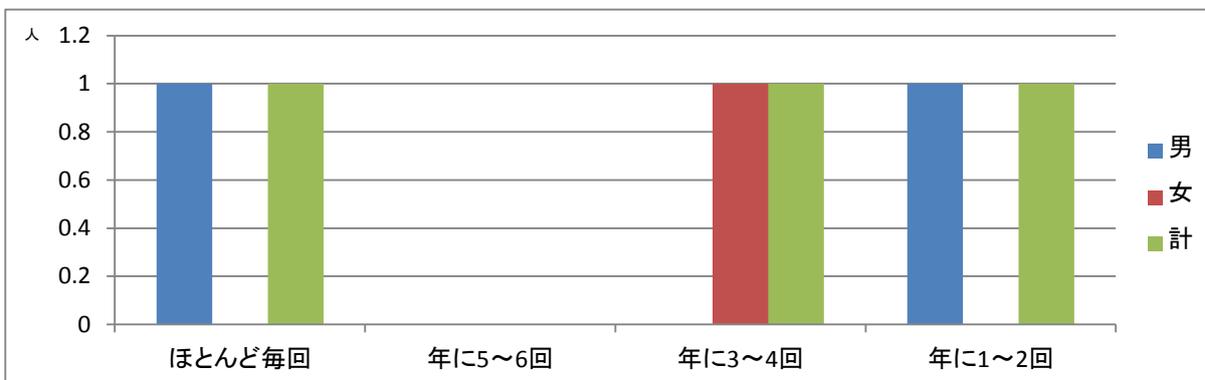
問2-① あなたはどのくらいの頻度で利用していますか？



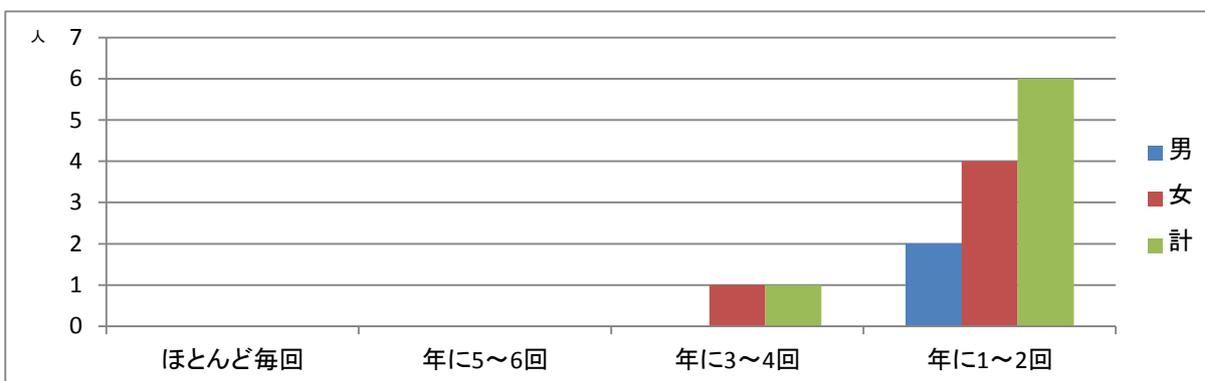
20歳代



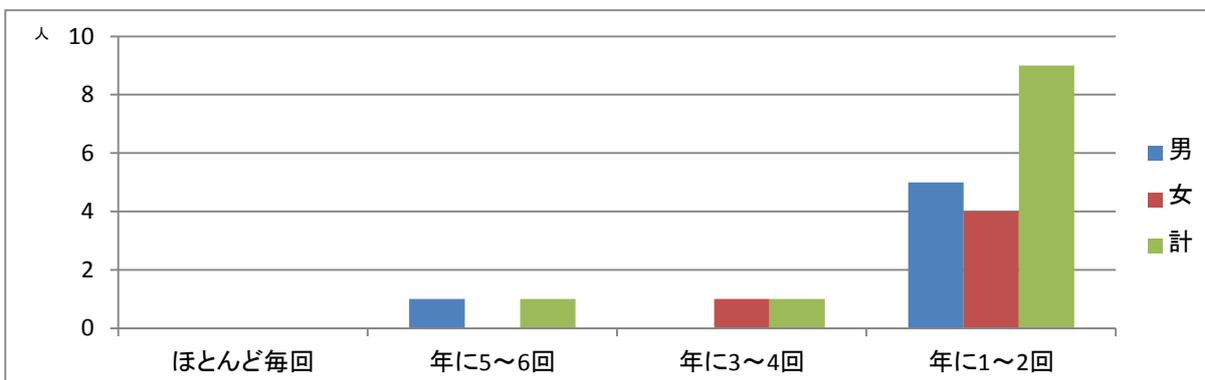
30歳代



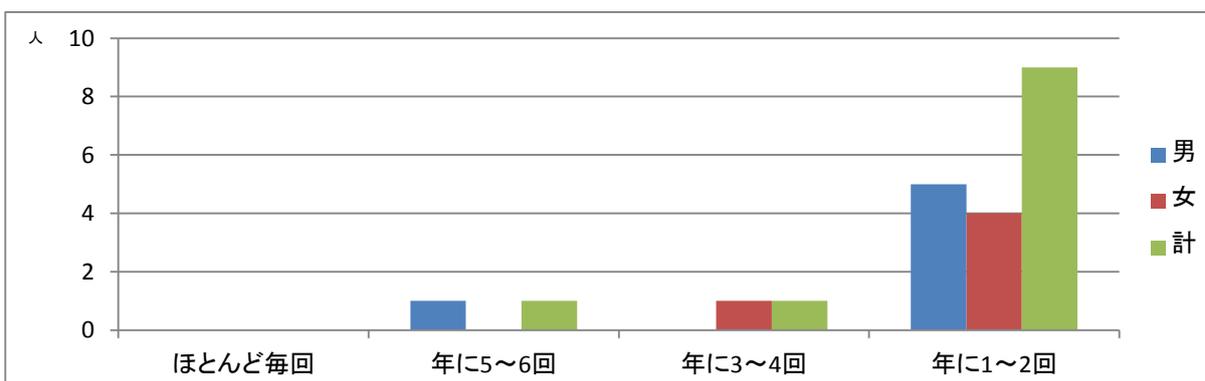
40歳代



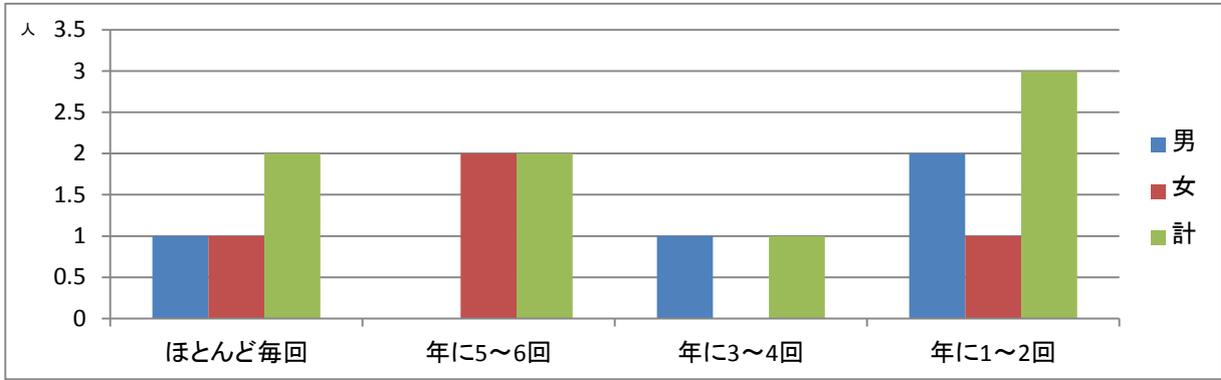
50歳代



60歳代

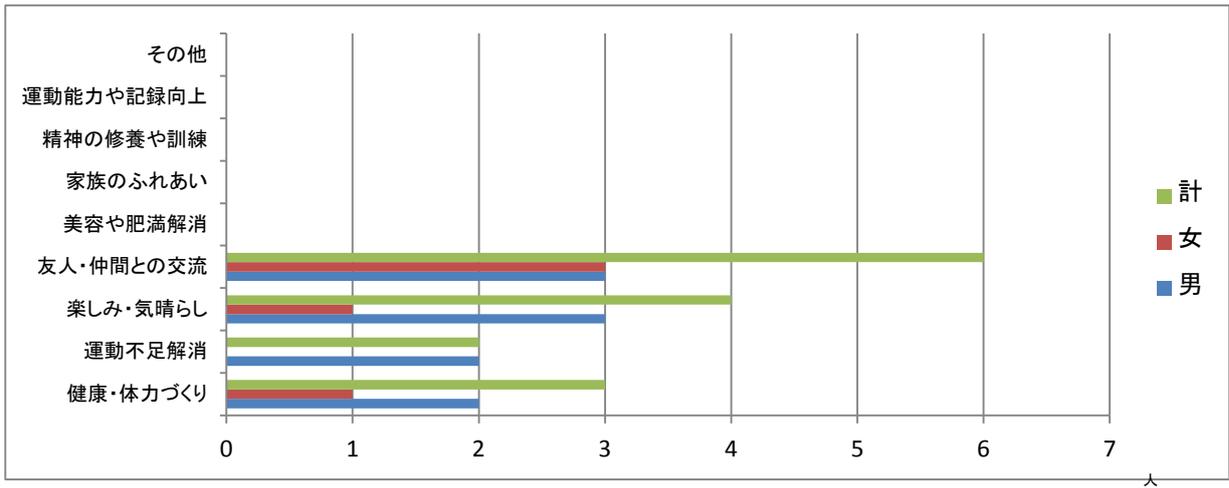


70歳代以上



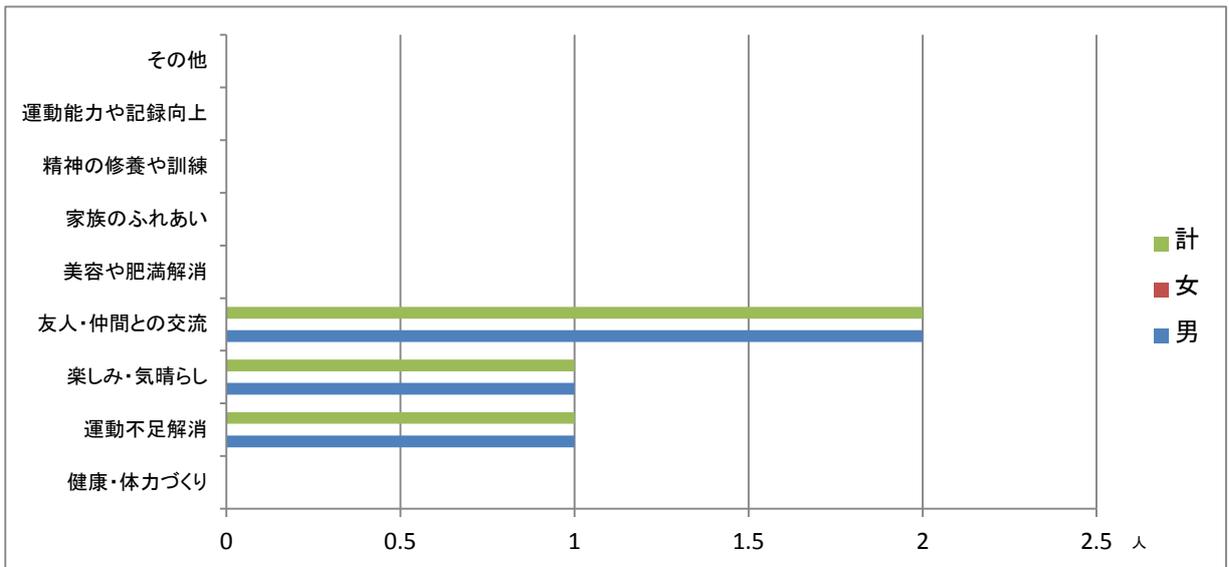
問2-② あなたはどのような目的で利用していますか？

10歳代

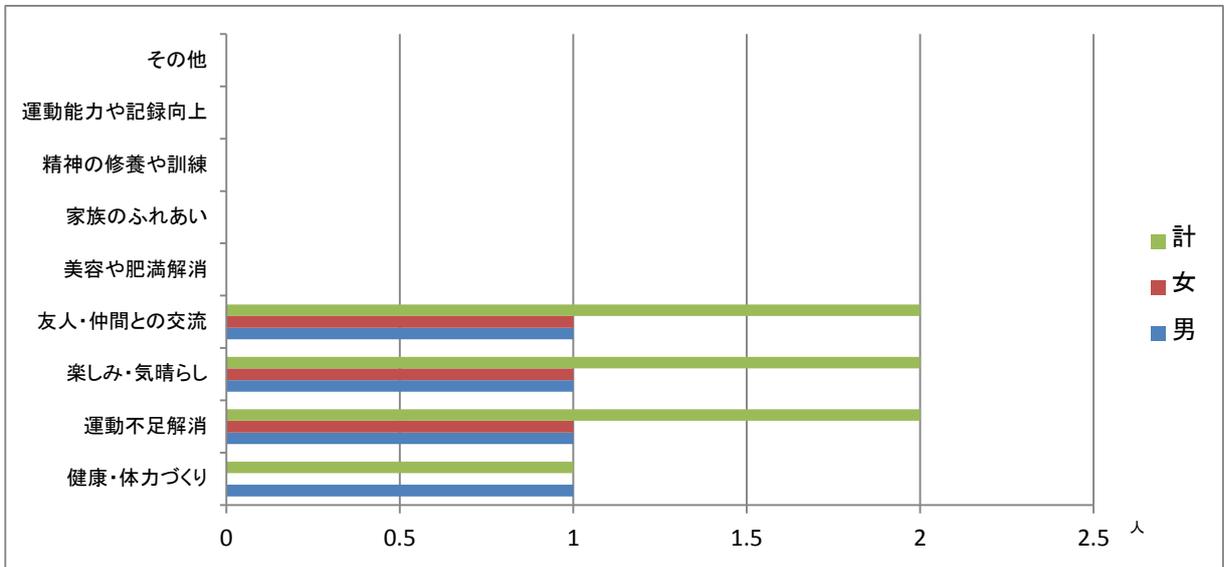


・小学校のとき毎回。今は行っていない。

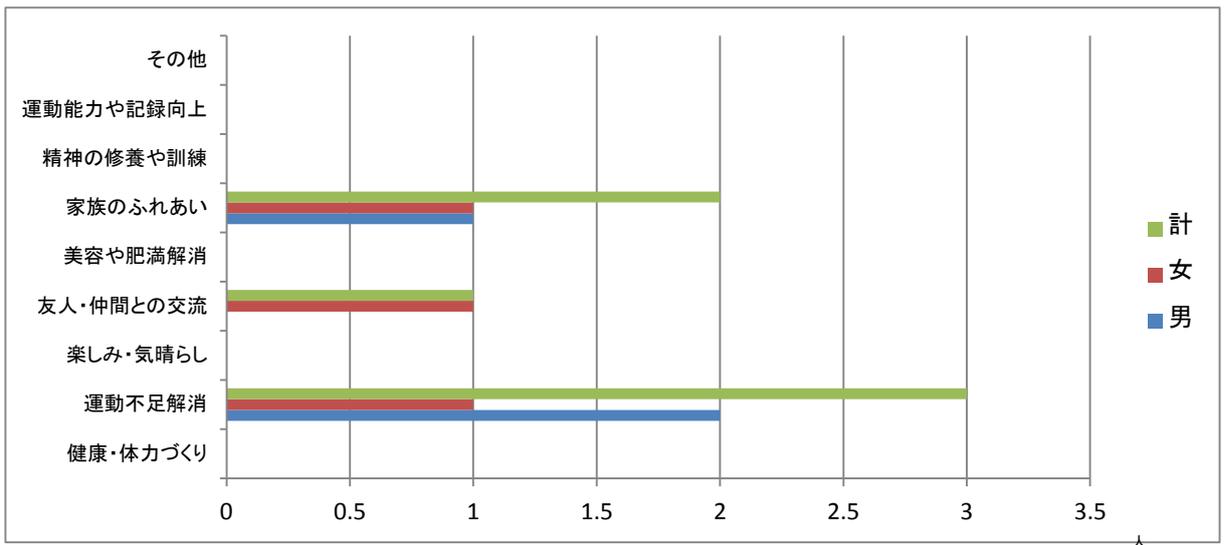
20歳代



30歳代

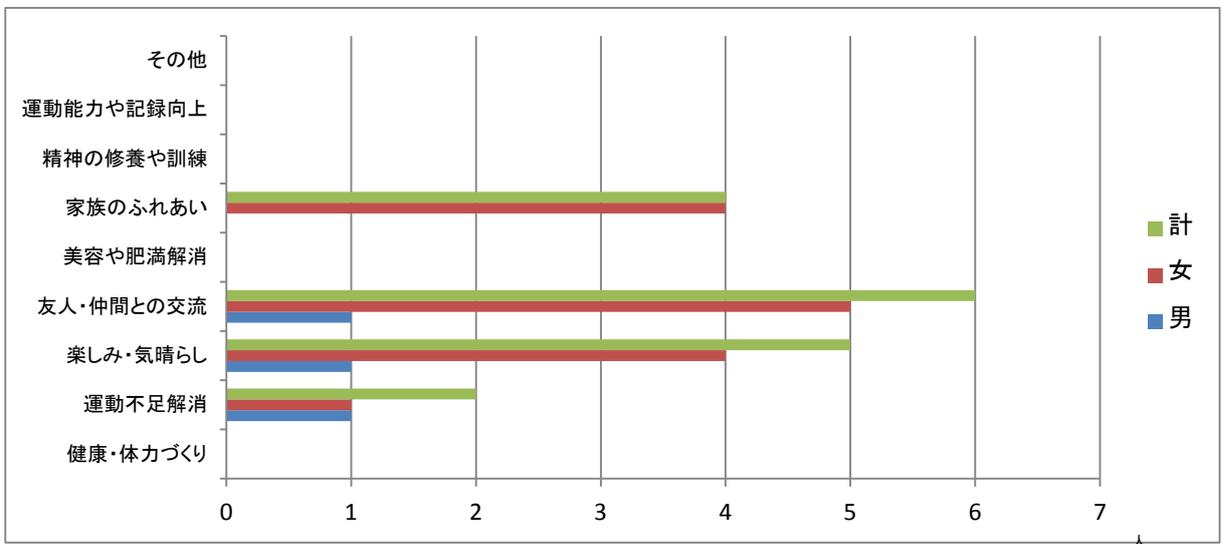


40歳代



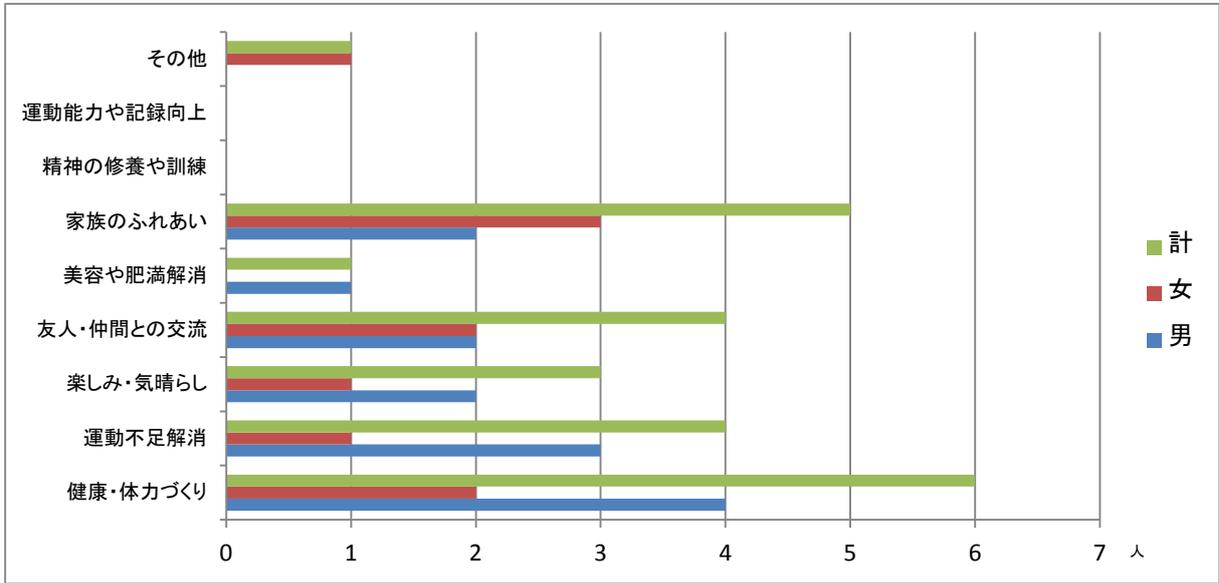
・公民館役員だったので、何回か行ってみました

50歳代



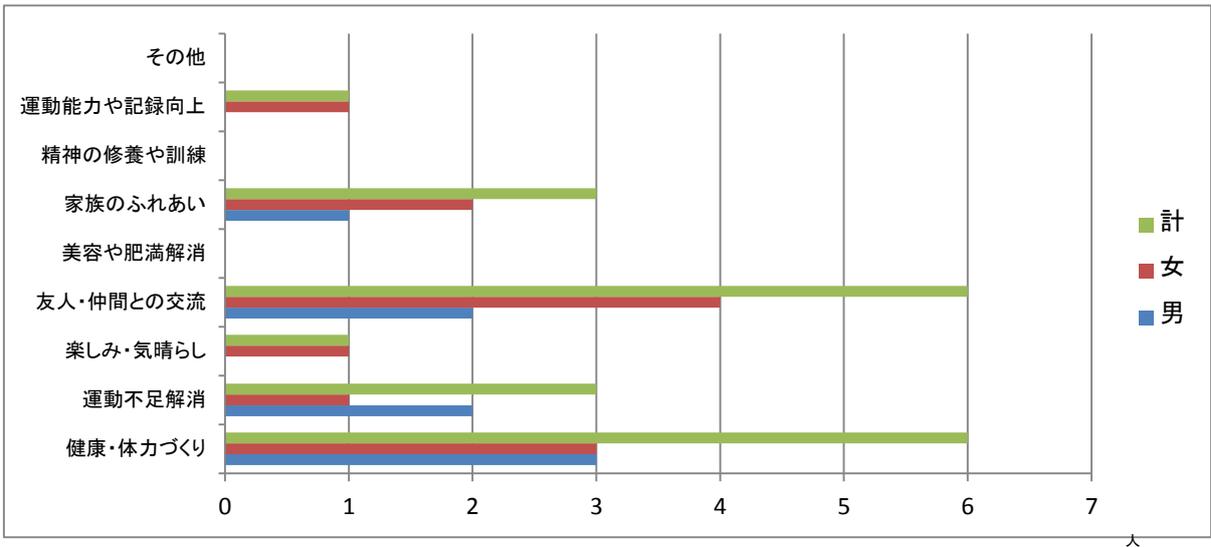
・子どもが小学校の頃に利用した。

60歳代



・係になったので

70歳代以上

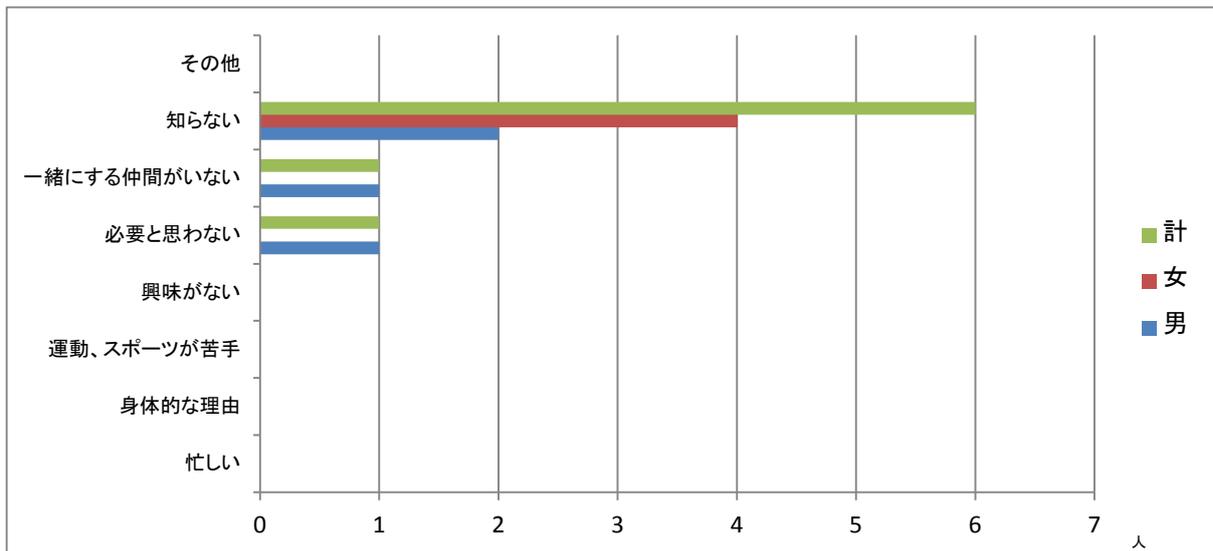


- ・始めた頃10年位は利用したが、現在は利用していない。
- ・もう後期高齢になったので行けない自分の耕地の老人会は出ている。
- ・5年前までは行って楽しんでいました。

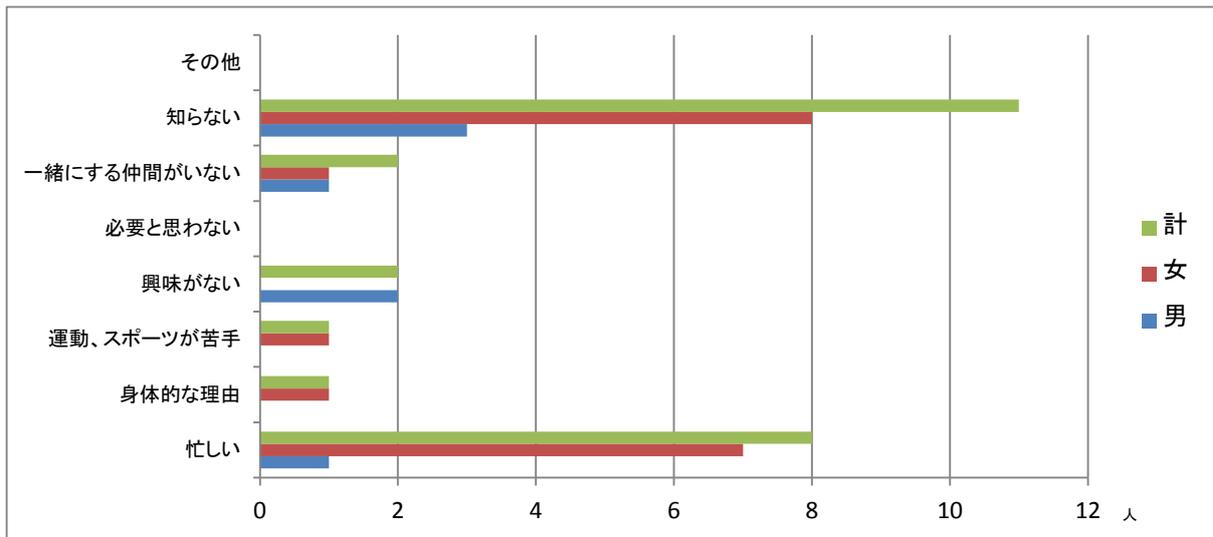
問1で「2」と答えた方

問3 問1で「2」と答えた理由は何ですか。(複数回答)

10歳代



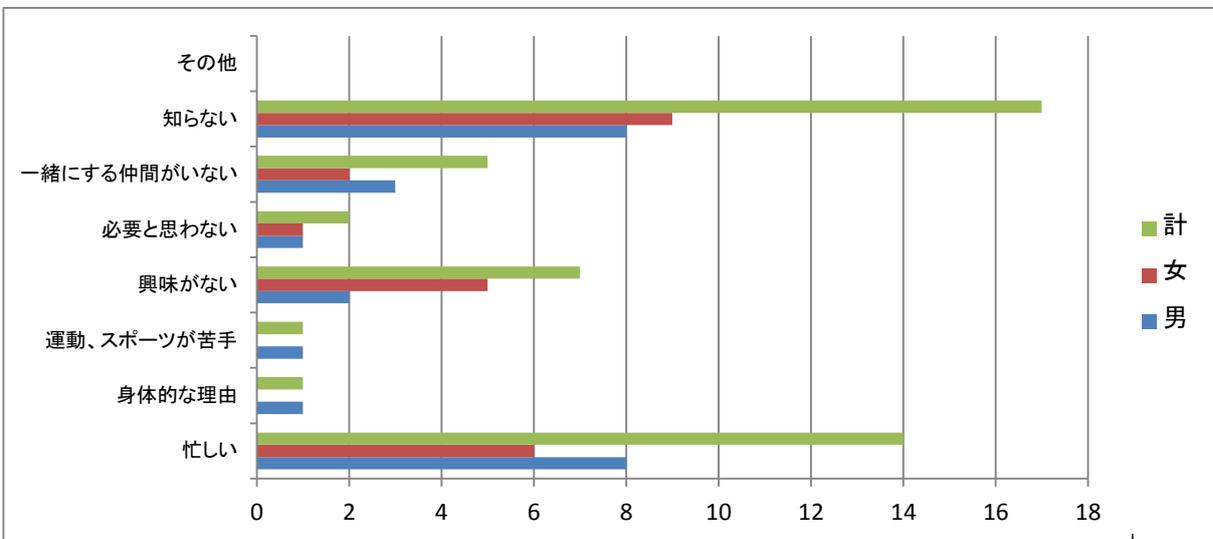
20歳代



・飯島町にいない(居る時間が少ない)

・ネーミングが悪い。内容が明確でない。

30歳代



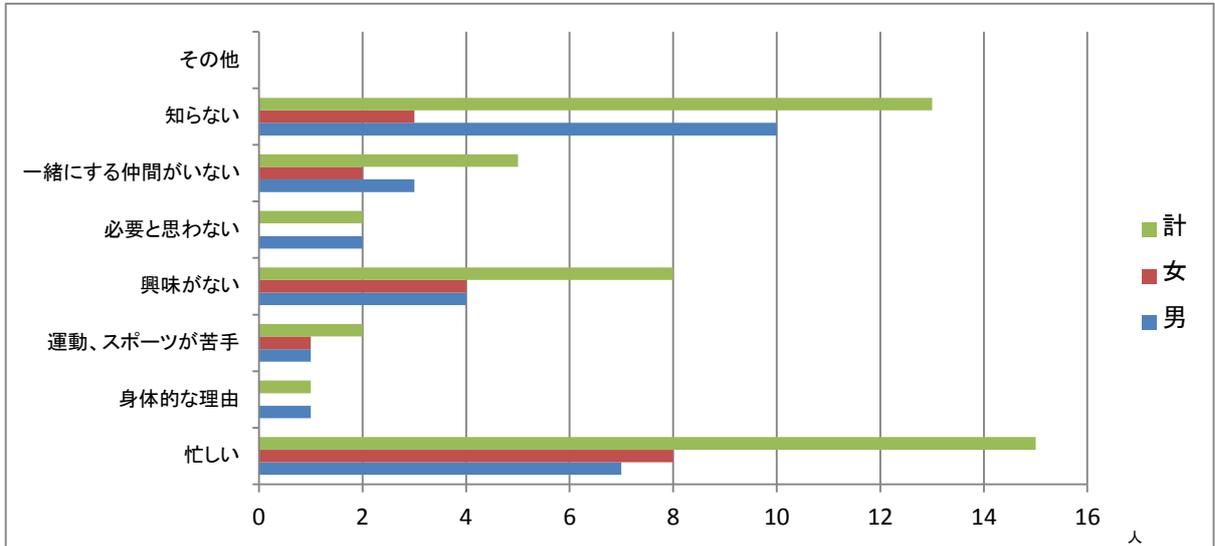
・利用できる時間が遅い。小さい子どもがいると夕方以降は利用できない。

・チームスポーツは運動が苦手な人には苦痛です。個人でも楽しめるものにしてほしいです。

・体育館開放日の事を知らなかった。

・内容を知らないため体育館開放日に目的があり行く事は可能ですが、体育館へ行ってできる事がないです。

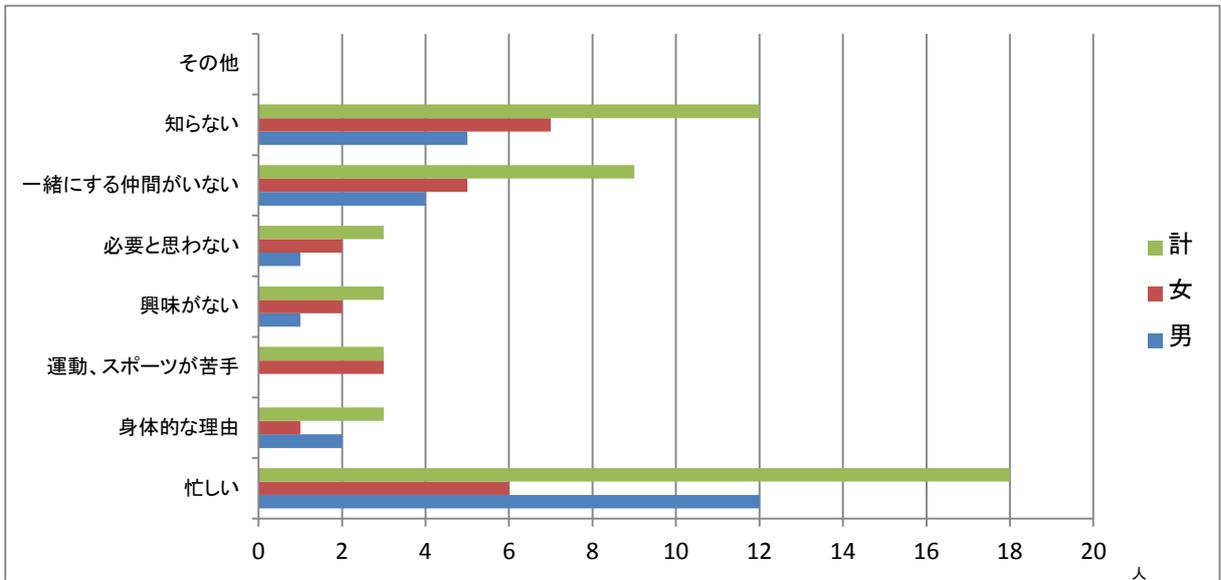
40歳代



・何をしているかわからない。楽しそうじゃない。(体育館と聞いて良いことが起きなさそうに感じる人間もいることを知ってください)

・家族で、会社のメンバーで体育館利用料を支払い使用していた。

50歳代



・仕事のため、飯島町にいない

・通常は単身で町外にいる

・体育館でスポーツというより、筋トレや体操など年配の人でも気楽に楽しめる教室を開いてほしい(ヨガ、太極拳)

・すべての年代の人が利用できるイメージがない。周知のやり方に問題があるのではと思います。

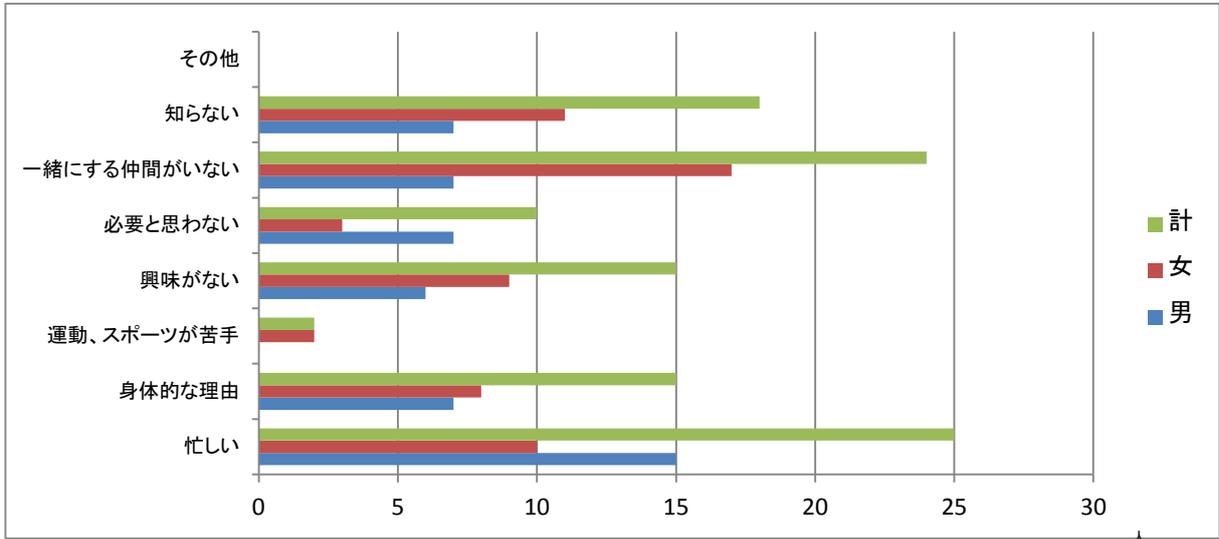
・自分の主催するスポーツ講座(毎週土曜日)のため利用できない。

・スポーツクラブに所属している。

・体育館ごとにある程度のスポーツの種類を決めて、いないと、体育館へ行ってもやりたいスポーツができない？

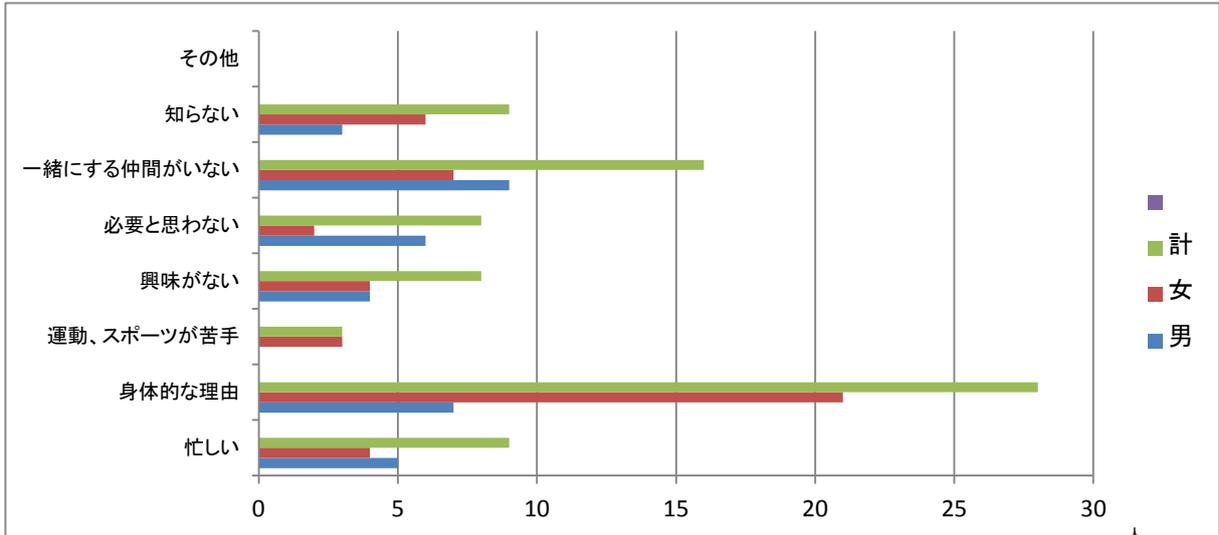
・体育館で何かスポーツをするっていうことがあまり思いつかない。

60歳代



- ・若い方が中心のようです。健康な人たちが楽しんで使えれば良いと思います。体育館を開放しても、決まったグループが使うと誰でもという訳にはいかなくなり、使用者は決まってしまう気もします。各スポーツごとに体育館を振り分ける事は？
- ・だんだん年とともに体育館を使ってまでするスポーツがなくなっている。
- ・足が悪いためスポーツができない。
- ・ゴルフは体育館では行えないため。
- ・健康、体力づくり、仲間の交流に月4回程、無理のない運動をやっているの、開放日は利用していない。
- ・球技等が好きでない。
- ・軽いスポーツをする習慣が身についていないので利用した事がない。
- ・知っていますが、行った事がないので、どの様に使用しているか？ですが。例えば、バレーをする、バスケをするとなると、コート半分を使うとしても、あと卓球をしたい。ソフトバレーをしたいとなると、どの様に、コートを使っているのでしょうか。
- ・夜だから若向きと居る
- ・行ったことはないのですが、バレーボールなどはやりたくないからです。他にもやれることはありますか？

70歳代以上



- ・老々となり、介護予備軍の状態となり普通の生活をするのがいっぱいです。
- ・年のせいで、体力がついていけないため
- ・1人で行ってみても、何をしようという事になる。仲間でも誘っていければよいが、なかなかそれも難しい。
- ・歳をとれば昼間でないとできない
- ・固定概念で指導したり、されるのは好きでない
- ・年齢的にできるスポーツがない。知らない。
- ・手術のあとで体調が悪い
- ・夜は寒い時期は出づらいついかな？暖かくなると夕方が外の仕事に精が出せるかと思うと？
- ・スポーツは見学するのがとても好きです。子育ての若い頃は夢中でしたが、今この年齢(74才)では駄目です。と同時に身体的な事もあるし、ありがとうございました。
- ・どちらかと言えば外での運動が好き。
- ・夜の外出はいや！昼に開放してほしい。